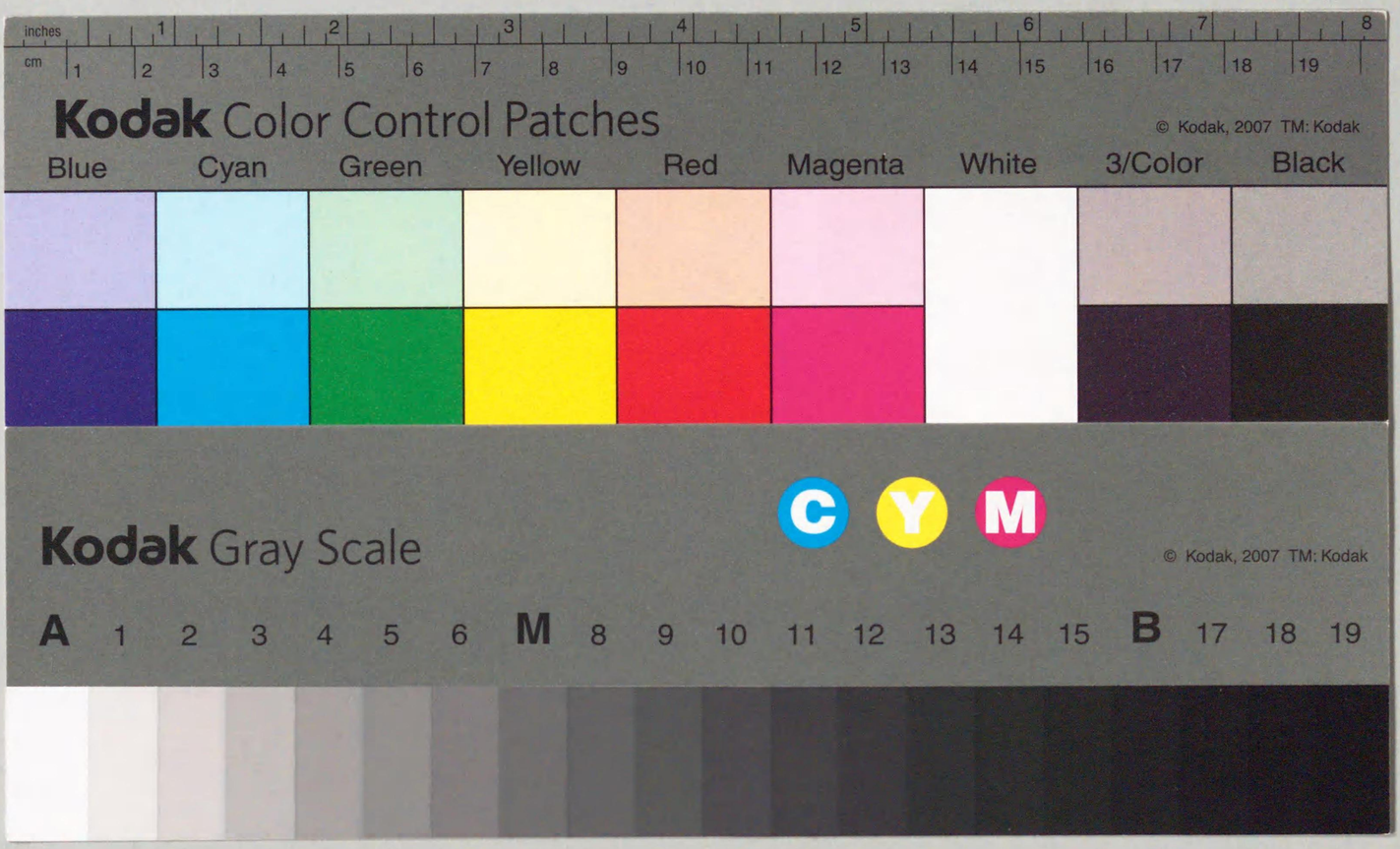

121.3
N691
S
0002562 2
0 複写

日本儒林叢書

關儀一郎編纂

121.3N691SII

日本儒林叢書 第六册

解說部第二書目

語孟字義	敬所批校本	二卷	伊藤仁齋著	九〇頁
語孟字義辨		一卷	木山楓谿著	一二頁
大疑錄	敬所批校本	二卷	貝原益軒著	三四頁
聖語述		一卷	伊藤東涯著	一〇頁
三才辨義		三卷	田中麗山著	四〇頁
豐子仁說		一卷	豐嶋豐洲著	一六頁
豐子筆談		一卷	同著	一四頁
聖道辨物		二卷	冢田大峯著	四八頁

国立国会図書館蔵書
2000 DAF
国立国会 26.2.23 図書館
225622

新論	一卷	村田庫山著	一八頁
敬義內外說	一卷	淺見絅齋著	一〇頁
敬義內外考	一卷	友部安崇著	一八頁
敬義內外考論	一卷	佐藤直方著	四　頁
問學擧要	一卷	皆川淇園著	三二頁
三教要論	一卷	松宮觀山著	一〇頁
師門問辨錄	一卷	山田方谷著	二〇頁
愚聞漫鈔	一卷	富春山人著	一六頁
約言（昭陽批校本附答問。約言補）	一卷	廣瀨淡窓著	二八頁
約言或問	一卷	同　著	二六頁
聖學私言	一卷	岡田煌亭著	二〇頁
聖學或問	一卷	森　省齋著	一〇頁

性論	一卷	森　省齋著	六　頁
老子雕題	一卷	中井履軒著	四〇頁
冬の日影	二卷	菅　茶山著	六〇頁
莊子解	一卷	照井一宅著	一〇四頁
九經談（敬所批校本）	十卷	大田錦城著	二二八頁
家學小言	一卷	龜井昭陽著	一二頁
朱學管窺（批評附）	一卷	安積艮齋著	二六頁
經學字義古訓	一卷	海保漁村著	五二頁
翁の文	一卷	富永仲基著	一四頁

以上二十九種　四十四卷

例言

語孟字義　敬所批校本　二卷　伊藤仁齋著

本書は語孟二書に見ゆる、天道天命道德性情等の諸目の字義を解說せる者にして、宋儒の性理說を排擊し、自家の研究を述べたる者。附錄に大學非孔氏之遺書辨、及外一の論文を載せたり。天和三年（五十七歲）の著述に係り、寶永二年に上木せらる。

本書の批校は豬飼敬所の手に成り、（文化十一年五十四歲）本書の所說及び文辭に就て、忌憚なき批正を加へたる者。敬所の學風は折衷學にて、宋儒性理の說を取らざれども、本書の批評を見るに、往々程朱の解說に左擔し或は爲に辨解せる所あるを見る、またその公平の態度を見るに足るべきか。

本書中（　）を施せる所は、敬所の刪除せる部分にして、傍注はその訂正の文字なり。又本文中に〇を附し、その側に註記せるは、〇の個所に補塡せる者なり。

本書の批校本は三宅眞齋先生の所藏に係る稀本なるが、先生の好意により、本叢書に收むるを得たり。謹んで感謝の意を表す。又先生の所藏本には、批評は皆鼇頭に記せるも、本叢書に收むるに當り、本

文各項の末に移し、且番號を付して參照に便したり。

著者仁齋の略傳は、本叢書解說部第一の例言に、又批校者敬所の略傳は、同史傳書簡部の例言に見ゐたり。

語孟字義辨　一卷　木山楓谿著

本書は仁齋の語孟字義中、程朱を排擊せるもの十餘條を擧げて之を辨駁せるもの。卷末の總辨に云はく、仁齋の學紕繆百出す、然れども其要を論ずるに、三條を出でず、天道を論ずれば、流行を擧げて大極を廢し、問學を語れば、擴充を貴んで復初を斥け、經義を言へば、論孟を主として大學を擯く云云と。開卷の序言によるに、天保十一年（五十三歲）の著なり。

所收本は東洋哲學雜誌所載に據る。

著者楓谿は名は聚、字は子文、通稱は三介、楓谿は其號、備後の人なり。本姓中嶋氏、備中新見藩士木山氏の養子となる。楓谿文學を以て登庸せられ、勘定頭、町奉行を歷て、用人に擢でらる。山田方谷と同じく丸川松隱の門に出で、王陽明の說に於て、各〻得る所あり。性温雅、能く後進を誘掖す。後江戸の藩邸に祇役し、淹留幸ね月を累ね、鹽谷宕陰、藤森弘庵、林鶴梁等の名流と文酒歡娛し、一時の盛を極む。元治二年に歿す、年七十八。楓谿、最も史筆に長じ、大名世紀の著ありと云ふ。

大疑錄　敬所批校本　二卷　貝原益軒著

本書は益軒晚年の著述に係り、程朱の理氣心性の學に對する疑問を錄せる者。卷首に太宰春臺の讀大疑錄を載せたり。明和四年に上木せらる。

本書の批校は豬飼敬所の手に成り、欄外に批評を記し、語句の訛誤衍脫等は、直に本文に就て改竄補正せり。本文（　）の所は削除せるもの、傍注は改訂せる文字、又本文中に〇を付し傍注せるは、文字を填補せるものなり。

所收本は無窮會所藏本（敬所自筆批校本）に據る。

著者益軒は名は篤信、字は子誠、通稱久兵衞、益軒と號し、又一に損軒と號す。筑前の人にして、世〻福岡侯に仕ふ。明曆三年京師に遊び、刻苦勉勵し、業大に進む、尋いで徒を聚めて講授す。嘗て陸王の學を喜びしが、後敦く洛閩の學を崇奉す。博覽強記にして貫綜せざるなく、而も謙恭、人に傲らざるを以て、令譽日に隆し。藩の三侯に歷仕し、優遇せらる。著書百有餘種、多く國字を以て記す。晚に宋學に疑を發して、大疑錄を著す。正德四年に歿す、年八十五。

聖語述　一卷　寫本　伊藤東涯著

本書は聖賢の敎語中、初學に適切なる者を擧げて、性道敎の大旨を指示せるもの。各章何れも初に大意を述べ、末に聖賢の語を引いて之を結ぶ。凡そ四十三章あり。

所收本は本會所藏本に據る。

著者東涯の略傳は本叢書隨筆第一の例言に見ゑたり。

三才辨義　三卷

田中麗山著

本書は易詩論孟四書より太極、陰陽、道器、性習、四端等の文を揭げて、諸家の注を擧げ、その誤謬を辨正せる者。而も最も力を宋學の排擊に注げり。自序に、魏晉の諸儒、宋の周程朱に至る迄、皆老莊佛の說に陷り、無形を以て道とし、太極を以て萬物の主となし、上天を無視す云云と云へり、又自序に予弱歲より先儒の說を疑ひ、既に二紀を踰ゑたり、幸に私淑して之を得るありといひ、本文中に天地一元氣の說をなせるを見るに、或は仁齋の說に響應して起れるものか。後考を俟つ。

所收本は古刻本に據る。刻年未詳なれど、正德二年の序あるを見れば、正德年間の刻ならんか。

著者麗山は名は允澤、大坂に住せし人なることは、自序によつて知らるれども、經歷歿年等は未詳。」

豐子仁說　一卷

豐嶋豐洲著

本書は仁の意義を詳述せる者にして、大旨以爲らく、仁は博愛の德なり、之を推廣すれば國を治め天下を平かにするに至る、その功用は處によりて大小あれども、極致は博愛の心に歸せざるなしと。而して程朱の性理の解、徂徠の長人安民の說を辨駁せり。仁說續錄は聖知禮義道德の目を揭げて、其意義を解說せる者なり。本書は天明元年(四十五歲)の著なり。

所收本は古刻本に據る。刻年未詳。

著者豐洲の略傳は本叢書解說第一の例言に見ゑたり。

豐子筆談　一卷

豐嶋豐洲著

本書は道の意義を詳述せる者にして、道は聖人の億慮に出で、修爲に立ち、敎導に行はるゝ者となし、程朱の專ら心性に求め、仁齋の天地自然に存立すと云ひ、徂徠の政治に偏して修身を疎外せるを辨駁せり。安永七年(四十二歲)の著なり。

所收本は前揭仁說に同じ。

聖道辨物　二卷

冢田大峯著

本書は道德孝弟等七十二物に就て、古訓に徵して解說せる者。自序(寬政七年五十一歲)に、道德の精徵を辨せんと欲する者、必古訓に鑒みて以て徵するを要す、苟も古訓に鑒みずして、唯漢魏以降に是れ從はゞ、則ち先王の器に於て、其名と物と、或は多く其用を亂る云云と云へり。

所收本は寬政八年の刻本に據る。

著者大峯の略傳は、本叢書隨筆部第一の例言に見ゑたり。

新論　一卷

村田庫山著

本書は道義學事を論せるものにして、三十章より成る。自序に、此論や五經の鼓吹也、孟荀の羽翼也、

孔氏の適派也、新の義たる新奇の新にあらず、舊染汚俗みな與に惟新なるの新也云云と云へり。文政五年の著なり。

所收本は文政八年の刻本(足利衍述氏所藏)に據る。

著者庫山の傳を詳にせざれども、著書としては本書の外に、正論、源源論、大學正義等あり。

敬義內外說　一卷　淺見絅齋著

本書は敬義の內外を論せる者。初め山崎闇齋近思錄を講じ、敬義の內外を論じて、身を內となし家國天下を外となすと說く。時に門人或は信じ、或は疑ひ、辨論紛然たり。佐藤直方の如きは痛く師說に反對し、遂に譴を被り、師門に出入せざること幾んど二年に及べり。是に於て絅齋此書を著し、學徒の疑惑を解く。本書論ずる所は、直方と見を同うし、敬義內外とは、心と身とを以て言ふとなせる者也。

所收本は東洋哲學雜誌所載に據る。本書は刻本ある由なれども未見。著者絅齋の傳は、本叢書論辨部の例言に見ゑたり。

敬義內外考　一卷　友部安崇著

本書は諸書の用例を引きて闇齋の敬義內外說に左擔し、絅齋等の說を駁せる者。本書卷首に闇齋の敬義說を收載せり。本書は正德四年の著なり。

所收本は正德五年の刻本に據る。

著者安崇は通稱武右衞門、止定齋と號し、一に重垣翁と號す、幕府旗下の士なり。闇齋の神道說を信じ、跡部光海と研究講習し、能く其旨を發揮す。享保の初に歿す、年六十餘。著す所神道講意鈔、神儒同旨等あり。

敬義內外考論　一卷　佐藤直方著

本書は前揭敬義內外考の說を駁し、絅齋の敬義內外說の精當易ふべからざるを論せる者なり。正德四年(六十五歲)の作なり。國字を以て記せる者は、參考のため韞藏錄中より抄錄して添附せるなり。

所收本は韞藏錄に據る。又本書は甘雨亭叢書にも收採せらる。

著者直方の略傳は、本叢書論辨部の例言に見ゑたり。

問學舉要　一卷　皆川淇園著

本書は讀書作文の要旨を敘述せるものにして、立本、備資、愼徵、辨宗、晰文理、審思の六項に分ち、各項更に細目を擧げて詳述せり。

所收本は安永三年(淇園四十一歲)の刻本に據る。

著者淇園は名は愿、字は伯恭、通稱文藏、淇園は其號、京師の人なり。生れて穎異、四五歲にして能く字を識る。其父當時の宿儒と交通往來せしめ、又經史百家の書を給して讀破せしむ。長ずるに及び、

讀書作文の要訣は字義を明かにするに在るを知り、廣く古人用字の例を類集し、之を象形に取り、之を聲音に求め、乃ち始て名物の義は聲音より生じ、聲音は易に本づくを悟る。乃ち音記象式の法を定め、一家の學を立つ。是に於て心を著述に用ゐ、名疇、易詩書論孟學庸の繹解等數十種を著せり。弟子門籍に上る者凡三千人、公卿諸侯弟子の禮を執る者多く、平戸侯最も敬重せりと云ふ。文化四年に歿す、年七十四、

三教要論　一卷　松宮觀山著

本書は神儒佛三教の徒、我國躰國風を崇び、國家の安泰繁榮をはかるを本旨とせず、各その道とする所を道とし、國家に害あつて益なきの弊を痛斥せるものなり。

所收本は寶曆十年の刻本（井上巽軒先生所藏）に據る。

著者觀山の略傳は本叢書解說部第一の例言に見ゐたり。

師門問辨錄　一卷　山田方谷著

本書は門人の質問に答へたる語、及び教戒數則を錄せる者にして、方谷の王陽明學に於ける所見の一端を知るに足る。門人岡本天岳の纂輯に係る。

所收本は明治三十五年の刻本に據る。

著者方谷は名は球、字は琳卿、通稱は安五郎、方谷は其の號、備中の人なり。幼にして聰明、丸川松

隱の塾に入りて程朱の學を受く、三十歲にして、江戸に入り、佐藤一齋に從學し、佐久間象山、河田迪齋等と交り、相共に研精す。既にして歸鄉し、松山藩の學頭となり、又度支を掌り、藩の財政を整理し、後また郡宰を兼ね、治績大に擧かる。維新の際、藩の罪を天朝に獲るや、方谷能く機宜に處し、藩祀を絕たざるを得たり。晚年長瀨に住し、而も後進の敎育に力を盡せり。明治十年に歿す、年七十三。方谷の學、王陽明に據ると雖も、子弟を率ゐるに、必先づ程朱の說を講ず、要は材を成し德を達するに在り、終生實學經綸を旨とせり。

愚聞漫鈔　一卷　寫本　富春山人著

本書は道德仁義理氣性命等に就て、程朱の說によりて平易に敍述せる者。山人は徂徠と文詩の交りをなしゝが、其學程朱を信奉せるは、本書によつても之を知ることを得。本書に「先王より孔子、孔子より程朱に至るまで、傳ふる所二なし、」附錄書柬に「野夫學術心術依舊尊信朱文公如神明一にて候、」又「野夫老年靜坐益覺有力候、」など見ゐたり。

本書は蘿溪の跋によるに、享保四年（山人五十二歲）奧州石越邑を過りて講說し、尋いで同邑社中の爲に著せる者なり。

本書及び附錄書柬は、田中一寧氏、仙臺なる木堂（書柬中に見ゆ）の裔孫に就いて、自筆本を謄寫し、之を內田遠湖先生に贈られたる者に據り、之を本叢書に收む。田中氏の報によるに、本書跋文撰者の

蘿溪富信易と、附錄書柬なる靜廬とは同一人にて、山人の門人、伊達藩士富塚氏なりと云ふ。

本書及び書柬を本叢書に收むるを得たるは、田中氏及び遠湖先生の厚意に因る。謹んで感謝の意を表す。

著者富春山人は姓は田中、名は省、字は省吾、雲華道人と號す。荻生徂徠の詩友にして、初め徂徠と共に柳澤侯に仕へしが、後致仕して京攝に遊ぶ、晩年姓を富、名を逸、字春叟、號桐江と更め、京師に游ぶ、所謂富春山人是れなり。著述に東海漫游稿、樵漁餘滴あり。寬保三年に歿す、年七十六。

約言　一卷

昭陽批校本
附答問。約言補

廣瀨淡窓著

本書は淡窓の主義信條とせし敬天說を敍述せる者にして、三十六則より成る。自序に曰はく、予の約言を著すや、博く邦人を喩す所以なり、唯禍福の應を明かにして、之を欽天に歸するのみと。淡窓文政十一年(四十七歲)本書を著し、翌年九月之を師龜井昭陽に贈りて、批評を求む。昭陽乃ち欄外に評言を記し、文辭の妥當ならざる所は、本文の傍に刪補し、且序文及び答問四條を作りて、之を返付せり。本書傍注の(　)は訂正の文字なり。又本文語句の間に○を施し、その傍に(　)の文字あるは、○の所に補塡すべきを示せるものなり。

本書の跋文作者長春老叟は、淡窓の父君なり。

約言補十三則は、約言の追補として著せるもの。著述の年時詳かならず。

著者淡窓の略傳は、本叢書史傳書簡部の例言に見ゆたり。

約言或問　一卷

廣瀨淡窓著

本書は前揭の約言の所說に就て、種々の疑問を提起して、之が答解をなせるものにして、國字を以て平易に記述せり。天保二年(五十歲)の著述なり。

所收本は前揭の約言とともに、淡窓全集本に據る。今回本叢書に收むるを得たるは、著者宗家現主廣瀨貞治氏の好意に因る。謹んで感謝の意を表す。

聖學私言　一卷

岡田煌亭著

本書は經學に就て、程朱の說の眞義を究明し、諸家の異說を辨したる者にして、卷末に毛奇齡の稽求編數條を錄して辨駁せり。著述の年月詳かならざれども、文政五年朝川善庵の序あるにより、同年以前の著なるを知る。

所收本は古刻本(湯淺廉孫氏所藏)に據る。刻年未詳。

著者煌亭は名は欽、字は秀三、通稱彥助、煌亭と號し、又別に南嶺　一に南嶽に作る　と號す、下總の人なり。天保九年に歿す、年四十七。煌亭には別に七經劄記の著あり、程朱派の學者たるを知るを得れども、經歷等を詳かにせず。

聖學或問　一卷

寫本　森省齋著

本書は程朱の意によりて、下學上達、本然氣質、爲己爲人等の要義を叙述せる者也。

所收本は内田遠湖先生の所藏本に據る。

著者省齋は名は祐望、一名久大、肥後の人なり。大塚退野に學び、經學を以て顯はる。安永三年に歿す、年六十一。

性論 一卷 寫本 森省齋著

本書は早川某氏の本然氣質の辨を批評し、自説を述べたる者なり。

所收本は前揭聖學或問に同じ。

老子雕題 一卷 寫本 中井履軒著

本書は老子の本文に就て、語句を解説し、異本を引いて文字の異同を考へ、林注の誤を正し、且老子の所説に批評を下せる者なり。その批評中に、老子の説を雌道、偏枯、權謀、老姦等と稱し、老子を學びて益を得べきもの三あり、婦人、商賈、痼病者といへる如き、其の老子觀の一般を知るに足る。

所收本は帝國圖書館所藏本に據る。本書は未刊書なるが、著者相續者中井天生氏の厚意により、本叢書に收むるを得たり。謹んで感謝の意を表す。

著者履軒は大坂の人、名は積德、字は處叔、俗稱德二と云ふ、中井甃菴の子にして、竹山の弟なり。性活濶にして仕進を求めず、讀書敎授を以て務とす。其經を治むる、博く諸家の説を蒐採し、參するに獨得の見を以てす。最も宋儒性理の説を厭ひ、掊擊餘力を遺さず。七經雕題、同逢原を始め、著書甚だ多し。文化十四年に歿す、年八十六。

冬の日影 二卷 寫本 菅茶山著

本書は禮十七則、樂二十七則、總説四十則より成り、禮樂の起源、特質、效用等を説き、禮樂を政治敎化の根本となすべきを論せるものにして、優雅なる國文を以て記せり。自序によるに、天明八年(四十一歳)の著なり。

所收本は帝國圖書館所藏、中古叢書本に據る。

著者茶山は名は晉帥、字は禮卿、備後の人なり。少くして西山拙齋と同じく京に入り、那波魯堂に從ひて宋學を受け、中井竹山、篠崎安道等と交遊す。既にして歸り、家事を弟に託し、益〻書を讀み、鄉里に敎授す。塾舍を築きて、黄葉夕陽村舍と號せしが、後藩に請うて鄉校となし、廉塾と名づく。茶山經を説くに一に朱注に循ひ、敢て異を立てず、又詩を善くし、淡雋穩秀を以て稱せらる。文政十年に歿す、年八十。著す所、黄葉夕陽村舍詩前後編、室町志、福山志料等あり。

莊子解 一卷 寫本 照井一宅著

本書は莊子の逍遙遊齊物論の二篇の註釋にして、字義文理語脈を明かにし、獨得の解説をなせる者なり。章炳麟嘗て本書を一讀し、その卓識に服し、特に莊子は德を論ずるものにして、道を論ずるもの

にあらずといへる一語を激賞せり。（本書卷首の莊子論、及び章氏の序・書後參照すべし）

所收本は照井家所藏本を底本とし、舘森袖海翁の所藏本を參稽し、明白なる誤脫を訂正したり。

本書を本叢書に收めて公刊するを得たるは、著者相續者照井全吉氏の厚意と、川村仁左衛門氏の助力とに因る。謹んで感謝の意を表す。

著者一宅は名は全都、通稱小作、盛岡の人なり。人となり至孝、奉養の暇に家に藏せる四書を精讀攻究し、自得する所あり、是より他書を讀むに、破竹の如く、復其の難きを見ず、最も四書荀莊左國を善くせしが、特に論語には畢生の力を注げり。其學實用治功を旨とし、空理空談を斥く。藩の助敎となり侍讀を兼ぬ。維新の後藩主に從ひて江戸に入り、その著封建論を安井息軒に示す。息軒大に其卓見を稱したりと云ふ。明治十四年に歿す、年六十三。著す所莊子解の外に、論語註解、學庸解等あり。

九經談　敬所批校本　十卷

大田錦城著

本書は九經（孝經・大學・中庸・論語・孟子・尙書・詩・春秋左氏・周易）に就て、考據學より得たる所見を劄記躰に叙述せるものにして、當時名著として學界に推稱せられし者。蓋錦城の著述中第一に位すべきものなるべし。文化元年（錦城四十歲）に上木せらる。

本書の批校は豬飼敬所の手に成り、（文化五年、敬所四十八歲）詳細に批評及び窴正を施せる者にして、

其稱すべきは大に稱し、非斥すべき所は忌憚なく非斥せり。序言に本書を稱して、識見正大、援引宏博、海內無二、不意今日有斯人」と云ひ、經學三大變の條に、大見識、大議論、非達古今者。不能爲此言。又不能了此言。といひて稱歎を極めたるが如き、其襟度の宏量なるを見るべきか。

所收本は本會所藏本に據る。但し會本は、批評の文を欄外に記したれども、本叢書に收むるに方り、本文各項の後に附記し、且番號を付して、原文と參照に便ならしむ。又字句改刪の樣式は語孟字義のそれと例を同くし、（ ）は削除せる所、その傍の注は訂正の文字、又○を附して傍註せるは、○の所に補塡すべきを示せるなり。

著者錦城は名は元貞、字は公幹、通稱才佐、加賀の人なり。幼にして穎異、神童の稱あり。初め皆川淇園及山本北山に從ひて益を請ひ疑を質しゝが、皆意に滿たず、慨然之を古人に求めんと欲し、勵精刻苦業大に進む。初め吉田侯に聘せられしが、後鄕國の加賀侯に仕へ、祿三百石を賜はり、上士に班せらる。文政八年に歿す、年六十一。錦城博覽強記、百家の書に通じ、尤も經術に長ず。其經義を說くや、博引旁證、以て至當に歸して止む。本邦考據學の泰斗たり。著す所、學庸原解、論語大疏、仁說三書、周易象義等數十種あり。

家學小言　一卷

龜井昭陽著

本書は著者の父南冥の經說を、語錄躰に記述せるもの。南冥の學は徂徠に資る所多けれども、所謂墨

守にはあらずして、自己の所見に合はざる所は、忌憚なく非斥せり。

本書は刻本あれども、閲覽の機を得ず、帝國圖書館所藏の傳寫本によりて、本叢書に收めたり。

著者昭陽の略傳は本叢書論辨部の例言に見ゑたり。

朱學管窺 批評附 一卷 寫本 安積艮齋著

本書は理氣、格致、明德、性命、鬼神等の題目について、朱子の意によりて論述せる者なり。本書の批評は、東澤瀉の外に懋云とあるもの、及び氏名を記せざる者との三種あるが、卷末の評の終に直亮の署名あれば、氏名を記せざる評は直亮なるべし。但し懋と直亮と同一人なるか否か、又直亮は如何なる人なるか、未だ詳にせず、後考を俟つ。

所收本は藤塚鄰氏の所藏本を底本とし、內田遠湖先生の所藏本を參稽し、又引用せる朱子文集、語類等は、原書に就て校訂を加へたり。

著者艮齋の略傳は本叢書隨筆第二の例言に見ゑたり。

經學字義古訓 一卷 寫本 海保漁村著

本書は經學の要目たる天道性道仁義禮智等に就て、考據學の見地よりして、宋儒の說を非斥し、古訓古意を說明せる者なり。本書原名を宋學問答と名けしが、後今の名に改めたるなり。

所收本は帝國圖書館所藏、著者自筆本に據る。

著者漁村の略傳は、本叢書論辨部の例言に見ゑたり。

翁の文 一卷 富永仲基著

本書は神儒佛三敎を批判し、別に眞の道を提唱せるもの。大旨以爲らく、三敎は或は國を異にし、或は時を別にし、今日の我國には行ひがたき道なり、これ眞の道と云ふべからず、眞の道は、今の文字言語を用ひ、今の衣食住をなし、今の習はしに從ひ、今の人に交り、諸の惡事をなさず、諸の善事を行ふもの是なりと。又三敎の層〻加上說及習癖(佛の幻術、儒の文辭、神の傳授)に論及せり。本書說く所、出定後語の三敎章と大に同じ、幷看するを要す。自序によるに本書は元文三年の著なり。

所收本は龜田吟風氏の發見に係る延享三年の刻本に據る。

著者仲基は大坂の賈人なり、俗稱道明寺屋三郎兵衛と云ふ、陽明學を三宅萬年に學びしが、後說蔽を著して儒及諸子を誹れるを以て、萬年と絕つ。又出定後語を著して釋敎を論ず。寬延中の人なり、歿年未詳。

語孟字義目錄

卷之上

天道　凡七條
道　凡五條
德　凡四條
心　凡四條
四端之心　凡二條
才　一條
意　凡二條

卷之下

忠信　凡五條
誠　凡四條
和直　一條
權　凡四條
天命　凡十條
理　凡五條
仁義禮智　凡十四條
性　凡五條
情　凡三條
志　凡二條
良知良能　凡二條
忠恕　凡五條
敬　凡二條
學　凡四條
聖賢　一條

君子小人　凡三條
鬼神　附卜筮　凡四條
書　凡三條
春秋　凡二條
附　大學非孔氏之遺書辨
附　論堯舜既沒邪說暴行又作
王覇　凡三條
詩　凡三條
易　凡三條
總論四經　凡二條

目錄畢

〔評〕宋儒以二性理一說二聖經一。不二必無一裨二補學者一。然要二其皈趨一。蓋出二於老佛之緒餘一。而非二古聖人之本旨一也。而後之儒者皆尊二信之一。以爲眞繼二千載不傳之緒一。殊不レ知其爲二郢書燕說一矣。至二明季諸儒一。雖二張膽瞋目貶議宋儒一。而徒論二心性一。事レ尙二虛高一。要レ之不レ能レ出二於宋儒之範圍一。古聖人之道。愈益不レ明矣。仁齋先生。挺二出乎我邦一。卓然獨覺二宋儒性理之學一。非二古聖人之旨一。尙二平實一。擯二虛高一。著二論孟古義一。語孟字義。童子問等書一。首唱二古學一。後學賴二其啓迪一。以得レ知二宋儒之學一。大失二古聖人旨一。可レ謂二豪傑之士一。無レ所レ待而興者一矣。其功豈不レ偉乎。余自二壯年一喜讀二其書一。然亦稍〻覺有二選而不レ精。猶不レ得二古聖人之旨一者一。頃與二二三門人一。鄙見所レ及。一一辨駁之。庶幾學者能明二古聖人之道一。而無二復疑惑一。嗚呼九原有レ知。則先生必謂二余爲二忠臣一。是余之所レ以不レ揣二固陋一敢竭二其愚一也。」

文化甲戌春正月

近江豬飼彥博識

語孟字義卷之上

予（嘗）教二學者一。以二熟二讀精二思語孟二書一。（能）使二聖人之意思語脉一。能瞭二然（於）于）心目間一焉。則非二惟能識二孔孟之意味血脉一。又能理二會其字義一。而不レ至二（于）大謬一焉。夫字義之於二學問一。固小矣。然而一失二其義一。則爲害不レ細。只當二一一本二之於語孟一。能合二其意思語脉一而後方可レ謂二方柄圓鑿一。北（誠）轅適レ越者一。（固）不レ虛矣。故著二語孟字義一篇一。以附二（於）諸）二書古義之後一。其詳有二古義在一。今玆不レ贅。天和三年歲在二癸亥一五月。

洛陽伊藤　維楨　謹識

〔評〕一、此書所レ論道德性命等諸目。皆古之名義也。非二特語孟所一レ有也。且非二惟詮釋文字之義一也。蓋此書做二北溪性理字義一。而其學宗二語孟一。因誤命以二語孟字義一耳。宜レ改二名古學名義一。

〔評〕二、如二道德性命之屬一。皆學問之大眼目也。豈可レ謂二之小乎一。誤以二字義名一レ此書一。故不レ覺有二此失言一也。

〔評〕三、此書所レ論名義。往往徵二諸六經一。可レ見二語孟一書不レ足二以盡一名義一也。而教二學者專讀二語孟一。是仁齋之古學。所二以未一レ達一間一也。惜夫。

天道 凡七條

道猶ㇾ路也。人之所ニ以往來通行一者。皆名ㇾ之曰ニ道。(四)其謂ニ之天道一者。以ニ一陰一陽往來不ㇾ已。故名ㇾ之曰ニ天道。易曰。一陰一陽之謂ㇾ道。其各加ニ一字於陰陽字上一者。蓋所ニ以形容夫一陰而一陽。一陽而又一陰。往來消長運而不ㇾ已之意一也。蓋天地之間。一元氣而已。或爲ㇾ陰。或爲ㇾ陽。兩者只管盈ニ虛消ニ長往ニ來感(五)應於兩間一。未ニ嘗止息一。此即是天道之全體。自然之氣機。萬化從ㇾ此而出。品彙由ㇾ此而生。聖人之所ニ以論一ニ天者一。至ㇾ此而極矣。可ㇾ知自ㇾ此以上更無ニ道理一。更無ニ去處一。考亭以謂陰陽非ㇾ道。所ニ以陰陽者是道一。非ㇾ也。陰陽固非ㇾ道。一陰一陽往來不ㇾ已者。(即便)是道。考亭本以ニ太極一爲ニ極至一。而以ニ一陰一陽一爲ニ太極之動靜一。所ㇾ以與ニ繫辭之旨一相繆太甚一也。

〔評〕四、其謂ニ之天道一者。此句突出。宜ㇾ言ニ天道之流行一也。

〔評〕五、一陰一陽之謂ㇾ道。是系辭之文也。仁齋從ㇾ歐陽子一。以ニ系辭一爲ニ筮師之言一。見ニ下卷一。此云ニ聖人之所ニ以論一ニ天。前後相乖甚矣。其駁ニ朱子之言一。蓋本ニ於吉齋漫錄一。

天道有ニ流行一。有ニ對待一。易曰。一陰一陽之謂ㇾ道。此以ニ流行一言。立ニ天之道一。曰ニ陰與ㇾ陽。此以ニ對待一言。其實一也。流行者。一陰一陽往來不ㇾ已之謂。對待者。自ニ天地日月山川水火一。以至ニ於晝夜之明闇一。寒暑之往來一。皆無ㇾ不ㇾ有ㇾ對。是爲ニ對待一。然對待者自在ニ流行之中一。非ニ流行之外又有ニ對待一也。

(六)何以謂ニ天地之間一元氣而已一耶。此不ㇾ可ㇾ以ニ空言一曉ニ。請以ニ譬喻一明ㇾ之。今若以ニ版六片一相合作ㇾ匣。密以ㇾ蓋加ニ其上一。則自有ニ氣盈ニ于其內一。有ㇾ氣盈ニ于其內一。則自生ニ白朴一。既生ニ白朴一。則又自生ニ蛀蠹一。此自然之理也。蓋天地一大匣也。陰陽匣中之氣也。萬物自朴蛀蠹也。是氣也無ニ所ニ從而生一。亦無ニ所ニ從而來一。有ㇾ匣則有ㇾ氣。無ㇾ匣則無ㇾ氣。故知天地之間。只是此一元氣而已矣。可ㇾ見非ニ有ニ理而後生ニ斯氣一。所謂理者。反是氣中之條理而已。夫萬物本乎五行。五行本乎陰陽。而再求ニ夫所ニ以爲ニ陰陽一之本一焉。則不ㇾ能ㇾ不ニ必歸ニ之於理一。此常識之所ニ以必至ニ於此一不ニ能ㇾ不ニ生意見一。而宋儒之所ニ以有ニ無極太極之論一也。苟以ニ前譬喻一見ㇾ之。則其理彰然明甚矣。大凡宋儒所ㇾ謂有ㇾ理而後有ㇾ氣。及未ㇾ有ニ天地一之先。畢竟先有ニ此理一等說。皆臆度之見。而畫ニ蛇添一ㇾ足。頭上安ㇾ頭。非ニ實見得者一也。

〔評〕六、今就ニ目前一考ㇾ之。天地之間。陰陽之氣。有ㇾ所ニ從而生一。陰氣自ㇾ水而生。故南北二極之下無ニ陽氣一。西域沙磧之地無ニ陰氣一。而日行ニ于天一。水生ニ於地一。余不ㇾ能ㇾ知ニ其所ニ以然者一也。宋儒大極動而生ニ陽一。靜而生ニ陰一。仁齋一元氣或爲ニ陰一。或爲ニ陽一。並是想像之言。而其實則不ㇾ出ニ於陰陽五行一。配當附會之說一也。不ㇾ論ニ目前易一ㇾ知之事一。而徒論ニ懸空難一ㇾ知之理一。是亦非ニ實見得者一也。且其所ニ譬匣中生ニ蛀蠹一者。陽氣不ㇾ通。而濕氣生ニ虫也。豈可ニ以喻一ニ天地萬物之化一哉。

易曰。天地之大德曰ニ生。言生生不ㇾ已。即天地之道也。故天地之道。有ㇾ生而無ㇾ死。有ㇾ聚而無ㇾ散。死即生之終。散即聚之盡。天地之道一ニ於生一故也。父祖身雖ㇾ沒。然其精神則傳ニ之子孫一。子孫又傳ニ之其子孫一。生生不ㇾ斷。至ニ于無窮一。則謂ニ之不一ㇾ死而可。萬物皆然。豈非ニ天地之道有ニ生而無一ニ死耶。故

謂生者必死。聚者必散。則可。謂有生必有死。有聚必有散。則不可。生與死對故也。

或以爲自天地既闢之後觀之。固一元氣而已。若自天地未闢之前觀之。只是理而已。故曰。無極而太極。適聖人偶○未說到一陰一陽往來不已上面焉耳。曰。此想像之見耳矣。夫天地之前。天地之始。誰見而誰傳之邪。若世有人。生於天地未闢之前。得壽數百億萬歲。目擊親視。傳之後人。互相傳誦。以到于今。則誠眞矣。然而世無生於天地未闢之前之人。又無得壽數百億萬歲之人。則大凡諸言天地開闢之說者。皆不經之甚也。所謂清者升爲天。濁者降爲地。邵康節以十二萬九千六百年爲一元。及天開於子。地闢於丑。人生於寅等說。皆漢儒以來。狃聞戰國雜家讖緯諸書。迂怪不經之故說。互相附會耳。均之佛氏所謂無始。老氏所謂無極之前。亦皆妄誕而已矣。夫四方上下曰宇。古往今來曰宙。知六合之無窮。則知古今之無窮。(七)今日之天地。即萬古之天地。萬古之天地。即今日之天地。何有始終。何有開闢。此論可以破千古之惑。但可與達者道。不可與癡人道。或謂既不可謂天地有始終開闢焉。則又不可謂無始終開闢。曰。既不可謂天地有始終開闢。則固不可謂無始終開闢。然於其窮際。則雖聖人不能知之。況學者乎。故存而不議之爲妙矣。

〔評〕七、地已有周圍之數。其大有窮。天亦當有窮。但不可知耳。終始亦當有。亦不可知也。唯闕疑耳矣。爭其有無猶未也。

(八)一陰一陽往來不已。之謂天道。其義甚明矣。子貢何以謂不可得而聞乎。蓋於一陰一陽往來不已之理。則學者或可得而聞也。至於維天之命於穆不已之理。則非聰明正直。仁熟智至者。則不能識之。(所謂)維天之命於穆不已。即書(所謂)(曰)惟天無親。克敬惟親。(又曰)。天道福善(殃禍)淫。易(曰。)(所謂)天道虧盈而益謙(之意)。孔子(曰)(所謂)天生德於予。桓魋其如予何。又曰。獲罪於天。無所禱也。(亦是之意)也。是子貢所謂不可得而聞也者。蓋若此。夫善者。天之道。故易(九)曰。元者善之長也。蓋天地之間。四方上下。渾渾淪淪。充塞通徹。無內無外。莫非斯善。故善則順。惡則逆。苟以不善在於天地之間者。猶以山草植之于水澤之中。以水族留之于山岡之上。則不能一日得遂其性也必矣。夫人不能一日有以不善立于天地之間。亦猶如是。故善之至無往而不善。惡之極。亦無往而不惡。善之又善。天下之善聚之。其福不可量焉。惡之又惡。天下之惡歸之。其禍不可測焉。天道之可畏可愼如此。而所謂善者。豈有形狀之可言乎。孔子曰。人之生也直。罔之生也。幸而免。善者非他。即直而已。蓋直則善。不直則惡。非有二也。宋儒(十)謂天專言。則謂之理。又曰。天即理也。其說落乎虛無。而非聖人所以論天道之本旨。蓋以有心見天。則流于災異。若漢儒災異之學是也。以無心見天。則陷于虛無。若宋儒天即理也之說是也。學者苟恐懼脩省。以直道自盡。無有一毫邪曲。而後當自識之。非可言語喩也。

〔評〕八、易言陰陽。故以陰陽說天道也。詩書論孟禮記左傳等所說。皆以祐善罰惡爲天道。

仁齋所」謂以二主宰一言者也。儒家言二天道一。唯如」是而已。易之論二陰陽一。是或一道也。當別論」之。仁齋首論二陰陽爲一天道一。是猶承二理學之弊一也。維天之命。於穆不」已。言天命二周家一。無有」窮已耳。命即帝命不」時之命也。中庸引二此詩一。以明二天道不一已之義一。亦是斷章取義也。仁齋以」是說二天道一者。混二天命與二天道一也。且與二天命條所一レ論。意旨不」合。

〔評〕九、易曰。元者善之長也。左傳作二元者躰之長也一。是因二元亨利貞之占辭一。分作二四德一。以說二人事耳一。非謂二元氣即是善之長一。而天之道也。且所」謂善者本以二人事一而言也。言二天地之間一。斯善充塞。則似」不」知」言矣。

〔評〕十、宋儒所」謂天理是善之異名耳。即仁齋所」謂善也。但其所」論有二深淺一耳。云」陷二于虛無一者。毀之過也。

或曰。一陰一陽往來不」已之理。或可二得而知一焉。至二於維天之命於穆不」已之理一。則不」可二得而聞一也。一天道而有二此二端一者。何哉。曰。非」有二二端一。一陰一陽往來不」已者。以二流行一言。維天之命於穆不」已者。以二主宰一言。流行猶二人之有二動作威儀一。主宰猶二人之有二心思智慮一。其實一理也。然論二天道之所一レ以爲二天道一。則專以二主宰一而言。故中庸引二維天之命之詩一而釋」之曰。蓋曰二天之所一レ以爲二天也一。可」見雖」若」有二二端一。然至」論二天道之所一レ以爲二天道一。則專在(十一)於主宰一也。夫易之爲」道。陽爲二善爲一レ淑爲二君子一。陰爲二惡爲一レ慝爲二小人一。君子觀二陰陽消長之變一。以審二進退存亡之理一。則得」合二於天心一。倘否。則不」免」逆二于天心一。即天之所一レ以爲二主宰一者。亦可二從而知一矣。雖」若」有二二端一。其實一理也。

〔評〕十一、流行主宰。即理氣之說也。夫天道之有二陰陽一也。猶二人道之有二仁義一也。相待成」物。不」可」闕」一。若夫陽爲二善陰爲一レ惡。則易之假象也。

天命 凡十條

(十二)孟子曰。莫」之爲」而爲者天也。莫二之致一而至者命也。是天命二字正訓也。學者當」以二孟子之語一爲」準。而理會凡經書所」說天命二字之義一。自不」至二於失二聖人之旨一之遠一矣。蓋天者專出二於自然一。而非二人力之所一能爲也。命者。似」出二於人力一。而實非二人力之所一能及一也。天猶二君主一。命猶二其命令一。天者。命之所由出。命者。天之所」出。故命○(字)比二於天一稍輕。故孟子以二舜之相一レ堯。禹之相」舜。歷二年多一。施二澤於民久遠一。暨二堯舜之子皆不」肖。推歸二之於天一。以下其專出二於自然一。而非(丙)人力之所(乙)能爲(甲)也。夫子以二伯牛之疾一爲」命。蓋人之疾也。多皆己之所二自致一。唯若二伯牛之疾一。非二其不一レ能」謹」疾而有二以致一レ之。故曰。似」出二於人力一。而實非二人力之所一レ能及一也。此孟子之成說。當」謹守」之。不」可二復用一後世紛々之說一。

〔評〕十二、孟子之言。別二天與一レ命而言者之解也。連二言天命一者。只言二天之所一レ命而已矣。天謂二蒼蒼之天一。

經書所」連用二天命二字一。有下以二天與一レ命並言一者上。有下以二天之所一レ命言一者上。其以二天與一レ命並言之命。即性命

之命。意重。若下所謂(十三)五十知二天命一。及死生有レ命。孟子曰莫二之致一而至者命也之類是也。其以二天之所一レ命言者。即與字之意。猶二孟子所謂此天之所一レ予我者之予字一。意輕。中庸所謂天命之謂レ性是也。猶レ曰二天與之謂一レ性。若以二此命字一作二性命之命一看。則意義不レ通。蓋文字本有二實字一有二虛字一。性命之命是實字。天之所レ命之命是虛字。(十四)先儒謬以二虛字一作二實字一看。故有二理命氣命之別一。又有二在レ天爲レ命。在レ人爲レ性之說一。皆不レ知二中庸之命字一。本虛字非二實字一故也。夫一命而立二二義一。甚無レ謂。況以二虛字一爲二實字一。其誤大矣。所謂求二其說一而不レ得。從而爲二之辭一者也。

〔評〕十三、五十知二天命一。亦天之所レ命也。仁齋解云。知二天與一レ命非也。古書連言天命者。皆謂二天之所一レ命。更無二二說一。

〔評〕十四、宋儒解二中庸一云。命猶レ令也。不レ以二虛字一作二實字一。但解二中庸維天之命於穆不一レ已。及五十知二天命一。以爲二天理之流行一。而之理之命。(十五)以別二於謂一禍福爲二天命一也。仁齋所レ駁恐疎。

孔氏疏曰。命猶レ令也。令者。即使令教令之意。蓋吉凶禍福。貧富夭壽。皆天之所レ命。而非二人力之所一レ能及。故謂二之命一也。何謂二天之所一レ命。以二其非一レ人力之所一レ致而自至一。故總歸二之于天一。而又謂二之命一。蓋以二天道至誠。不一レ容二一毫僞妄一也。

〔評〕十五、古人謂人之貧富貴賤壽夭禍福。都是天之所レ命。故曰天命。是其常也。其論非二人力之所一レ致者。則其變也。辨見二于下一。天道至誠云云。衍說也。

凡聖人所謂命云者。皆就二吉凶禍福死生存亡相形上一立レ言。蓋或吉或凶。或禍或福。或死或生。或存或亡。其所レ遇之幸不幸。皆自然而至。無レ可レ奈レ何之意。又有下既定而不レ可レ逃之意上。故曰。畏二天命一。亦曰。慎二天命一。蓋爲レ此也。但盡二其道一而後至者。是命。倘一毫有レ所レ不二自盡一焉。則○人爲爾。不レ可レ謂二之命一也。

晦庵太極圖解云。太極之有二動靜一。是天命之流行也。蓋依二周頌維天之命之詩一而言レ之。程子亦曰。天道不レ已。文王純二於天道一。亦不レ已。皆指二一陰一陽往來不一レ已者一而言。尤非也。所謂(十六)命者。乃謂下上天監二臨人之善惡淑慝一。而降二之吉凶禍福一。詩曰。維天之命。於穆不レ已。其意蓋謂。天命二文王一。王二斯大邦一。延及二子孫一。永篤保レ之。故其下繼レ之曰。於乎不レ顯。文王之德之純。假以溢レ我。我其收レ之。駿惠我文王。曾孫篤レ之。可レ見詩意。總言二保佑命レ之自二天申一之之意一。本無二陰陽流行之意一。太甚分曉。〔評〕十六、詩書所レ謂。駿命不レ易。惟命不レ于常之類。皆只言二上天附一レ之以二天下國家之福一耳。非二泛言二福善禍淫一也。仁齋以二天道混二天命一。辨明二于下一。

聖人既曰二天道一。又曰二天命一。所レ指(不同各殊)。學者當レ就二其言一。(各)理二會聖人立一レ言之本旨一。蓋一陰一陽往來不レ已。之謂○天。命。理自分曉。宋儒不レ察。混而一レ之。斃二于聖經一特甚矣。陳北溪字義曰。命一字有二二義一。有二以レ理言者一。有二以レ氣言者一。其說出二於考亭一。杜撰特甚。觀二其所謂理之命者一。即聖人所謂天道者。而獨於二聖人所謂命者一。推爲二氣之命一。故天道天命。○本混而

爲一。而聖人所謂命者。反爲命之偏者可乎。聖人既曰天道。又曰天命。則可知天道與天命自有別。北溪又謂有理之命。(十八)又有氣之命。而氣之命中。又有兩般。嗚呼聖人之言。奚支離多端。使人難曉若此邪。

〔評〕十七、古書曰天道。曰天命。所指雖異。而其事則同。如曰天道福善禍淫。天道虧盈而益謙。猶言君道賞善罰惡也。是言天道之常。如曰勅天之命。恪謹天命。猶言君有命令。而賞有功罰有罪也。是就所命於人而言。亦天道之行也。詩書所謂天命。皆是也。如曰道之將興也與命也。亡之命矣夫。是謂不當受禍而然。人力之所不能免。要亦天之所命也。猶君命或失當。爲臣者末如之何也。是天道之變也。仁齋以陰陽言天道。不言天道之常者。而言其變。此亦疎矣。

〔評〕十八、理之命。謂仁義禮知之性。氣之命兩般。一謂氣質賢愚之不同。一謂命之厚薄。何謂知命。安而已矣。何謂安。不疑而已矣。本非有聲色臭味之可言。蓋無一毫之不實。無一毫之不盡。處之泰然。履之坦然。不貳不惑。當謂之安。當謂之知。孔子曰。丘之禱也久矣。亦此意。不可以見聞之知而言。伊川云。知命者。知有命而信之也。此看(命)字甚淺。(十九)所謂知命云者。處乎死生存亡窮通榮辱之際。泰然坦然。烟銷氷釋。無一毫動心處。而謂之知命也。知有命而信之。是不待君子而後知之也。

〔評〕十九、看命字甚淺。當作看知字甚淺。考亭又以謂聖人不消言命。只爲中人以下說。非也。孔子說命處甚多。豈皆爲中人以下說之乎。孟子曰。孔子得之不得曰有命。而主癰疽與侍人瘠環。是無義無命也。何以爲孔子。孔子亦曰。不知命。無以爲君子也。孟子以此論孔子。孔子以此論君子。皆非爲中人以下說。其他聖賢自言命者。不可枚舉。宋儒皆委曲遷就。(二十)不知其說之有所不通。語曰。人不知而不慍。不亦君子乎。中庸曰。遯世不見知。而不悔。惟聖者能之。○皆是知命之境界。蓋學問之極功。君子之本分。非中人以下之所能及也。謂聖人不消言命者。(實)大非聖人之旨。

〔評〕二十、貧富禍福安於所遇者。不必言命。凡人稍不得意。則言命以遣其悶。亦猶世俗言因果。出於無如之何也。雖宋儒之言過高。亦甚有理。

論語集註引尹氏曰。用舍無與於己。行藏安於所遇。命不足道也。其意以爲學問當言義。而命不足道。此不深考耳。蓋有當言義處。有當言命處。何者。出處進退在於己。言義可矣。若夫國之存亡。道之興廢。專繫於天。雖聖人。亦不得如己之所欲。故曰。道之將行也與命也。道之將廢也與命也。孟子曰。孔子得之不得曰有命。聖人亦固言命也。故或可言義。或可言命。其專言命不足道者非也。夫無天爵而人爵至。非義。不可受之也。有天爵而人爵從之。義也。當受之也。有天爵而人爵不至。命也。安之而已矣。此義命之辨也。伊川曰。(二十一)賢者惟知義而已。

命在其中。」朱子曰。人事盡處。便是命。義命混合。頗欠分曉。蓋有義而無命者有矣。有命而不義者有矣。其曰命在義中者非也。

〔評〕二十一、程朱之意。謂人之遇禍。未盡人事。是有我致之者。不可委之命也。非混合義命也。仁齋於上既云盡其道而後至者是命。盡其道即盡人事也。何爲通彼而不通此。

集註又有命稟於有生之初非今所能移之說。夫所貴乎學者。以其致知崇德。而能變氣質也。倘果若其說。則智愚賢不肖。貧富夭壽。皆一定於受生之初。而學問脩爲。皆無益於己。聖人之教。亦徒爲虛設。弗思之甚也。書曰。惟命不于常。詩曰。保佑命之。自天申之。孟子曰。莫之致而至者命也。皆據今日之所受而言。非一定而不移之謂。孔子曰。畏天命。孟子曰。不立乎巖牆之下。若使命果爲一定之數。非今日之所能移。則奚足畏。亦奚不立乎巖牆之下。其說之不通如此。

〔評〕二十二、朱子解死生有命云云。今人亦遇人之夭折。慰其父母兄弟云。是必壽命。言其受命之短。不可奈何也。徵之於人。亦有然者。子夏之意。安知非如朱註乎。仁齋執之。以駁論宋儒。恐似深刻。

道　凡五條

道猶路也。（二十三）人之所以往來也。故陰陽交運。謂之天道。剛柔相須。謂之地道。仁義相行。謂之人道。

皆取往來之義也。又曰。道猶途也。由此則得行。不由此則不得行。所謂何莫由斯道也。及道也者不可須臾離也是也。蓋取於由此則得行之義。惟以其足以往來。故不得不由此而行矣。雖有二義。實一理也。又有以人之所行而言者。若大學之道。及生乎今之世而反古之道是也。然皆因通行之義而假借之。故有天道。有地道。有人道。及異端小道。百藝之末。皆得以道言之也。北溪曰。易說一陰一陽之謂道。孔子此處是就造化根原上論。大凡聖賢與人說道。多是就人事上說。惟此一句。乃是贊易時。說來歷根原。愚謂不然。謂天人一道。（二十四）則可。爲道字來歷根原。則不可。易語是說天道。如率性之謂道。及志於道。可與適道。道在邇等類。是說人道。說卦明說立天之道。曰陰與陽。立地之道。曰柔與剛。立人之道。曰仁與義。不可混而一之。其不可以陰陽爲人之道也。猶不可以仁義爲天之道也。凡聖人所謂道者。皆以人道而言之。至於天道。則夫子之所罕言。而子貢之所不得而聞也。其不可也必矣。

〔評〕二十三、道以通行言。仁齋拘泥一陰一陽之謂道。而有此解。然剛柔仁義。不可言往來。故其說甚苦。易有六爻。配之三才。天地人各兩之。故以陰陽剛柔仁義充之。非取於往來之義也。且道猶路也。道猶途也。路之與途何異。往來一義。宜刪。

〔評〕二十四、陰陽仁義。不可混而一之。則可謂天人一道乎。若夫盈而溢。天之道也。則謂天

人一道。可ㇾ笑。

道者。人倫日用當ㇾ行之(路)(道)。非ニ待ㇾ教而後有一。亦非ニ矯揉而能然一。皆自然而然。至ニ於四方八隅一。遐陬之陋。蠻貊之蠢。莫ㇾ不ニ自有ニ君臣父子夫婦昆弟朋友之倫一。亦莫ㇾ不ニ有ニ親義別叙信之道一。萬世之上若ㇾ此。萬世之下亦若ㇾ此。故曰。道也者不ㇾ可ニ須臾離一也是也。若ニ佛老之教一。則不ㇾ然。崇ㇾ之則存。廢ㇾ之則滅。有焉而不ㇾ爲ㇾ用。無焉而不ㇾ爲ㇾ損。古昔堯舜禹湯文武之時。世咸太平。民皆壽考。不ㇾ以ㇾ無ニ二氏一爲ㇾ患。自ニ佛老始盛一以還。人主崇ニ奉之一者。不ㇾ爲ㇾ不ㇾ多。然而大崇ニ奉之一則大亂。小崇ニ奉之一則小亂。非ニ若ニ吾聖人之道一。不ㇾ能ㇾ使ニ天下一日無一ㇾ焉。故曰。有焉而不ㇾ爲ㇾ用。無焉而不ㇾ爲ㇾ損。

〔評〕二十五、聖人之教。有ㇾ以ニ矯揉全ニ天性之自然一者。蓋以ㇾ有ニ直情徑行一。而傷ニ天性之自然一者也。如ニ夫婦之別一。是其易ㇾ見者也。天生ニ蒸民一。有ㇾ物有ㇾ則。故雖ニ蠻貊之邦一。皆有ニ此道一也。

〔評〕二十六、後世人君之德不ㇾ及ㇾ古。故道釋二教助ニ治化一。不ㇾ可ㇾ言ㇾ不ㇾ爲ㇾ用也。若夫崇奉而國亂者。人主不ㇾ務ニ政教一。而徒事ニ佛老一者之失。而非ニ佛老之罪一也。六經之猶有ニ末弊一。況於ニ佛老乎。儒者宜ニ平心論一ㇾ之。

孟子曰。道若ニ大路一然。豈難ニ知哉一。所謂大路者。貴賤尊卑之所ニ通行一。猶ニ本國五畿七道一。洎唐十道。宋二十三路一。上自ニ王公大人一。下至ニ於販夫馬卒跛奚瞽者一。皆莫ニ不由ニ此而行一。唯王公大人得ㇾ行。而匹夫匹婦不ㇾ得ㇾ行。則非ニ道。賢知者得ㇾ行。而愚不肖者不ㇾ得ㇾ行。則非ニ道。故曰。若ニ大路一然。只在ニ

安焉與ニ勉焉之別一而已。若ニ佛老之教。及近世禪儒之說一。高唱ニ空虛難一ニ憑之理一。好爲ニ高遠不一ㇾ可ㇾ及之說一。非不ニ奇而可一ニ喜。非一ニ不ニ高而可一ニ驚。然奈ニ其非一ニ通乎天下一。達乎萬世一。而不ㇾ可ㇾ須臾離ニ之道一ㇾ何。故欲ニ辨ニ吾儒與ニ異端一之眞僞是非一。本不ㇾ待ニ費多言一。只察ニ於其可ニ得而離一。與ニ不一ㇾ可ニ得而離一可ㇾ矣。

道體二字不ニ經見一。自ニ宋儒發一ㇾ之。伊川以ニ陰陽無端一。動靜無ニ始爲ニ道體一。晦庵以ニ無聲無臭一。所ニ以然一之理一爲ニ道體一。而就ニ二家之說一論ㇾ之。伊川之說。自庶幾於一陰一陽之謂ニ道之旨一。但不ㇾ可ㇾ立ニ道體之名一焉耳。然易以ニ氣言一。伊川以ニ理言一。則其說雖ニ甚似一。然意則異矣。若ニ晦庵之說一。於ニ聖人之書一。本無ニ斯理一。蓋淵源老莊虛無之說來。或曰。朱說本出ニ於易形而上者謂ニ之道一。形而下者謂ニ之器之說一。曰。此狃ニ聞朱說一。而誤ニ會其義一耳。譬諸扇。其生ニ風是扇之道一。紙骨之類是器。猶ニ言炎上是火之道一。潤下是水之道一也。朱子之意以爲扇之生ニ風是器一。其所ニ以生一ニ風之理是道一。非一ニ也。豈可ニ指ニ氣而爲ニ器乎一。

〔評〕二十七、道躰二字。本出ニ乎老莊之學一。淮南子曰。无爲者道之躰也。又曰明ニ於禮義一推ニ道躰一。孔穎達正義云。以ニ無言一ㇾ之。存ニ乎道躰一。宋儒以ニ理爲ニ道躰一。非ニ聖學之面目一也。

〔評〕二十八、東涯曰。道易道也。器蓍龜也。易道無ニ形。因ニ蓍龜一以示ニ吉凶一。此所ニ以言ニ形而上下一也。

〔評〕二十九、宋儒据ニ形而上二語一說ニ理氣一。猶ニ舉一ニ寂然不動二句一。以爲ニ人心之妙用一ㇾ也。亦郢書燕說。

佛氏以ニ空爲一ㇾ道。老子以ニ虛爲一ㇾ道。佛氏以爲山川大地盡是幻妄。老子以爲萬物皆生ニ於無一。然而天地萬古

常覆載。日月萬古常照臨。四時萬古常推遷。山川萬古常峙流。羽者毛者。鱗者裸者。植者蔓者。萬古常若」此。以」形化者。萬古常以」氣化。相傳相蒸。生〻無」窮。何所」見」夫所謂空虛者」邪。彼蓋出」於用」智廢」學。屛」居山林」。默坐澄心。所」得一種見解」。而非」天地之內。天地之外。實有」斯理」。凡父子之相親。夫婦之相愛。儕輩之相隨。非」惟人有」之。物亦有」之。非」惟有」情之物有」之。雖」竹木無」智之物」。亦有」雌雄牝牡子母之別」。況於」四端之心。良知良能。固有於「己」者」乎。非」惟君子能存」之。雖」行道之乞人」。亦皆有」之。聖人品」節之」。以爲」教耳。非」有」強」之。故中庸曰。君子之道。本」諸身」。徵」諸庶民」。考」諸三王」而不」謬。建」諸天地」而不」悖。質」諸鬼神」而無」疑」。百世以俟」聖人」而不」惑。故若」聖人之道」。則非」徒徵」諸庶民」。考」諸三王」。建」諸天地」。質」諸鬼神」。無」所」悖戾。大凡至」於草木蟲魚沙礫糟粕」。皆無」所」不」合。若」佛老之說」。求」之天地日月山川草木民物諸彙」。皆無」所」驗。可」知天地之間。畢竟是無」此理」。

〔評〕三十、佛老以」空虛爲」道」。亦自有」其旨」。儒者不」以」是混」我道」則可矣。究」詰此理之有無」者。恐非」達人之見」也。

理　凡五條

理字與」道字」相近。道以」往來」言。理以」條理」言。故聖人曰」天道」曰」人道」。而未」嘗以」理字」命」之。易曰。窮」理盡」性。以至」于命」。蓋窮」理以」物言。盡」性以」人言。至」命以」天言。自」物而人。而天。其措」詞自有」次第」。可」見以」理字」屬」之事物」。而不」係」之天與」人。而以」理字」屬」之事物」乎。曰道字本活字(三十一)。所」以形」容事物之條理」。而不」足」以形」容天地生生化化之妙」也。若」理字。本死字(三十二)。從」玉里聲。謂」玉石之文理」。可」以形」容事物之條理」。而不」足」以形」容天地生生化化之妙」也。蓋聖人以」天地」爲」活物」。故易曰。復其見」天地之心」乎。老氏以」虛無」爲」道。視」天地」若」死物」然。故聖人曰」天道」。老子曰」天理」。言各有」攸當。此吾道之所」以與」老佛」自異。不」可」混而一」之也。按天理二字。屢見於莊子。而於」吾聖人之書」無」之。樂記雖」有」天理人欲之言」。然本出」於老子」。而非」聖人之言」。象山陸氏辨」之明矣。（象山陸氏曰。天理人欲之言。亦自不」是至論」。若天是理人是欲。則是天人不」同矣。此其原蓋出」於老子」。樂記曰。人生而靜。天之性也。感」於物」而動。性之欲也。物至知知。而後好惡形焉。不」能」反」躬。天理滅矣。天理人欲之言。蓋出」於此」。樂記之言。亦根」於老氏」。）

〔評〕三十一、道路不」解」往來」。所」謂往來者人也。然則道亦死字也。豈可」以」文字死活」。而論」其當否哉。今平心論」之。道見於外而」。理存於裡面」。故道廣大而淺。理細密而深。古人唯說」其法」。而不」及」其理」。後世其法殘闕。故多論」其理」。其勢然也。天理之言。雖」出」老莊」。而老莊主」虛无」。宋儒主」理義」。其旨不」翅天淵」。不」可」一概論」之也。

〔評〕三十二、老子之書。每每曰」道」。故稱」道家」。言」天理」者少矣。其言」天理」者。就」人物之性」而言」之。猶」言」天性」也。本不」合」曰」天道」。樂記之言。出」乎文子」。其立言之旨。非」由」乎死生之義」也。」（三十三）若」後世儒者」。倘捨」理字」。則無」可」以言」者矣。其所」聖人每以」道字」爲」言。而及」于理字」者。甚罕矣。專以」議論」爲」主。而不」以」德行」爲」本。其勢自不」能」不」然。

且以理爲主。則必歸于禪莊。蓋道以所行言。活字也。理以所存言。死字也。聖人見道也實。故其說理也活。老氏見道也虛。故其說理也死。聖人每曰天道曰天命。而未嘗曰天理。曰人道曰人性。而未嘗曰人理。唯莊子屢言理字。不勝其多。彼蓋以虛無爲其道故也。所以措詞自不能不如此。吾故曰。後世儒者。以理爲主者。爲其本從老氏來也。

〔評〕三十三、宋儒所謂理者。以主宰言。非唯古人所謂條理而已也。恐不可以死活貶之。

理義二字。亦相近。理是有條而不紊之謂。義是有宜而相適之謂。河流派別。各有條理。之謂理。水可舟陸可車。之謂義。不修其身。而求禱鬼神。萬無感應者。理也。宗廟五祀可禱。而牛鬼蛇神一切淫祀之類。不可禱者。義也。推若此之類。可以識其別矣。程子曰。在物爲理。處物爲義。其說固也。然未盡。若此則理是在物。義是在己。以孟子理義之悅我心。猶芻豢之悅我口之言觀之。則見理義兩者。本自天下之至理。而以吾心即仁義之良心。故理也義也。皆與吾心相適。故曰。猶芻豢之悅我口也。豈一以屬物。一以屬己。而可乎哉。

中庸序曰。愈近理而大亂眞。胡雲峰曰。此之虛。虛而有。彼之虛。虛而無。此之寂。寂而感。彼之寂。寂而滅。學者狃聞其說。皆以謂吾儒與佛者異處。唯在於用上。而至其理之體。則本甚相近。可謂亂道之甚也。夫有斯本。則必有斯末。有斯末。則必不可無其本。非徒於其用處相反。其體之相異。猶水火黑白之相反。生死人鬼之相隔。邈乎不可相入。若謂愈近理。則所謂同

浴而笑人之裸體者。而儒之與佛何相反之有。若謂吾寂寂而感。彼寂寂而滅。則諺所謂改頭爲面者。而亦何相異之有。豈非亂道之甚也耶。大凡體用之說。本起於近世。聖人之書無之。唐清涼國師華嚴經疏曰。體用一源。顯微無間。從伊川用此二句入于易傳序中。儒者視以爲至珍至寶。而不知其說本自禪學來。夫佛者以寂滅爲吾眞體。而不能悉滅人事。故說眞諦說假諦。自不能不立體用之說。殊不知一陰一陽。天道之全體。仁義相行。人道之全體。外此無所謂體。亦無所謂用。不可以體用說聖人之學如此。若立體用。則理爲體事爲用。體本而用末。體重而用輕。近思錄論道體存養諸卷。都爲學問之本根。而論孟等書。反爲無緊要之書。主靜無欲等說。獨爲其躰。而孝弟忠信。總爲之用。其害道特甚。而若虛字寂字。本皆佛老之常言。而於吾聖人之書皆無之。但易咸大象曰。君子以虛受人。繫辭曰。寂然不動。感而遂通天下之故。虛字寂字。纔見於此耳。然咸卦所謂虛云者。謂中無私心。繫辭所謂寂云者。贊著之德云爾。非謂理之體也。且若寂字。程子亦只假之以論心。初學者不知易之本旨。以爲聖人之旨本如此。可謂謬矣。大抵宋之一代。禪學大行于天下。文武百官。男女老少。凡識字者。皆莫不學禪。故儒者習聞其說而不覺。自以其理解吾聖人之書。後學亦只以爲吾聖人之學眞如此。悟不知怪。可慨也哉。

〔評〕三十四、盧謂不有其知見也。

程子曰。(三十五) 沖漠無朕。萬象森然已具。未應不是先。既應不是後。沖漠無朕四字。出於莊子。萬象森

羅四字。多見佛書。蓋即維摩所謂芥子納須彌之理也。維摩之室。設三萬二千獅子座。亦即此理。譬猶懸鏡室中。人畜器用。皆歷歷可見。其數有限。不增不減。而後可也。然而建諸天地。則皆悖。蓋天地之化。生生無窮。有則愈有。無則愈無。當其有之盛。則愈相倍蓰。雖極天下之巧。不能算焉。儻至於無之極。則滅而又滅。泯然斷盡。無跡之可尋。此天地之妙也。故聖人之道。所以爲眞實正當之教。而老莊所謂沖漠無朕。芥子納須彌等說。實出於世俗陋見。飾以硬語耳。本甚淺近易到。程傳則謂動靜無端。陰陽無始。非知道者。孰能識之。蓋指佛老而言。可謂至言矣。

〔評〕三十五、程子之意。謂人心之靈。一念未發之前。衆理既具也。非芥子納須彌之說也。仁齋泥萬象字面。故有此駁。恐未得程子之意。

德　凡四條

〔三十六〕德者。仁義禮智之總名。中庸曰。知仁勇三者。天下之達德也。韓子亦曰。吾所謂道德云者。合仁與義言是也。然謂之德。則仁義禮智之理備。而其用未著。既謂之仁義禮智。則各見於事。而有迹之可見。故經書多言德。而又言仁。蓋爲此也。

〔評〕三十六、凡有於身者謂之德。古書曰懿德。曰明德。曰至德。又曰凶德。曰涼德。曰昏德。及君子之德風。小人之德艸。民德歸厚之類。可見通善惡而言矣。何止仁義禮知之總名云爾哉。德者指所存而言。然非其理備而用未著之謂也。道之以德。爲政以德。德之不修崇德尙德等數語。可以見其義也。

德字。及仁義禮智等字。古註疏皆無明訓。蓋非不能訓之。以本不可訓也。何者。學者之所常識。而非字訓之所能盡也。晦庵曰。德者得也。〔三十七〕行道而有得於心也。此語本出於禮記。但禮記作有得於身。晦庵改身字而作心字。然禮記所謂德者得也者。猶言仁人也義宜也。天顚也地示也。皆假音近者。以發其義。本非正訓也。若以德爲得之義。則德是待脩爲而後有。豈足盡本然之德哉。語曰。據於德。中庸曰。知徹之顯。可與入德矣。是等德字。皆有道字之意。便指仁義禮智之德而言。觀其據字入字可見矣。又曰。由知德者鮮矣。又曰。吾未見好德如好色者也。夫有一物。而後謂之知。又謂之好。若宋儒之所謂。則知好二字。意義不通。

〔評〕三十七、凡人之善惡。有生而然者。有習而然者。凡人之所有。不論生與習。總名之曰德。德者得也之訓。固非正訓也。然所謂德者。就人身所有而言也。豈有不待人身而有本然之德者。自在天地間乎。據於德。入於德。亦自人身所得之善。轉而爲德行之法。知德好德。則謂有德者也。仁齋以德爲本來有於天地間者。比於宋儒具在於人性者。反無著落矣。

道德二字。亦甚相近。道以流行言。德以所存言。道有所自導。德有所濟物。中庸以君臣父子夫婦昆弟朋友之交爲達道。以知仁勇爲達德是也。〔三十八〕若推而言之。則一陰一陽。天之道也。覆而無外。

天之德也。剛柔相濟。地之道也。生物不測。地之德也。或補或瀉。藥之道也。能療病活命。藥之德也。或炎或燒。火之道也。能調和飲食。火之德也。由是觀之。道德二字之義。自當分明。

〔評〕三十八、一陰一陽。天之道也。能爲一陰一陽者。天之德也。生物不測。地之道也。能爲生物不測者。地之德也。藥火之道之德亦然。如療病活命調和飲食。火藥之功也。道德一也。以流行謂之道。以存主謂之德。仁齋云。道有所自導。德有所濟物。此亦非確論。

聖人言德。而不言心。後儒言心。而不言德。蓋德也者。天下之至美。萬善之總括。故聖人使學者由焉而行之。若心本清濁相雜。但在以仁禮存之耳。孔子曰。其心三月不違仁。又曰。從心所欲不踰矩。(三十九)孟子曰。有恒產則有恒心。無恒產因無恒心。曰仁。曰矩。曰恒。是德。心則在處之如何耳。是聖人之所以言德而不言心也。而後儒見心而不見德。故以心爲重。而一生功夫。總歸之於此。所以學問枯燥。無復聖人從容盛大之氣象。蓋坐此故也。

〔評〕三十九、矩法也。恒只是一定不移之意。並非德也。且据此所引。則孔孟亦言心。不唯言德也。雖後儒之學主心。然豈不言德不見德乎。宜言聖人主修德。後儒主撿心。甚矣仁齋之失辭理也。

仁義禮智　凡十四條

(四十)慈愛之德。遠近內外。充實通徹。無所不至。之謂仁。爲其所當爲。而不爲其所不當爲。之謂義。尊卑上下。等威分明。不少踰越。之謂禮。天下之理。曉然洞徹。無所疑惑。之謂智。天下之善雖衆。天下之理雖多。然仁義禮智爲之綱領。而萬善莫不自總括於其中。(四十一)故聖人以是四者爲道德之本體。而教學者由此而脩之也。

〔評〕四十、論語所謂仁。或謂德之至者。或稱功之大者。或以愛言。或以誠言。凡事得其當謂之義。禮者聖人之所制也。知者人心明於是非之謂也。仁齋之解。猶隔一膜。學者宜致思焉。

〔評〕四十一、聖人以是四者。爲道德之本躰。此亦似無徵。

仁義禮智之理。(四十二)學者當以孟子之論作本字註脚看。蓋孔門學者。以仁義禮智爲家常茶飯。不復有疑於其間。故門人弟子。惟問其所以爲之之方。夫子亦以其所以爲之之方告之。而未嘗論仁義禮智之義。故今不能據其詞而推其理。至孟子時。則聖遠道湮。學者非惟不得脩仁義禮智之方。亦併仁義禮智之義而不知之。故孟子爲學者諄諄然明論其理。(四十三)指其源委。委曲詳悉。無復滲漏。(四十四)故學者當原之於孟子。察其義理。而後會之於論語。求其全體。則玆無餘蘊矣。程朱諸家。所以不免於仁義禮智之理有差者。蓋爲不知原之孟子。而徒就論語言詞上。理會仁義禮智之理焉耳。孟子曰。惻隱之心。仁之端也。羞惡之心。義之端也。辭讓之心。禮之端也。是非之心。智之端也。人之有是四端也。猶其有四體也。又曰。人皆有所不忍。達之於其所忍。仁也。人皆有所不爲。達之於其所爲。義也。學者就此二章求之。則於仁義禮智之理。自釋然矣。其意

以爲人之有是四端。即性之所有。人人具足。不待外求。猶四體之具於其身。苟擴而充之大之。則能成仁義禮智之德。猶火之始燃。自至於燎原之熾。泉之始達。必至於襄陵之溥。漸漸循循。其勢自不能已焉。至於後一章。其義尤分明。無復可疑。所謂人皆有所不忍。有所不爲者。即惻隱羞惡之二端也。而謂達之於其所忍所爲。而後能爲仁爲義。則見四端之心。是我生之所有。而仁義禮智。即其所擴充而成也。

〔評〕四十二、仁齋雖惡理字。然動言理字。是後世之語言然也。然以余觀之。上條天下之理。宜言天下之德。此條仁義禮知之理。宜言仁義禮知之義。

〔評〕四十三、孟子曰。惻隱之心仁也。羞惡之心義也。言人心固有仁義耳。非論仁義禮知之義也。

〔評〕四十四、論語所謂仁者。雖以愛爲本。而不可專以愛之一端而解之。仁齋以孟子爲論語之註脚。未免牽合。如朱子釋仁義二云心之德心之制。却就孟子言詞上而得之耳。知字無解。以天理之節文人事之儀則釋禮字。未見其從論語言詞上理會仁義禮知之理也。

(四十五)
仁義禮智四者。皆道德之名。而非性之名。道德者。以徧達於天下而言。非一人之所有也。性者。以專有於己而言。非天下之所該也。此性與道德之辨也。易曰。立人之道。曰仁與義。中庸曰。(四十六)自漢知仁勇三者。天下之達德也。孟子曰。既飽以德。言飽乎仁義也。仁義爲道德之名彰彰矣。

唐諸儒。至於宋濂溪先生。皆以仁義禮智爲德。而未嘗有異議。至於伊川。始以仁義禮智爲性之名。而以性爲理。自此而學者皆以仁義禮智爲理爲性。而徒理會其義。不復用力於仁義禮智之德。至於其功夫受用。則別立持敬主靜致良知等條目。而不復狥孔氏之法。此予之所以深辨痛論。繁詞累言。聊瞽愚衷。以不能自已者。實爲此也。非好辨也。或曰。伊川何以謂仁義禮智爲性耶。蓋觀孟子仁義禮智非由外鑠我也。我固有之也。及仁義禮智根於心之語。以爲仁義禮智是性。而不再推到孟子之意所在。殊不知其所謂固有云者。固與謂之性自不同。蓋孟子之意以爲人必有惻隱羞惡辭讓是非之心。是四者人之性而善者也。而仁義禮智天下之德。而善之至極者也。苟以性之善而行天下之德焉。則其易也猶以地種樹。以薪燃火。自無所窒礙。故擴充惻隱羞惡辭讓是非之心。則能成仁義禮智之德。而雖四海之廣。自有易保焉者矣。蓋人之性不善。則欲成仁義禮智之德而不得。唯其善。故得能成仁義禮智之德。故謂仁義即吾性可也。謂吾性即仁義亦可也。但以仁義爲性中之名。則不可也。所謂固有者意蓋如此。其理甚微。所謂毫釐千里之差。實在於此。學者不可不反復體察焉。而其所謂根於心者。本對(四十八)覇而言。夫覇者之行仁義也。皆假之以濟己之欲。而非己之眞有也。王者之行政也。在仁義禮智。故曰根於心。其義豈不明哉。

〔評〕四十五、道以人之所由而言。德以人之所有而言。而所謂性與道德。皆就天下之所同然

而言之。仁齋之言非是。

〔評〕四十六、人性具五常之德。漢儒以來。其說已久矣。濂溪通書云。德愛曰仁。宜曰義。理曰禮。通曰智。守曰信。仁齋故云云。然太極圖說所謂五性感動者。亦謂五常之性也。非自伊川始也。至朱子注論語釋仁云。愛之理。心之德。是專以仁理爲性。大失孔孟之意。然宋儒致知講禮。事履亦甚勤矣。今言徒理會其義。不復用力於仁義禮知之德。是似大聲虛喝。極詆先賢。恐不免識者之笑。惜夫。

〔評〕四十七、仁義禮知。亦人之道德也。中庸云。成己仁也。成人知也。性之德也。子思既謂仁知爲性之德矣。孟子曰。惻隱之心仁也。羞惡之心義也。又云仁人心也。是與言仁義人性也何異。能成仁義禮知之德。亦盡其性也。四端四德一以貫之可矣。朱子釋仁義云。心之德。心之制。是謂爲性中所具之理之名。固失之矣。仁齋反覆引喻。嘖嘖然以辨仁義非性。恐亦失孟子之旨矣。

〔評〕四十八、孟子只言君子所性。何必對覇而言。仁義禮知根於心。猶詩所謂維此王季因心則友也。只稱其中心安之仁耳。

聖賢論仁義禮智之德。(四十九) 有自修爲而言者。有自本體而言者。有書曰。以義制事以禮制心。及論語曰。我欲仁斯仁至矣。孟子所謂仁人之安宅也。義人之大路也。及居仁由義

大人之事備矣。及君子以仁存心以禮存心等語。皆是也。其自修爲而言者。若四端之章。及人皆有所不忍。達之於其所忍仁也等語是也。本體云者。乃指人能修仁義禮智之德。而有於其身而言。

〔評〕四十九、論字本躰字皆不妥。宜言聖賢言仁義禮知。有舉道德而言者。夫仁義禮知者。道德之目也。豈有所謂本躰字者乎。不察之甚。

〔評〕五十、德之本然。非唯無其理也。於言亦不順矣。宜言道德云者。是古人所立之教法也。」

仁義二者。實道德之大端。萬善之總腦。智禮二者相須相濟。而後人道得全。故中庸曰。仁者人也。親親爲大。義者宜也。尊賢爲大。親親之殺。尊賢之等。禮所生也。孟子亦曰。仁之實事親是也。義之實從兄是也。智之實知斯二者弗去是也。禮之實節文斯二者是也。其理尤分明矣。(五十一) 而宋儒專謂仁一事實兼義禮智三者。其言終爲定說。而學者莫能識其說之謬。孔孟也。自今以往。學者只當按孟子及易中庸之旨。爲之準則而可。

〔評〕五十一、宋儒謂。專言仁則包義禮知三者在其中。偏言仁則唯屬仁一事。稽諸語孟。亦復如是。君子去仁惡乎成名。仁者必有勇。道二仁與不仁而已矣。國君好仁。天下無敵。諸如此類皆專言仁而包衆德者也。宋儒之言。極得之矣。仁齋之論。反似拘泥不通。

仁與義。猶陰陽之相濟。而不可相勝。水勝火則不濟用。火勝水則熬而竭。仁義之不可偏勝亦如

此。仁而無義。則非仁。墨子之仁是也。(五十二) 義而無仁。則非義。楊子之義是也。故聖人曰仁則有義在。曰義則有仁在。

〔評〕五十二、墨子之兼愛。似博愛之仁。楊子之爲我。似差別之義。楊墨未嘗稱仁義。此論未免疎矣。

孔門學者。以仁爲其宗旨。若家常茶飯然。出入起居。莫不從事於此。而觀夫子答門人問仁。(五十三) 多舉道德之旨。而與愛字不相干涉何也。蓋仁者之心。以愛爲體。故其心寬而不偏。樂而不憂。衆德自備。故夫子每必舉仁者之心而答之。曰仁者其言也訒。仁者不憂。仁者先難而後獲。仁者如射是也。皆自一愛流出而自成衆德故也。學者須理會孔孟之奧旨。不可以字義求之也。

〔評〕五十三、孔子答門人問仁。汎舉修爲之方。仁齋多舉道德之旨。蓋不善措辭也。如曰仁者其言也訒。仁者不憂之類。未見必自愛流出。多見其說之失於偏矣。

宋儒以仁爲性。予深以爲害于道者。若從宋儒之旨論之。則性爲未發。情爲已發。仁之存於未發之中。猶水之在于地中。仁之不能下手。猶水在於地中。則不可施澄治之功。其用功夫。(五十四) 纔在發用上。而於其本體。則無奈之何。故別立守敬主靜等說以補之。謂如此則不違於仁。而義自在其中矣。其功夫可謂甚疎矣。是以仁義禮智之德。終爲虛器。而無復用力於仁者矣。且孔孟說仁之言。皆爲纔言其用而無一及于體者。則孔孟之言。豈非失之一偏而其理不備者哉。與

孔門之教法同乎不同。學者默而識之可也。

〔評〕五十四、宋儒說性。雖汨於空理。然未嘗不用心於發用上。守敬主靜之工夫。自有意思。非如仁齋之說。至言仁義禮知終爲虛器。則誣之甚矣。

義訓宜。(五十五) 漢儒以來。因襲其說。而不知意有所不通。中庸謂義宜也者。猶言仁人也。禮履也。德得也。誠成也。但取其音同者。發明其義耳。非直訓也。學者當照孟子羞惡之心義之端也。暨人皆有所不爲。達之於其所爲義也等語。求其意義。自可分明。設專以宜字解之。則處處窒礙。失聖賢之意者甚多矣。

〔評〕五十五、凡事得其當謂之義。以宜訓之。自無窒礙。如孟子言羞惡之心義之端也。人皆有所不爲。達之於其所爲義也。是欲喩義之在我。而舉示其端耳。豈足以盡義字之解乎。仁齋偏信孟子。而不得仁義之全解。反病先儒之不通。謬矣。

禮字義本分明。然於禮之理甚多曲折。非學明識達者不能識焉。蓋禮之難知。(五十六) 不在於節文度數繁縟難識。而專在於斟酌損益。時措之宜。何則古禮多不宜於今。而俗禮亦不可全用。漢禮多不通於本國。而俗禮本無意義。若欲準古酌今。隨於土地。合於人情。上自朝廷下至於閭巷。使人循守而樂行之。則非明達君子不能作焉。故聖人之所謂知禮者。不在識名物度數之詳。而在知禮之理而能損益之也。

〔評〕五十六、禮之非本然之德。較然而明矣。

聖人所謂知者。與後儒所謂知者。(五十七) 亦夐然不同。所謂知也者。自脩己而及乎治人。自齊家而及于平天下。皆有用之實學。而非泛然從事於事物之末者也。觀大學所謂格物致知之法。(五十八) 起於誠意。而至平天下而止焉。則其所謂格物致知者。亦不出於誠意以下六條之外。而不在一草一木之察。

〔評〕五十七、後儒格物致知之說。固與古人之旨異矣。然其論仁義禮知。豈以格物爲乎。是應不必論也。

〔評〕五十八、是誤解大學致知之義也。

(五十九) 孔子並言仁智。而孟子以仁義連稱之何哉。蓋孔子主進學而言。智以知之。仁以守之。乃進學之要。故爲學者而言之也。孟子主道之本體言。人道之有仁義。猶天道之有陰陽。地道之有剛柔。蓋懼後世之學問陷于一偏。而爲楊墨之流也。或以爲孟子始以仁義並稱。非也。易中庸及莊子等書。亦皆以仁義連稱之。則孟子特從當時之名稱也。蓋可從而從之。非以意創始之也。

〔評〕五十九、孔子言仁知。多以成德稱之。不必主進學而言也。易中庸乃莊子戰國諸子。皆並言仁義。孟子從當時之名稱是也。言懼後世之學問。陷于一偏。則愆說也。

(六十) 佛老之所以與吾儒異者。專在於義。而後儒之所以與聖人相差者。專在於仁。其故何哉。佛氏以慈悲爲心。平等爲道。故以義爲小道。而慢棄之。殊不知義者天下之大路。苟舍義。則猶棄正路而由荊棘。其不可行也必矣。若後儒者。其德量淺狹。差別甚過。而無包容含弘之氣象。故視仁泛然。若無緊要者。而不知其自陷於刻薄之流。是所以與聖人相差也。

〔評〕六十、此說大畧得之。然審察之。則不免誣人。何者。佛氏常言佛法王法。其意蓋在佛法尙慈悲。王法主政治。固非欲以佛法治天下也。不可以不知義病之也。宋儒言仁者以天地萬物爲一躰。豈以仁爲無緊要者乎。但究理之弊。自至於刻薄耳。

(六十一) 孔孟以後。能識仁者鮮矣。蓋非知見之不及。特無其德也。漢唐儒者。議論雖淺。猶未失古意。去仁未甚遠。爲其不用意見也。至於宋。專以仁爲理。於是離仁之德益遠矣。甚而至於以無欲爲仁之體。虛靜爲仁之本。非止不識仁之德。其害於孔孟之旨。實甚矣。伊川論。心譬如穀種。生之性即是仁。是所謂以仁爲理者也。延平云。當理而無私心仁也。(六十二) 是可以訓誠字。而不可以訓仁字。若以當理而無私心訓仁。將以何語訓誠字乎。不深考焉耳。

〔評〕六十一、仁齋以愛爲仁。今日不學之人。亦以愛爲仁。豈難知乎。云孔孟以後能識仁者鮮者。是未免用意見也。如伊川以生理爲仁。朱子所謂。天地生物之心。爲愛之本。非謂虛靜之理。猶未失其路蹊也。

〔評〕六十二、無私心者公也。亦不可謂之誠。

心　凡四條

心者人之所(六十三)思慮運用。本非貴亦非賤。凡有情之類皆有之。故聖人貴德而不貴心。論語中說心者。纔有其心三月不違於仁。及從心所欲不踰矩。簡在帝心三言而已。然皆不以心爲緊要。至於孟子多說心。然亦皆指仁義之良心而言。不特說心。曰本心。曰存心是也。大凡佛氏及諸子盛言心者。本不知德之爲可貴。而妄意杜撰耳。與孔孟之旨。實霄壤矣。

〔評〕六十三、心者身之主宰也。通動靜而言。仁齋以動之一偏而言。非也。所謂存心放心者。豈可以思慮運用言之乎。不思甚矣。

(六十四)橫渠曰。心統性情。非也。孟子曰。存心養性。又曰。動心忍性。以此觀之。心自是心。性自是性。所指各殊。若以心爲統性情。則單言心而可。既言存心。而又言養性。則其言豈非贅乎。而偏言養性而遺情字。則其言亦偏矣。蓋養性則情自正。不別用脩情功夫也。

〔評〕六十四、性者心之所稟也。存心養性者。存仁義之心。以養其所稟之善也。動心忍性者。謂動其惕厲之心。而忍其天性之欲也。心性豈二物乎。

(六十五)論心者。當以惻隱羞惡辭讓是非之心爲本。夫人之有是心也。猶有源之水。有根之草木。生稟具足。隨觸而動。愈出愈不竭。愈用愈不盡。是則心之本體。豈有實於此者乎。今乃以心爲虛者。皆佛老之緒餘。而與聖人之道不止薰猶。學之不講。一至於此。可懼也夫。

〔評〕六十五、孟子言惻隱羞惡辭讓是非之心。但欲見仁義禮知我固有之耳。豈以四端爲心之本

躰云乎。夫四端之發也。本有良心也。其有良心者。天性之善也。所謂德性也。善養德性。其心益向善。而所發之善。豈止四端乎。先儒固泥孟子之言。仁齋何尤而效之。學者宜大其眼目。而察聖賢之大旨。

明鏡止水四字。本出於莊子。於聖人之書。本無此語。亦無此理。先儒以此喩聖人之心。吾觀其益天淵矣。周公思兼三王以施四事。其有不合者。仰而思之。夜以繼日。幸而得之。坐以待旦。孔子食於有喪者之側未嘗飽也。子於是日哭則不歌。何所見其爲明鏡止水乎。夫聖人之道。以彝倫爲本。而以恩義爲結。千言萬語。皆莫不以此爲教。今夫佛老之爲(六十六)教也。以清淨爲本。無欲爲道。暨乎功夫既熟。則其心若明鏡之空。若止水之湛。一疵不存。心地潔淨。於此恩義先絕。而彝倫盡滅。視君臣父子夫婦兄弟朋友之交。猶弁髦綴旒然。與聖人之道相反。猶水火之不可相入。夫草木生物也。流水活物也。雖寸苗之微。然養之而不害。則可以參雲。雖源泉之小。然進而不已。則可以放乎四海。人心亦然。養而不害。則可以與天地並立而參矣。故孟子之論心。每以流水萌蘖爲比。而未嘗以明鏡止水爲比。何者可以生物比生物。而不可以死物喩生物也。虛靈不昧四字。亦出於禪書。即明鏡止水之理。學者不可不明辨極論。以洞知其是非得失之所在究也。

〔評〕六十六、老子之教。固不滅人倫。佛氏亦有不盡然者。此亦不免過當。

性　凡五條

性生也。人其所生而無加損也。董子曰。性者生之質也。周子以(六十七)剛善剛惡。柔善柔惡。不剛不柔而中焉者爲五性是也。猶言梅子性酸。柿子性甜。某藥性温。某藥性寒也。而孟子又謂之善者。蓋以人之生質雖有萬不同。然其善善惡惡。則無古今無聖愚一也。非離於氣質而言之也。

〔評〕六十七、周子通書曰。性者剛柔善惡中而已矣。是只言衆人氣禀之不齊耳。非定爲五性也。大極圖說。所謂五性感動者。就一人分上言。漢儒所謂。五常之性。仁義禮知信也。仁齋讀近思錄。混合此兩說。此亦應然。

(六十八)孔子曰。性相近也。習相遠也。此萬世論性之根本準則也。而孟子宗孔子而願學之。其旨豈有二也乎哉。孟子固言物之不齊物之情也。可知其所謂性善也者。即述孔子之言者也。然後儒以孔子之言爲論氣質之性。孟子之言爲論本然之性。信如其言。則是非孔子不知有本然之性。孟子不知有氣質之性者乎。非惟使一性而有二名。且使孔孟同一血脉之學。殆若涇渭之相合。薰蕕之相混。一清一濁。不可適從。(六十九)其言支離決裂。殆不相入若此。夫天下之性。參差不齊。剛柔相錯。所謂性相近是也。而孟子以爲人之氣禀雖剛柔不同。然其趨于善則一也。猶水雖有清濁甘苦之殊。然其就下則一也。蓋就相近之中而擧其善而示之也。非離乎氣質而言。故曰。人性之善也。猶水之就下也。蓋孟子之學。本無未發已發之說。今若從宋儒之說。分未發已發而言之。則性既屬未發。而無善惡之可言。猶水之在於地中。則無上下之可言。今觀謂之猶就下也。則其就於氣質而言之明矣。又曰。乃若其情。則可以爲善矣。乃所謂善也。其意以爲鷄犬之無知。固不可告之以善。若人之情。雖若盜賊之至不仁。然譬之則悦。毀之則怒。知善善而惡惡。則是與爲善。是乃吾所謂善者也。非謂天下之性盡一而無惡也。以此觀之。則孟子所謂性善者。即與夫子性相近之旨無異。益彰彰矣。

〔評〕六十八、孔子言。性相近也。習相遠也。此戒習也。非論性也。孟子唱性善。則示非仁義自外鑠我。以勸人行仁義也。不必述孔子之言。然當時未有本然之說。故孔孟所說。皆後儒所謂氣質之性耳。宋儒之說。固非也。仁齋說學脈。亦墮於理窟。讀者平心審諸。

〔評〕六十九、夫言一端。各有所當。假令孔孟言性。如宋儒之說。豈可以支離一病之乎。今平心察之。立言之旨。各自不同。欲强合一之。頗見勞擾。

或曰。孟子性善之旨。皆就氣質而論。其旨明矣。猶亦有證左乎。曰。孟子嘗曰。犬之性猶牛之性。牛之性猶人之性與。又曰。如使口之於味也。其性與人殊。若犬馬之與我不同類也。則天下何者皆從易牙之於味也。可見孟子性善之說。本就氣質論之。而非離乎氣質而言之也。其他若曰動心忍性。曰形色天性也。曰口之於味也。目之於色也。耳之於聲也。鼻之於臭也。四支之於安佚也性也。皆以氣質論之。益分曉矣。而孟子之說。必歸于一而止。不可有二三。論氣質之

性。則本然之說不ㇾ行矣。既立ニ本然之說一。則不ㇾ可ㇾ復雜ニ氣質之說一也。其欲ㇾ明ニ聖門仁義之旨於天下萬世一。而必不ㇾ可ㇾ爲ニ若ㇾ此含糊不ㇾ決之論一。以誣ニ罔後世學者一也。故曰。孟子性善之說。就ニ氣質一而論ㇾ之。非ㇾ離ニ乎氣質一而言ㇾ之者也。

(七十)宋儒所謂性善云者。畢竟落ニ于無ㇾ善無ニ不善之說一。伊川曰。性即理也。而以ニ孟子所謂性善一當ㇾ之。然而孟子所謂性善者。本以ニ惻隱羞惡辭讓是非之心一言ㇾ之。故曰。人之有ニ是四端一也。猶ニ其有ニ四體一也。又曰。人性之善也。猶ニ水之就ㇾ下也。人無ㇾ有ニ不善一。水無ㇾ有ニ不ㇾ下。又曰。乃若ニ其情一。則可ニ以爲ニ善矣。乃所謂善也。皆就ニ人心發動之上一明ㇾ之。非ニ宋儒所謂本然之云一。晦庵集註曰。性者人所ㇾ稟ニ於天一以生ニ之理也。渾然至善。未ㇾ嘗有ㇾ惡。即性即理也之謂也。夫有ニ跡之可ㇾ見。而後謂ニ之善一。若未ㇾ有ニ跡之可ㇾ見焉。則將指ニ何者爲ㇾ善。既不ㇾ有ニ惡之可ㇾ見。則又無ニ善之可ㇾ見。故雖ㇾ曰ニ渾然至善一。然實空名而已矣。延平曰。動靜眞僞善惡。皆對而言ㇾ之。是世之所謂動靜眞僞善惡。非ニ性之所謂動靜眞僞善惡一也。惟求ニ善於未ニ始有一ㇾ惡之先一。而性之善可ㇾ見矣。此言最可ㇾ疑。豈外ニ世之所謂動靜眞僞善惡一。別有ニ動靜眞僞善惡者一乎哉。若果謂ニ有ㇾ之。則必非ニ虛見一。則妄見耳。而謂ニ性之善在ニ於未ニ始有一ニ善惡一之先一。則是求ニ吾身於父母未ㇾ生之前一也。最非ニ儒者之理一。凡謂ニ善。則必對ニ惡言一ㇾ之。然有ニ善有一ニ惡者其常。而推至ニ於其極一焉。則必歸ニ于善而止一。何也。人之性有ニ剛柔善惡之不一ㇾ同。夫人能識ㇾ之。不ニ待賢者一而後知ㇾ焉。若ニ揚之善惡混。韓之有ニ三品之說一是也。然非ニ究而論ㇾ之者一。雖ニ盜賊之至不善一。然

乍見ニ孺子之將一ㇾ入ニ于井一。必有ニ怵惕惻隱之心一。人有ニ嗜慾一。可ニ以受ニ噎爾之食一。可ニ以摟ニ東家之處子一。然必有ニ羞惡之心一爲之阻隔一。不ニ敢縱ニ其貪心一。非ニ性之善一。豈能然乎。是孟子論ニ性善之本原也一。非ニ有大聖賢者出一。而指ニ其迷途一。解ニ其紛亂一。孰能定ニ之一。故性即理也之說。畢竟落ニ于無善無ニ不善之說一。其謬皆出ニ於强分ニ體用一。而不ニ知ニ孔孟之教一。皆就ニ人心發動之上一論ㇾ之。而本無ニ未發已發之別一。詳見ニ于中庸發揮一。

〔評〕七十、此條發端。措辭失ㇾ宜。宜ㇾ言ニ宋儒以理說一ㇾ性。畢竟落ニ于無善無ニ不善之說一。伊川說ニ孟子性善一曰。性即理也。然孟子所ニ謂性善者一。

〔評〕七十一、王陽明曰。無善無惡。心之本躰。是宋儒以ニ未發一論ㇾ性之末弊也。仁齋之言。可ㇾ謂ニ知言一矣。

樂記曰。人生而靜。天之性也。感ㇾ物而動。性之欲也。晦庵取ㇾ之以爲ニ詩傳序起頭一。以爲眞合ニ于聖人之理一。而不ㇾ知本出ニ於老子之書一。而與ニ聖人之道一。實天淵南北矣。按此語本出ニ於文子之書一。文子老子弟子。以ニ虛無因應一爲ㇾ道。但文子。性之欲也作ニ性之害也一。蓋樂記剽ニ竊之也一。又見ニ於淮南子書一。劉安亦專宗ニ道家者流之說一。即文子之意爾。而先儒用ニ復性復初等語一。亦皆出ニ於莊子一。蓋老子之意以謂萬物皆生ニ於無一。故人之性也。其初眞而靜。形既生矣。而欲動情勝。衆惡交攻。故其道專主ニ滅ㇾ欲以復ㇾ性。此復性復初等語。所ニ由而起一也。儒者之學則不ㇾ然。人之有ニ四端一也。猶ニ其有ニ四體一。苟有ニ養

之。則猶火燃泉達不能自已。足以成仁義禮智之德而保四海。故曰。苟得其養。無物不長。苟失其養。無物不消。初無滅欲以復性之說。老莊之學與儒者之學。固有生死水火之別。其源實判於此。伊川好學論中說性。亦主樂記之理。學者不容於不辨。

四端之心 凡二條

四端之端。古註疏曰。端本也。謂仁義禮智之端本起於此也。按字書又訓始訓緒。總皆一意。而考亭特用端緒之義。謂猶物在于中而緒見於外也。然訓字之例。雖有數義。俱歸于一意。緒字亦當與本始字同。其義。想繭之有緒。繰治不止焉。則爲緒爲帛。至端兩丈疋之長。即有引而伸之之意。若考亭之所謂。則與本始之義相反。非字訓之例。孟子之意以爲人之有四端也。猶其身之有四體。人人具足。不假外求。苟知擴充之。則猶火燃泉達。竟成仁義禮智之德。故以四端之心爲仁義禮智之端本。此孟子之本旨。而漢儒之所相傳授也。又曰。中庸曰。君子之道。造端乎夫婦。左氏傳曰。履端於始。暨覺端。禍端。開端。發端等語。古人皆依本始之義用之。於是益知古註之不可不從。

〔評〕七十二、朱子集注。雖說四端如是。又有一說曰四端是始發處。端訓始字尤切。如發端履端開端之類皆始也。凡有四端。若火始然泉始達。然是即火之始。達即水之始。見大學衍義補。」孟子集註曰。四端在我。隨處發見。知皆即此推廣。而充滿其本然之量。則其日新又新。將有不能自已者矣。其所謂發見云者。謂見當惻隱者便惻隱。見當羞惡者便羞惡。見當辭讓者便辭讓。見當是非者便是非也。若此則不見當惻隱羞惡辭讓是非者焉。則惻隱羞惡辭讓是非之心。不由而發也明矣。然而當惻隱之事。日間無幾。動經十數日。亦或無有。至於羞惡辭讓是非之心。亦然。夫若此則用功之日常少。而曠廢之日常多。雖欲用擴充之。則將有左顧右眄。應接無暇。不堪其煩之患。孟子之意固不若此之迂。夫四端之在我。猶手足之具于吾身。不言而喻。不思而到。奚俟發見。亦何逐一著意察識之。其不理會孟子之意特甚矣。象山曰。近來論學者言。擴而充之。須於四端上逐一充焉。豈有此理。孟子當來只是發出人有四端。以明人性之善不可自暴自棄。苟此心之存。則此理自明。當惻隱處自惻隱。當羞惡處自羞惡。當辭遜處自辭遜。是非在前。自能辨之。其說亦甚過快。而不得孟子之意。則倖矣。孟子之意。則以人皆有所不忍。達之於其所忍仁也。人皆有所不爲。達之於其所爲義也。所謂所不忍所不爲者。即惻隱羞惡之心也。達云者。即擴充之謂。蓋謂使惻隱羞惡之心。無所不至。無所不通也。孟子之意。豈非甚明白的當。其用功亦甚親切易簡哉。蓋朱陸二先生雖皆能尊信孟子。然晦庵專以持敬爲主。象山以先立乎其大者爲要。而於擴充之功。皆未嘗實用其力。宜乎差失若此之甚。

〔評〕七十三、動當作動或。下或字可刪。

〔評〕七十四、假如朱說。豈有力不足之患乎。但辨其不得本旨。而工夫疎曠而可矣。

〔評〕七十五、朱陸二子。皆雖不得孟子之意。然其存心之專。或能擴充四端。暗合于孟子之旨。亦未可知也。宜但言不得其文義。今言於擴充之功。皆未嘗實用其力甲。恐是過武斷。讀者察諸。

情　凡三條

情者性之欲也。以有所動而言。故以性情並稱。樂記曰。感物而動者。性之欲也(七十六)。是也。先儒以謂情者性之動(七十七)。未備。更欲見得欲字之意分曉。人常言人情。言情欲。或言天下之同情。皆此之意。目之於色。耳之於聲。口之於味。四支之於安逸。是性。目之欲視美色。耳之欲聽好音。口之欲食美味。四支之欲得安逸。是情。父子之親。性也。父必欲其子之善。子必欲其父之壽考。情也。又曰。好善惡惡。天下之同情也。大凡推此之類見之。情字之義自分曉(七十八)。孟子曰。物之不齊。物之情也。言或大或小。或緩或急。物各有所好。故謂之情也。易所謂萬物之情。又是此意。孟子又曰(七十九)。人見其禽獸也。而以爲未嘗有才焉者。是豈人之情也哉。言爲人所榮。天下之所同好。爲人所辱。天下之所同惡。人指我以爲禽獸。非人之所欲。故曰。是豈人之情也哉。又所謂乃若其情則可以爲善矣。即是此意。

〔評〕七十六、性之欲也。淮南子作性之害也。本非謂情也。仁齋引之爲證。未免牽强。

〔評〕七十七、情者實也。心思之無所詐僞謂之情。即後世所謂人情實情也。古人曰情性。曰性情。只是一物。性以生稟言。情以無僞言。不必別躰用動靜也。孟子所謂物之情。易云萬物之情。莊子云性命之情。皆是實字之意也。仁齋云。物各有所好。布帛屨屨之類。豈有所好乎。其說之不通。未得其本義也。

〔評〕七十八、好好臭情也。惡惡臭亦情也。欲與不欲。皆實情也。仁齋就欲之一邊說。其失可見。

〔評〕七十九、孟子之意云。是豈人心本然之實也哉。與上文是豈山之性也哉同。性情二字。其義相通。可見仁齋不得其義。故其說迂曲補湊不通甚矣。

晦庵以四端爲情。尤無謂。孟子明曰四端之心。而未嘗曰四端之情。可見四端是心。非情。又註(八十)大學。指忿懥恐懼好樂憂患爲情。然大學亦曰正心。而不曰正情。可見忿懥等四者是心。非情。晦庵以爲心統性情。而以性爲心之體。情爲心之用(八十一)。故有此說。殊不知心是心。性是性。各有用功夫處。情只是性之動而屬欲者。總涉乎思慮。則謂之心。若四端及忿懥等四者。皆心之所思慮者。不可謂之情也。而惻隱羞惡辭讓是非之心。乃顯然有形者。非心而何。若不謂之心而謂之情。則將指何者爲心。乃悉廢心字而獨用情字可也。而古人以喜怒哀樂愛惡欲爲七情。蓋言情之品有此七者。謂喜怒哀樂愛惡欲即爲情。則不可也。凡無所思慮而動。之謂情。總涉乎思慮。

則謂之心。若喜怒哀樂愛惡欲七者。設無所思慮而動。則固可謂之情。纔涉乎思慮。則不可謂之情。分限甚明。學者當以意理會。

〔評〕八十、四端之心。皆出自天性。而無所詐僞。謂之性。可也。謂之情。亦可也。上既以好惡爲情。此又泥孟子大學之文云云。非情。不通亦甚。

〔評〕八十一、心者身之主也。豈待涉乎思慮而後謂之心乎。心譬如穀子。自具氣味性也。實有氣味情也。凡人之實情。雖涉乎思慮。無害於謂之情。如臣子思忠孝。兄弟朋友相爲忠謀。可不謂之情乎。

(八十二)凡心性情才志意(等字之類)有必用功夫(字者)。有不必用功夫(字者)。志則曰持曰尙。皆是用功夫(之字者也)。若情字才字。皆不必用功夫。何者以養其性則情自正。存其心則才自長也。先儒有約情之語。蓋不理會此意耳。學者審焉。

〔評〕八十二、孟子曰。達材。後世曰成材。是亦當用工夫。孟子之言偶不及耳。漢儒以來。謂情爲性之動。以喜怒哀樂充之。故有約情之言。以實論之。性已可忍。則情亦宜節。仁齋之言。非著實工夫。周禮大司徒。以六樂防萬民之情。家語曰。楚靈王汰侈。不能勝其情。以及於難。約情之言。不可爲非。

才　一條

(八十三)才者性之能也。猶手之持。足之行。可以爲善。亦可以爲不善。譬諸以手持物。攪筆書字。手也。把刀殺人。亦手也。故曰。可以爲善。亦可以爲不善也。然其書字殺人。皆在於手。而所以書之殺之者。則在於心。故孟子曰。若夫爲不善。非才之罪。又曰。非天之降才爾殊也。其所以陷溺其心者然也。明其爲不善者。雖在於才。然其所以爲之者。在於心也。凡人皆有手。則皆能可以攪筆書字。若勤而不怠。則皆可以善書。其或間有不能書字者。不用其才也。故又曰。或相倍蓰而無算者。不能盡其才者也。多少分明。

〔評〕八十三、才者心之能也。心之有能。即性也。謂之性之能。不可。譬諸手之能持。手猶心也。能持是才。所以能持。即性也。孟子所謂。才非罪也。及古今所論人才。則皆就衆人性之所大同而言之。孔子言才難。及古仁齋譬喩甚分明。但畧其正意。學者宜反三隅可矣。

志　凡二條

(八十四)心之所之。謂之志。此說文之訓也。愚又謂志者心之所存主也。孟子曰。夫志氣之帥也。又曰。志壹則動氣是也。若作心之所之。則意欠明瑩。論語曰。匹夫不可奪志也。禮記曰。清明在躬。氣志如神。皆謂心之有所存主也。

〔評〕八十四、心之所之。是志之立也。心之所存主。則志之持也。所指有小不同。如云志于學。

志乎道。若作心之所存主。則亦失文義。猶心或就發動言。或以存主言也。

(八十五)凡謂之志。則皆以志於善而言。若於不善。不可謂之志也。若父在觀其志。及士尚志等語。皆以志於善言。北溪曰。才志於利。便入小人路。何哉。

〔評〕八十五、左傳云。謂之鄭志。穀梁傳云。探先君之邪志。論語云。夫子有惑志於公伯寮。可見通善惡。皆謂之志也。北溪之言。非誤。

意 凡二條

意者指心之往來計較者言。論語所謂毋(八十六)意者。蓋言聖人盛德之至。理明心定。自無往來計較之心也。若作毋私意。則多一私字。尤非所以論聖人也。

〔評〕八十六、論語毋意。意與億同。釋文或於力反。是也。以意度也。大學誠意。言未接物應事之時。先不善之意。意謂中心所含蓄也。孔子不言存心養氣。而孟子創言之。則孔孟雖不言誠意。大學特言之。亦何不可。學者苟能於意上用工夫。其於修身自有得力。善讀書。古人之言。各有所用。不可如是拘泥也。

意字亦是不必用功夫字。按語孟中庸皆不說於意上用功夫。故孔子說主忠信。中庸說誠身。而孟子專說存心養性。皆(無未嘗有)誠意之說。何者學脈自有照應。言此則不須言彼。言彼則不須言此。且觀子絕四毋意。則不於意上用功夫。益彰矣。中庸曰。誠身有道。不明乎善。不誠乎身矣。與欲誠其意先致其知。甚相似。然身字與意字。所指甚別。一則氣象盛大。一則功夫急促。學者不容不辨。

良知良能 凡二條

良善也。良知良能者。謂本然之善。即四端之心也。孟子曰。孩提之童。無不知愛其親也。及其長(八十七)也。無不知敬其兄也。兩知字指良知。愛敬兩者。即指良能也。猶曰今人乍見孺子將入於井。皆有怵惕惻隱之心也。亦所以證夫性之善也。而孟子所以發良知良能之論者。蓋欲使學者擴充之。以成仁義禮智之德也。非徒論良知良能之說。故曰。親親仁也。敬兄義也。無他達之天下也。達者即擴充之謂也。當與人皆有所不忍。達之於其所忍仁也。人皆有所不爲。達之於其所爲義也之參看。孟子之意自分曉。

〔評〕八十七、知愛敬良知也。能愛敬之者。即良能也。仁齋分兩知字。以爲知父兄。恐非孟子之旨。

(八十八)近世陽明王氏。專講致良知之旨。然而徒知致良知。而不知本之於仁義。亦鑿乎孟子之旨。而專務致良知。而遺盡良能。蓋以連知愛二字爲良知。而不知兩知字指良知。愛敬兩者指良能也。豈非失之一偏乎。孟子所以發良知良能之論者。本明仁義之爲固有。今徒務致良知。而不知本之於仁義者。何哉。王氏之學。蓋自淨智妙圓宗旨來。故爲此一偏之教。而不知良知良能本我心之

本然。不ㇾ可ニ須臾離一焉。而與ニ孟子之旨一。幾霄壤矣。不ㇾ容ㇾ不ㇾ辨。

〔評〕八十八、王陽明以ニ大學致知一。爲ニ明ニ我心之妙用一。即是佛氏見性成佛之意。但假ニ孟子良知之目一。以爲ニ美稱一耳。實乖ニ於大學孟子之旨一矣。非ニ錯ニ解孟子之文一。而失ニ於一偏一也。且陽明以ニ良知一爲ニ心之妙用一。其以爲ㇾ不ㇾ可ニ須臾離一。則甚ニ於仁齋一矣。其失ニ孟子之旨一。在ㇾ彼不ㇾ在ㇾ此。

語孟字義卷之上　畢

語孟字義卷之下

忠信　凡五條

程子曰。盡ㇾ己之謂ㇾ忠。以ㇾ實之謂ㇾ信。皆就ニ接ㇾ人上一言。夫做ニ人之事一。如ㇾ做ニ己之事一。謀ニ人之事一。如ㇾ謀ニ己之事一。無ニ一毫不ㇾ盡。方是忠。凡與ㇾ人說。有便曰ㇾ有。無便曰ㇾ無。多以爲ㇾ多。寡以爲ㇾ寡。不ニ一分增減一。方是信。又忠信二字。(八十九)有下朴實不ㇾ事ニ文飾一之意上。所謂忠信之人。可ニ以學一ㇾ禮是也。又信字。有下與ㇾ人期約而踐ニ其實一之意上。論語集註曰。信約信也。古人有下信如ニ四時一。信賞必罰等語上。皆此意。

〔評〕八十九、忠信二字。只有下誠實無ニ虛飾一之意上。不ㇾ可ㇾ曰ニ朴實不ㇾ事ニ文飾一。言而不ㇾ欺謂ニ之信一。如與ニ朋友一交。言而有ㇾ信。言必信行必果。信如ニ四時一。信賞必罰之類上。皆謂ㇾ踐ㇾ言也。不ニ必期約一也。信近ニ於義一。言不ㇾ欺者事雖ㇾ未ㇾ得ニ其宜一。而近ニ於有ㇾ義也。朱注非也。

忠信學之根本。成ㇾ始成ㇾ終。皆在ニ於此一。何者學問以ㇾ誠爲ㇾ本。不ㇾ誠無ㇾ物。苟無ニ忠信一。則禮文雖ㇾ中。儀刑雖ㇾ可ㇾ觀。皆僞貌飾情。適足ニ以滋ㇾ奸添ㇾ邪。論語曰。主ニ忠信一。主與ㇾ賓對。言學問必不ㇾ可ㇾ不下以ニ

忠信爲ㇾ主。又曰。子以ㇾ四教。文行忠信。程子曰。四者以ㇾ忠信ㇾ爲ㇾ本。是知主ㇾ忠信ㇾ(九十)乃孔子之家法。而萬世學者。皆當ㇾ守ㇾ之而不ㇾ可ㇾ換ㇾ其訓。而後世或以ㇾ持敬ㇾ爲ㇾ宗旨ㇾ。或以ㇾ致ㇾ良知ㇾ爲ㇾ宗旨ㇾ。而未ㇾ有下以ㇾ忠信ㇾ爲ㇾ主。亦異ㇾ夫孔門之學ㇾ矣。故雖ㇾ學問可ㇾ觀。然其德卒不ㇾ及ㇾ于古人ㇾ者。實以ㇾ此也。」

〔評〕九十、主ㇾ忠信。淺近而無ㇾ弊。如ㇾ持敬●致良知。則深微而有ㇾ弊。

(九十一)宋儒之意以爲主ㇾ忠信ㇾ甚易事。無ㇾ難ㇾ行者。故別撰ㇾ一般宗旨。爲ㇾ之標榜。以指ㇾ導人ㇾ。殊不ㇾ知道本無ㇾ難ㇾ知者。只是盡ㇾ誠爲ㇾ難。苟知ㇾ誠之難ㇾ盡。則必不ㇾ能ㇾ不下以ㇾ忠信ㇾ爲ㇾ主。易曰。忠信所ㇾ以進ㇾ德也。故學雖ㇾ至於聖人。亦不ㇾ外ㇾ忠信。視ㇾ其貌則儼然儒者矣(九十二)。而察ㇾ其內則好ㇾ勝務ㇾ外之心。不ㇾ知不ㇾ覺常伏ㇾ于胸中。是徒知ㇾ持敬。而不下以ㇾ忠信ㇾ爲ㇾ要故也。學者不ㇾ容ㇾ不ㇾ深辨。

〔評〕九十一、宋儒之意。以爲精神不ㇾ収。則不ㇾ得ㇾ主ㇾ忠信。故以ㇾ持敬ㇾ爲ㇾ先。此亦有ㇾ理。爲ㇾ實學ㇾ者。宜ㇾ斟酌而用ㇾ之。

〔評〕九十二、仁齋之時。守ㇾ株程朱之學ㇾ者。蓋有ㇾ如ㇾ是者。今則或是之亡。然徒持敬而無ㇾ忠信。則其弊如ㇾ此。貝原損軒大疑錄。論ㇾ之詳矣。暗與ㇾ此合。

忠自是忠。信自是信。故有ㇾ專言ㇾ忠者。有ㇾ專言ㇾ信者。而夫子之四教。以ㇾ文行忠信ㇾ並言。則忠與ㇾ信。本是兩事益明矣。而先儒以謂忠與ㇾ信。若形影然。又曰。忠信只是一事。而相ㇾ爲內外本末終始。蓋未ㇾ深攷ㇾ焉耳。

學有ㇾ本體。有ㇾ修爲。本體者。仁義禮智是也。修爲者。忠信敬恕之類是也。故謂ㇾ之本體。聖人教ㇾ學者由ㇾ此而行ㇾ之。非ㇾ待ㇾ修爲ㇾ而後有ㇾ也。忠信敬恕。力行之要。就下人用ㇾ功夫ㇾ上ㇾ立ㇾ名。非ㇾ本然之德ㇾ故謂ㇾ之修爲ㇾ。

〔評〕九十三、仁知亦就ㇾ成德上ㇾ立ㇾ名。豈可ㇾ謂ㇾ本然乎。故古人曰由ㇾ義。曰學ㇾ禮。而仁知則否。是無ㇾ法程之可ㇾ由也。忠信敬恕。亦既以ㇾ是爲ㇾ教。何與ㇾ仁義ㇾ異。孟子曰。仁義忠信。無ㇾ本躰修爲之別ㇾ也必矣。

忠恕　凡五條

竭ㇾ盡己之心ㇾ爲ㇾ忠。忖ㇾ度人之心ㇾ爲ㇾ恕。按集註引程子盡ㇾ己之謂ㇾ忠。當矣。但恕字之訓。覺未ㇾ當。註疏作ㇾ忖ㇾ己忖ㇾ人之義。不ㇾ如ㇾ以ㇾ忖字ㇾ訓ㇾ之之爲ㇾ得。言待(九十四)ㇾ人必忖ㇾ度其心思苦樂如何ㇾ也。忖ㇾ己二字未ㇾ穩。故改ㇾ之曰ㇾ忖ㇾ度人之心ㇾ也。夫人知ㇾ己之所ㇾ好惡ㇾ甚明。而於ㇾ人之好惡ㇾ泛然不ㇾ知ㇾ察焉。故人與ㇾ我每隔阻胡越。或甚過惡ㇾ之。或應ㇾ之無節。見ㇾ親戚知舊之艱苦。猶ㇾ秦人視ㇾ越人之肥瘠。茫乎不ㇾ知ㇾ憐焉。其不ㇾ至ㇾ於不仁不義之甚ㇾ者幾希。苟待ㇾ人。忖ㇾ度其所ㇾ好惡ㇾ如何。其所ㇾ處所ㇾ爲如何。以ㇾ其心ㇾ爲ㇾ己心。以ㇾ其身ㇾ爲ㇾ己身。委曲體察。思ㇾ之量ㇾ之。則知ㇾ人之過每出ㇾ於其所ㇾ不ㇾ得ㇾ已。或生ㇾ於其所ㇾ不ㇾ能ㇾ堪。而有ㇾ不ㇾ可ㇾ深疾惡之者ㇾ。油然靄然。每事必務ㇾ寬宥ㇾ。不ㇾ至ㇾ以ㇾ刻薄待ㇾ之。趨ㇾ人之急。拯ㇾ人之艱。自不ㇾ能ㇾ已。其德之大。有ㇾ不ㇾ可ㇾ限量ㇾ者ㇾ也。孔子(以爲曰)可ㇾ以終ㇾ身行ㇾ之矣。不ㇾ亦宜ㇾ乎。

〔評〕九十四、恕者以己之心忖人之心也。故禮記言內恕。戰國策言自恕。言忖己之心。以察人之心也。注疏云。忖己。不必非也。但其言未瑩耳。若曰忖己察人可矣。

程子(九十五)曰。推己之謂恕。愚以謂推己非恕。乃(用)恕之(要)。蓋恕以後之事也。程子所謂推己者。即己所不欲勿施於人之意。蓋因夫子子貢問答云爾。然使恕字有推己之義。則及乎子貢問。曰一有一言而可以終身行之者。而夫子唯曰其恕乎可也。而不可復曰己所不欲勿施於人也。既曰其恕乎。而又曰己所不欲勿施於人。則其意既重復。故知恕字之義。本非推己之意。夫子答仲弓問仁曰。己所不欲勿施於人。子貢曰。我不欲人之加諸我也。吾亦欲無加諸人。若使恕字有推己之義。則夫子子貢直可以恕字命之。而不可敷衍其詞。若此甚繁也。觀夫子答子貢曰其恕乎。而於其下曰己所不欲勿施於人。則知推己即行恕之要。而本非恕字之義也。且中庸曰。忠恕違道不遠。而其下續之曰。施諸己而不願。亦勿施於人。則見推己之道。非徒可施之於恕。亦可施之於忠。不可獨以推己訓恕字。益明矣。

〔評〕九十五、內恕於己。而後外推於人。恕躰而推用也。宜言推己乃恕之用。曰用恕之要。則語未瑩矣。

宋儒(九十六)以仁爲(聖人分上之事)。以恕爲學者分上之事。晦菴以爲仁恕只是一物。有生熟難易之不同耳。殊不知仁自是仁。恕自是恕。惟仁者而能用恕。(九十七)惟恕而後能至於仁。非有生熟難易之別。故曰。可以終身行之也。曾子曰。夫子之道。忠恕而已矣。(聖人豈其心自聖。而謂我自是聖無所事用恕邪。不可以恕專爲學者之事明矣。)

〔評〕九十六、宋儒未嘗言仁是聖人分上之事。宜言宋儒以仁爲成德之事。

〔評〕九十七、惟仁者二句。不成語。宜言仁者自能用恕。用恕者自能爲仁。仁是德行之名。恕則爲仁之方。故曰云云。意義不明。宜言孔子告子貢以恕。爲可以終身行之。曾子解孔子之一貫。曰夫子之道忠恕而已矣。而自聖人以下十九字宜刪之。

聖人之道。莫大於仁。莫要於義。而曾子特曰。夫子之道。忠恕而已矣。而夫子亦(曰)。一言可以終身行之者其恕乎者何哉。曰。聖人之道。專以待人接物爲務。而不居然以守心持敬爲事。仁義固道之本體。雖忠恕之(功)。亦不能不以仁義爲本。然至於待人接物。必以忠恕爲要。蓋存養在仁義。待人在忠恕。苟忠立恕行。則心弘道行。可以至於仁。故曰。強恕而行。求仁莫近焉。曾子(所謂)忠恕而已矣。夫子曰。可以終身行之。蓋爲此也。後世學者。知獨善其身。而其功不遑及於人。故視忠恕泛然。若非緊要焉者。

〔評〕九十八、宋儒貴精微。故主持敬究理。然豈忽忠恕乎。所謂知獨善其身云云者。亦當時蓋有如是者也。非謂宋明儒者皆然也。

後世學問。所以大差聖人之意者。專由不以持敬致知爲要。而不知以忠恕爲務也。蓋道本無分人

己。故學亦無分人己。苟非忠以盡己。恕以忖人。則不能合人己而一之也。故欲行道成德。則莫切於忠恕。又莫大於忠恕。苟以忠恕爲心。則萬般功夫。總有與物共之之意。而不至獨善其身而止。故持敬致知。皆爲我成德之地。否則所謂喫木饅頭者。而與異端專務清淨。疎外人事者。相去不甚遠矣。若使晦翁聞之。必謂功夫顚倒不作次第。殊不知聖門之學。通於天下。達於人倫。非若異端之徒。蔑視人事。彼自彼。此自此。支離隔斷。不相濟用也。故曰。終身可以行之也。若曰致知功夫既熟。而後從事於忠恕。則是終身無用恕之日。可弗思乎哉。

〔評〕九十九、學問以致知爲主。力行以忠恕爲先。兩者各有所當。仁齋此說似混學與行。

〔評〕百、聖人之道。通於天下。達於人倫。豈待忠恕而知之乎。致知學也。忠恕行也。以次序言之。致知爲先。然忠恕在日用之間。豈又待致知工夫既熟之後乎。此等處。學者須就實地而深察之。

誠 凡四條

(百〇一)誠實也。無一毫虛假。無一毫僞飾。正是誠。朱子曰。眞實無妄之謂誠。其說當矣。然凡文字必有反對。得其對則意義自明矣。誠字與僞字對。不若以眞實無僞解之之最爲省力。北溪曰。誠字本就天道論。只是一箇誠。天道流行。自古及今。無一毫之妄。暑往則寒來。日往則月來。春生了便夏長。秋殺了便冬藏。萬古常如此。是眞實無妄之謂也。然春當溫而反寒。夏當熱而反冷。秋當涼而反熱。冬當寒而反暖。夏霜冬雷。冬桃李華。五星逆行。日月失度之類。固爲不少焉。豈謂之天不誠可乎。蘇子曰。(百〇二)人無所不至。惟天不容僞。此言得之矣。

〔評〕百〇一、誠者實也。凡事無虛僞者。謂之誠。如孟子所謂誠賢君。誠廉士。誠大丈夫。及大學誠於內著於外之類。亦可見其本義矣。中庸命聖人之至德曰誠。亦是眞實於善。而無一毫虛僞之謂也。如誠意之誠。雖有深淺之異。亦誠意於善也。非徒無虛僞之謂。

〔評〕百〇二、蘇子之意。謂天不受僞也。非謂天無僞也。今此引之。似不當矣。

所謂誠之與主忠信。意甚相近。然功夫自不同。主忠信。只是盡己之心。朴實行去。(百〇三)誠之者。擇當理與否。而取其當理者固執之之謂。

〔評〕百〇三、無僞之解。不得中庸之旨。亦可見矣。

(百〇四)誠者道之全體。故聖人之學。必以誠爲宗。而其千言萬語。皆莫非所以使人盡夫誠也。所謂仁義禮智。所謂孝弟忠信。皆以誠爲之本。而不誠則仁非仁。義非義。禮非禮。智非智。孝弟忠信亦不得爲孝弟忠信。故曰。不誠無物。是故誠之一字。實聖學之頭腦。學者之標的。至矣。大哉。」

〔評〕百〇四、誠者道之全躰。於中庸之書則然也。非通論也。行禮義孝弟。以誠爲本。固也。若論禮義孝弟。則苟無誠者。可謂之禮義孝弟乎。如仁與忠信。豈待論誠之有無乎。

(百〇五)聖人之道。誠而已矣。猶佛氏曰空。老氏曰虛。言聖人之道。莫非實理也。而實與虛。猶水火南

北。一彼一此。懸隔離絶。不二相入一矣。然今之學者。以二虛靈虛靜虛中等理一爲二學之本源一。而不レ知二其本自一老子一來一。或以二虛命一爲二其名一。或以二虛扁一爲二其齋一。何哉。根本既差。枝葉從繆。不レ可二縷擧一。學者不レ可レ不二句句著レ意。辨究推察一。以歸二之于一是之地一也。

〔評〕百〇五、佛老之空虛。非二虛僞之謂一也。中庸之誠。不二徒無一僞也。則聖人之於二佛老一。豈如二水火南北一乎。此論可レ謂二泥レ名而不一レ窮レ實矣。學者宜二平心察一レ之。

敬 凡二條

敬者尊崇奉持之謂。按古經書或說レ敬レ天。或說レ敬レ鬼神。或說レ敬レ君。或說レ敬レ親。或說レ敬レ兄。或說レ敬レ人。或說レ敬レ事。皆尊崇奉持之意。無二一謂一無レ事徒守二敬字一者。惟夫子曰。修二己以敬一。仲弓所謂居敬而行簡二語。似乎今之所謂持敬主敬之功。然觀二夫子曰一修二己以敬一。而下又曰二君子修一己以安一人一。仲弓曰二居敬而行簡一。而下又續之曰二以臨一其民一不レ亦可一乎一。則此二語。亦以レ敬二民事一而言。非二徒守一敬字之謂一。

〔評〕百〇六、修二己以敬一。言二以レ敬修一レ身。禮記所レ謂敬身也。居敬與二行簡一對。蓋謂平居未レ行レ事之時敬二其身一也。此二語。若以レ敬二民事一而言。則於二本章一不レ通。其誤可レ知也。

大學或問曰。敬之一字。聖學之所二以成一レ始而成一レ終者也。朱子又曰。敬者一心之主宰。萬事之根本。愚謂不然。聖門之學。以二仁義一爲レ宗。而忠信爲レ主。孔子曰。一言而可二以終一レ身行一レ之者。其恕乎。曾

子曰。夫子之道。忠恕而已矣。未レ嘗以レ敬爲二聖學之成一レ始終一而萬事之根本一也。設若果如二宋儒之所一レ說。則唯聖人言レ敬諸章。乃爲二學問緊要之功一。而其他聖人千言萬語。擧皆爲二無用之長物一。豈可乎哉。孔子曰。言忠信行篤敬。雖二蠻貊之邦一行矣。敬固爲二學者之切務一。然忠信篤敬四者。廢一則不可。徒謂レ守二一敬字一乃可。則大非二聖人之意一。譬則醫之處レ方。有二君藥一。有二臣藥一。有二佐使藥一。衆藥兼用而後成レ方。若謂二一敬字能該二盡聖學之始終一。則猶レ言二用一味橘皮一乃可一。不レ必用二乙補中益氣湯一甲。其雖用二參苓之類一。猶レ不レ得レ奏二全方之效一。況一橘皮乎。語曰。好レ仁不レ好レ學。其蔽也愚。好レ知不レ好レ學。其蔽也蕩。可レ見雖二仁智之達德一。徒專好レ之。而不二學以照一レ之。則猶不レ免レ於有レ蔽。況於二一敬一乎。其與二孔門之學一。同乎不レ同。不レ辨而明矣。

〔評〕百〇七、宋儒以レ敬爲レ本。不レ言二唯持一レ敬之一字一。而凡百工夫不レ用。此論不レ可レ服。爲二宋學一者也。偏哉言乎。

和直 一條

和直二字。意義明白。無二難解一者。然論語一部。言及二於此二字一者。不レ知二其幾一。殆與二敬字一相稱。然人知レ主レ敬。而不レ知二此二字最爲一聖門緊要之語一。蓋和不二暴厲一。直不二邪曲一。和者自寬。直者自正。和者無二主角之露一。直者無二智計之巧一。入二德之體一。立二心之要一。學者必不レ可レ不二注レ心受用一。後世儒者。以二此二字一容易看過一。不二深留一レ意。故今表而出レ之。蓋聖人示二人切要之語一也。

〔評〕百〇八、和者與ㇾ物和諧而不ㇾ乖之謂也。不ニ暴戾一無ニ圭角一。是温柔也。仁齋未ㇾ知ニ和字一。故與ニ温字一混矣。

〔評〕百〇九、和者。交ㇾ人之道。非ニ入ㇾ德之躰一。

學 凡四條

學者效也覺也。有ㇾ所ニ效法一而覺悟也。按古學字。即今效字。故朱子集註曰。學之爲ㇾ言效也。白虎通曰。學覺也。覺ニ悟所一ニ不ㇾ知也。學字之訓。兼ニ此二義一而後其義始全矣。所謂效者。猶下學ㇾ書者。初只得丙臨ニ摹法帖一。效乙其筆意點畫一。所謂覺者。猶下學ㇾ書既久。而後自覺ニ悟古人用筆之妙一。非ニ一義之所ニ能盡一也。集註曰。後覺者必效ニ先覺之所一ㇾ爲。又含ニ覺字之意一在。學者多不ㇾ察。

(百十)學問當ㇾ識ニ聖人立ㇾ教之本旨如何一。於ㇾ是一差。必入ニ于異端一。可ㇾ怕。佛氏專貴ㇾ性。而不ㇾ知ニ道德之爲ニ最尊一ㇾ矣。聖人專尊ニ道德一。而存ㇾ心養ㇾ性。皆以ニ道德一爲ニ之主一。夫有ㇾ充ニ滿天地一。貫ニ徹古今一。自不ニ磨滅一之至理一。此爲ニ仁義禮智之道一。又此爲ニ仁義禮智之德一。所謂道德之爲ニ最尊一ㇾ者。是已。(百十一)(孔子曰。道二仁與ニ不仁一而已矣。)孟子曰。仁人之安宅也。義人之正路也。又曰。居ニ天下之廣居一。立ニ天下之正位一。行ニ天下之大道一。蓋温和慈愛。含弘容ㇾ物。之謂ㇾ仁。(百十二)辨別取舍。截然不ㇾ紊。之謂ㇾ義。反ㇾ之則爲ニ貪冒無恥之人一。尊卑貴賤。品節有ㇾ等。之謂ㇾ禮。反ㇾ之則爲ニ僭差暴慢之人一。是非分明。善惡無ㇾ惑。(百十三)之謂ㇾ智。反ㇾ之則爲ニ冥然無ㇾ覺之人一。(推)ニ仁之極一。則堯之光ニ被四表一。格ニ于上下一

是也。(言)(推)ニ義之極一。則祿ㇾ之以ニ天下一弗ㇾ顧是也。(言)(推)ニ禮之極一。則天高地下。萬物散殊是也。(言)(推)ニ智之極一。則百世以俟ニ聖人一而不ㇾ惑是也。準ニ於四海一。由ㇾ此則爲ニ人。不ㇾ由ㇾ此則禽獸。故聖人立ニ此四者一。以爲ニ人道之極一。而敎ニ人由ㇾ此焉而行一ㇾ之。故易曰。立ニ人之道一。曰仁與ニ義一。中庸曰。知仁勇三者。天下之達德也。明ニ之斯爲ニ有道之人一。(百十五)得ㇾ之斯爲ニ有德之人一。蓋人之性有ㇾ限。而天下之德無ㇾ窮。欲ニ以有一ニ限之性一而盡ニ無窮之德一。苟不ㇾ由ニ學問一。則雖ニ以天下之聰明一不ㇾ能。故天下莫ㇾ貴ニ乎學問之功一。又莫ㇾ大ニ於學問之益一。而非ニ但可一ニ以盡ニ我性一。又可ニ以盡ニ人之性一。可ニ以盡ニ物之性一。可ニ以贊ニ天地之化育一。可ニ以與ニ天地一並立而參ニ矣。若欲ニ廢ニ學問一而專循ニ我性一焉。則不ニ翅不一ニ能ニ盡ニ人物之性一。而贊ニ天地之化育一。必也雖ニ我性一亦不ㇾ能ニ盡矣。故孟子曰。人之有ニ是四端一也。猶ニ其有ニ四體一也。凡有ニ四端於我一者。知ニ皆擴而充一ㇾ之矣。若ニ火之始然。泉之始達一。苟能充ㇾ之。(百十六)足ニ以保ニ四海一。苟不ㇾ充ㇾ之。不足ニ以事ニ父母一。所謂足ニ以保ニ四海一者。指ニ仁義禮智之效驗一而言。夫四端之在ニ於我一。猶ニ涓涓之泉一。星星之火一。萌蘖之生一。苟擴ニ充之一而成ニ仁義禮智之德一。則猶ニ涓涓之水一可ニ以放一ニ乎海一。星星之火一可ニ以燎一ニ原一。萌蘖之生可ニ以參一ニ雲一。故曰。苟得ニ其養一。無ニ物不一ニ長。苟失ニ其養一。無ニ物不一ニ消。所謂充。所謂養。即以ニ學問一而言。人性雖ㇾ善。然不ㇾ充ㇾ之。不ㇾ足ニ以事ニ父母一。則性之善不ㇾ可ㇾ恃焉。而學問之功最不ㇾ可ㇾ廢焉。吾故曰。人之性有ㇾ限。而天下之德無ㇾ窮。欲ニ以有一ニ限之性一盡ニ無窮之德一。非ニ由ニ學問一。其能ㇾ之乎。然非ニ性之善一。則雖ニ學問之功一。亦無ㇾ所ㇾ施。故性之善可ㇾ貴焉。學問之功大矣。是孔子所ニ以不一

以ㇾ率ㇾ性爲ㇾ言。專以ニ學問ノ教ヒ一ニ人ヲ一。而孟子所ㇾ以屢道ニ性善ヲ一。而以ニ擴充之功ヲ一爲ニ其要ヲ一也。此聖門立ㇾ教之本旨也。

〔評〕百十、不ㇾ知ニ聖人立ㇾ教之本旨ヲ一。或爲ニ記誦ノ一。或爲ニ詞章ノ一。或爲ニ理學ノ一。或爲ニ功利ノ一。何必入ニ於異端ノ一而已乎。佛氏雖ㇾ貴ㇾ性。然不ㇾ縱ニ嗜欲ヲ一。彼之所ㇾ謂性者。自該ニ其道德ヲ一焉。豈專貴ニ性而已ヲ一哉。雖ニ宋儒亦然ヲ一。是可ㇾ與ニ達觀者ニ一言ヒ上。不ㇾ可ㇾ與ニ庸人ニ一語ヒ上。

〔評〕百十一、孔子曰ニ道ヲ一。此語何爲而擧。宜ㇾ刪。

〔評〕百十二、辨別取捨。截然不ㇾ紊。可ㇾ謂ニ廉矣ヲ一。何視ニ義之小ヲ一也。

〔評〕百十三、仁之極。豈可ニ復推乎ヲ一。宜作ニ言ヒ仁之極ヲ一。下皆效ㇾ之。

〔評〕百十四、仁義和三者皆以ニ人事ヲ一言。禮獨以ニ天地ヲ一言何也。

〔評〕百十五、能由ニ學問ヲ一。而盡ニ無窮之德ヲ一。則不ㇾ可ㇾ言ニ性有ニ限矣ヲ一。若謂ニ性有ニ限而德無ニ窮ヲ一。則雖ㇾ盡ㇾ性。不ㇾ可ㇾ成ニ德也ヲ一。且先儒未ㇾ嘗言ニ廢學問ヲ一而專循ニ我性ヲ一。此條所ㇾ論。亦未ㇾ免ニ踈率ヲ一。

〔評〕百十六、仁齋以爲仁義禮知。天下本然之德。而人性之善能成ㇾ之。譬之萌蘖之性有ㇾ限。雖ニ善養ヒ一ㇾ之。必不ㇾ可ㇾ以參ニ天ヲ一。其至ニ參ㇾ天者ヲ一。本有ニ其性ヲ一也。且所ㇾ謂參ニ天者ヲ一。亦天下本然之德乎否。以ニ是推ヒ一ㇾ之。則其說之誤。自見矣。

學問以ニ道德ヲ一爲ㇾ本。以ニ見聞ヲ一爲ニ（百十七資）（用）ヲ一。孔子曰。有ニ顏回者好ㇾ學。不ㇾ遷ㇾ怒。不ㇾ貳ㇾ過。可ㇾ見聖人以ㇾ修ニ道德ヲ一爲ニ學問ヲ一。而非ニ若ニ今人之以ニ道德ヲ一爲ニ學問ヲ一也。又曰。蓋有ニ不ㇾ知而作ヒ之者ヲ一。我無ニ是也ヲ一。多聞擇ニ其善者ヲ一而從ニ之ヲ一。多見而識ニ之ヲ一。知之次也。又曰。多聞闕ニ疑ヲ一。愼言ニ其餘ヲ一。則寡ㇾ尤。多見闕ニ殆ヲ一。愼行ニ其餘ヲ一。則寡ㇾ悔。言寡ㇾ尤。行寡ㇾ悔。祿在ニ其中ヲ一矣。可ㇾ見以ニ（百十八）見聞ヲ一爲ニ用ヲ一。而非ニ若ニ今人之專以ニ靠ニ書冊ヲ一講ニ義理ヲ一爲ニ學問之類ヲ一也。孟子所謂存養擴充之類。皆即是學。先儒云。學兼ニ知行ヲ一而言。得ㇾ之矣。

〔評〕百十七、以ニ見聞ヲ一爲ニ用。不ㇾ可ㇾ通。宜ㇾ言ニ以ニ見聞ヲ一爲ニ資ヒ一。

〔評〕百十八、古昔少ニ書籍ヲ一。後世多ニ書籍ヲ一。故學問之方。自有ニ此異ヲ一。然所ㇾ謂見聞者。主ニ見古昔之書ヲ一。聞ニ先王之道ヲ一。不ニ徒見聞當今之事ヲ一也。仁齋以ニ見聞書籍ヲ一爲ㇾ異ㇾ趣。恐未ㇾ免ㇾ誤ニ看見聞二字ヲ一。

學問之法。予岐而爲ニ二ヲ一。曰血脉。曰意味。血脉者。謂ニ聖賢道統之旨ヲ一。若ニ孟子所謂仁義之說ヲ一是也。意味者。即聖賢書中意味是也。蓋意味本自ニ血脉中ヲ一來。故學者當先理ニ會血脉ヲ一。若不ㇾ理ニ會血脉ヲ一。則猶ニ缸之無ㇾ柁。宵之無ㇾ燭ヲ一。茫乎不ㇾ知ニ其所ヲ一ニ底止ヲ一。然論ニ先後ヲ一。則血脉爲ㇾ先。論ニ難易ヲ一。則意味爲ㇾ難。何者血脉猶ニ一條路ヲ一。既得ニ其路程ヲ一。則千萬里之遠。亦可ニ從容ヲ一。自ㇾ非ニ具眼者ヲ一。不ㇾ得ㇾ識焉。予嘗謂讀ニ語孟二書ヲ一。其法自不ㇾ同。讀ニ孟子ヲ一者。當先知ニ血脉ヲ一。而意味自在ニ其中ヲ一矣。讀ニ論語ヲ一者。當先知ニ其意味ヲ一。而血脉自在ニ其中ヲ一矣。

權　凡四條

(百十九)
程子曰。權稱錘也。所以稱物而知輕重者也。夫稱錘之爲物。所以隨衡之斤兩。或前或却。定其輕重者也。故權字取稱錘之義。學問之不可無權。以此也。夫時有古今。地有都鄙。家有貧富。人有貴賤。事之千條萬緒。物之大小多寡。紛紜雜遝。不可名狀。無權以制之。何以能得其當而合于道。猶臨敵之將。因勢制勝。隨地排陣。以奇爲正。以正爲奇。出入變化。不可拘以一律。故曰。執中無權。猶執一也。言權之不可不用也。

〔評〕百十九、漢書律曆志曰。權者銖兩斤鈞石也。所以稱物平施知輕重也。古人所謂。權者今天枰之法焉也。但有孔繫之掛於衡爲異耳。宋儒以爲。今等子之錘。故有移來移去隨物取平之解。仁齋從之。偶未考之耳。宜言權之爲物。隨物之輕重而施之。以定其斤量者也。

漢儒以反經合道爲權。程子非之。最是。經即是道。既是反經。焉能合道。蓋漢儒見孟子所謂男女授受不親禮也。嫂溺援之以手者權也。遂以爲權者反經合道。今詳孟子之意。權字當以禮字對。不可以經字對。蓋禮可因時而損益。經歷萬古而不易。故孟子以權與禮相對。而未嘗以經字相對。正爲此也。又謂權者濟經之所不及。亦未盡。權即是經。經即是權。權每在經之中。不與經相離矣。唯當謂權以濟經。若謂濟經之所不及。則猶有以經字對之意在。

〔評〕百二十、朱子曰。伊川說權只是經。恐亦未盡。龜山云。權者經之所不及。此說却好。蓋經者只是存大經大法而已。若精微曲折處。固非經之所能盡也。所謂權者。於精微曲折處。曲盡

其宜。以濟經之所不及耳。」張橫渠曰。權過中而合義者也。

論語曰。可與立。未可與權。(百二十一)蓋難其人也。非謂不可用權也。難其人。益見其不可不用也。

蓋示學問之至要。而學者之不可不勉也。先儒以謂權須是理明義精。方可用權。若然則未到理明義精之極。便將置而不用歟。何以異夫謂醫非盧扁倉公。唯全因古方不容加減。奚以貴學問爲。」

〔評〕百二十一、孔子所謂。未可與權者。謂事變之大。而常人知慮之所不及者也。故先儒亦如是說耳。如其小事斟酌。固不足謂之權。

先儒又謂如湯武放伐。伊尹放太甲。是權。此亦不深考耳。若伊尹之放太甲。固是權。(百二十二)如湯武之放伐。可謂之道。不可謂之權。何哉。權者一人之所能。而非天下之公共。道者天下之公共。而非一人之私情。故爲天下去賊。謂之義。當時藉令湯武不放伐桀紂。然其惡未悛焉。則必又有若湯武者誅之。不在上則必在下。一人不能之。則天下能之。子嬰被殺於咸陽。隋煬受戮於江都。非項氏宇文所能爲也。蓋以合於天下之所同欲也。唯湯武不狥己之私情。而能從天下之所同然。故謂之道。漢儒不知此理。故有反經合道之說。宋儒有權非聖人不能行之論。其他非議孟子之說者。皆不知道爲天下公共之物。而漫爲臆說耳。噫。

〔評〕百二十二、人人所由謂之道。如臣伐君。豈可人人由行乎。湯武放伐。是權之大者也。仁齋之說。似是而非也。

聖賢 一條

(百二十三)聖字。古昔或以名其德。或以命其人。不如後世所稱。截然有階級也。周禮以聖居六德之一。孔門或以仁連稱。或以智併論。又或爲兼仁智之稱。未有明訓之可據。竊以謂聖字或知或行。各造其極。不可測識之稱。洪範曰。思曰睿。睿作聖。中庸又稱聰明聖知。此謂智之造其極也。(百二十四)孟子以伯夷伊尹柳下惠。皆爲聖人。而以智譬射之巧。聖譬射之力。而三子之所以不及乎孔子者。便在於智之不足焉。則聖者又行造其極之稱也。而自可欲之善而充之。至於大而化之爲聖人。似亦行造其極之稱。賢字亦非若後世所號。必有階級也。觀孔子以伯夷叔齊爲古之賢人。而孟子以伯夷爲聖人。宰我論孔子則亦爲賢於堯舜。(百二十五)後世論孟子。或以賢聖二字連稱之。則知古人所云聖賢之稱。不如後人之甚泥也。

〔評〕百二十三、人有至德曰聖。仁齋別人與德爲兩項。是亦以爲本然之德也。其誤益見。

〔評〕百二十四、如夷惠。未至於大而化之域。孟子之稱聖。亦自有輕重。雖然通觀語孟六經及古書。聖重賢輕。賢猶言君子。汎稱也。聖則不輕稱之。如孟子稱夷惠爲聖人。究竟非適當之目。宰我所謂賢。猶言愈也。非聖賢之賢也。

〔評〕百二十五、孟子云。賢聖之君六七作。泛稱其德之美也。何引韓子之語。

君子小人 凡三條

君子小人之稱。雖有以位言。與以德言之別。然本主位而言。蓋天子諸侯謂之君。卿大夫謂之子。而郊野細民。謂之小人。君子小人之稱。蓋取於此。夫爲人之上者。其人宜氣象老成。智識遠大。足以爲天下之儀表。故有其德者。雖無其位。又謂之君子。尊其德也。其人猥瑣卑微。僞詐褊愎。有細民之氣象者。雖在位。又謂之小人。鄙其人也。此與賢不肖善人不善人之稱。大不同。」(百二十六)人之所以爲學者。在自進君子之道。而不爲小人之歸。然不明乎君子小人之辨。則於君子之心。不知其如何。而不覺流乎小人之趣矣。故夫子每々對舉君子小人。而深究其所以相反之狀。其所以爲學者之意。甚爲深切。不可不察焉。伊川先生曰。有欲爲聖人之心。而後可與共學。可謂確言。固漢唐諸儒之所不及。然其眞實有志。超然卓犖。度越流俗者固可。若中人之資。以此爲志。必有躐等凌節。自立標準之病。不如以君子自期待之無弊。

〔評〕百二十六、余亦常言聖人賢人仁者知者。皆成德之稱。今之學者。豈可妄希望乎。然須先學君子之氣象。免小人之陋習。是唯在立志。不由才之高下。

(百二十七)聖門所稱君子之道者。亦與稱聖人之道。自夐別矣。蓋君子之道。謂平易從容。無過不及。而萬世不易之常法。若子產有君子之道四。又曰。君子之道。造端乎夫婦。又曰。君子之道。淡而不厭。簡而文等語是也。(百二十八)唯費而隱之語。與論語中庸諸章大不同。蓋註家不知聖人之旨。而錯解之耳。中庸曰。君子之道。闇然而日章。隱字當作闇字意解之。

〔評〕百二十七、凡稱聖人之道者。有大小深淺之不同。君子之道亦然。仁齋之說失於偏。宜其不得費而隱之解也。中庸所謂。君子之道。猶言儒者之道也。專指孔門之道而言。與論語所謂君子之道。汎言士君子之道者不同。

〔評〕百二十八、費而隱。闇然而日章。語勢正反。宋儒固錯解之矣。仁齋亦未得其解也。

王霸　凡三條

王者有天下之稱。霸者諸侯之長。當初未有王霸之辨。文武之後。王綱解紐。號令不行於天下。桓文互興。約與國務會盟。而不能以德服天下。於是王霸之辨興。非必以霸爲非也。觀文王之爲西伯可見矣。後世又有皇帝王霸之論。(百三十)儒者誦之。然孔子之所不言。孟子之所不論。蓋戰國縱橫雜家之說。闕之可矣。

〔評〕百二十九、非必以霸爲非也。是語焉而不詳也。宜言謂桓文之雜詐力爲卑也。非必以霸爲非也。

〔評〕百三十、皇帝王霸。謂三皇五帝三王五霸之治。論世道之變也。雖孔孟之言不及。何必闕之。

王霸之辨。儒者之急務。不可不明辨焉。孟子曰。以力假仁者霸。以德行仁者王。以力服人者。非心服也。力不贍也。以德服人者。中心悅而誠服也。此王霸之辨也。(百三十一)荀子曰。粹而王。駁而霸。其言雖近似。然而推度之見。非知王道者之言也。蓋王者之治民也。以子養之。霸者之治民也。以民治之。以子養之。故民亦視上如父母。以民治之。故民亦視上如法吏。如重將。雖奔走服役。從其命之不暇。然實非心服。有禍則避。臨難則逃。不與君同患難。其設心之異。在毫釐之間。而民之所以應上者。有霄壤之隔。非徒粹駁之異而已。

〔評〕百三十一、荀子之意。謂專行仁義者王。雜以詐力者霸。此亦勸說當時諸侯也。亦猶孟子好貨與百姓同之說。卑近使易入耳。不可謂推度之見。不知王道矣。

王者以德爲本。而未嘗無法。然法者其所以敷德之。然而不能實有其德。及乎五霸既沒。時世益衰。而專任法術。不復知假德。於是有刑名之學。王不待雜霸。霸不待任法術。而任法術者。不能當霸。霸不得當王。蓋大能制小。小不能敵大也。

鬼神　附卜筮凡四條

(百三十二)鬼神者。凡天地山川宗廟五祀之神。及一切有神靈能爲人禍福者。皆謂之鬼神也。朱子曰。鬼者陰之靈。神者陽之靈。其意蓋以謂雖有鬼神之名。然天地之間。不能外陰陽而有所謂鬼神者。故曰云云。可謂固儒者之論也。然今之學者。因其說。徒以風雨霜露日月晝夜屈伸往來爲鬼神者。誤矣。

〔評〕百三十二、神者靈妙不測之稱也。故凡天地山川及人物之靈者。名之曰神。尊而稱之也。爾雅曰。鬼之爲言歸也。尸子曰。古者謂死人爲歸人。鬼者謂死者之精靈耳。廟而祀之。則又謂之神。對而言之。則天曰神人曰鬼。散而言之。則通曰鬼神。（百三十三）當以論語所載夫子之語爲正。而不可以其他禮記等議論雜之也。按夫子論鬼神之說。載魯論者纔數章而止。至於孟子。無一論鬼神者。蓋三代聖王之治天下也。好民之所好。信民之所信。以天下之心爲心。而未嘗以聰明先于天下。故民崇鬼神則崇之。民信卜筮則信之。（百三十四）敎法爲主。而明其道曉其義。使民不惑于所從也。孟子所謂賢於堯舜遠矣。正謂此耳。樊遲問知。子曰。務民之義。敬鬼神而遠之。可謂知矣。又曰。未能事人。焉能事鬼。此皆見聖人深恐人之不務力於人道。而或惑於鬼神之不可知而言也。然祭如在。祭神如神在。鄉人儺。朝服而立於阼階。則又觀其於所當敬。則未嘗不盡敬。此吾夫子之所以明其道曉其義。使人不惑於所從。而與三代之聖人有不同也。由是觀之。則凡記禮等書。（稱）（百三十五）子曰或稱孔子曰。）諸論鬼神之言。皆出於漢儒之假託僞撰。而非夫子之言。彰彰明矣。

〔評〕百三十三、論語不盡孔子之言。安得以一部論語斷孔子之言乎。禮記家語等書。不必皆僞托。偏哉言乎。

〔評〕百三十四、使孔子治邦家。亦合於三代聖人也。豈專以敎法爲主。如後世儒者乎。是仁齋識見之陋。所以爲徂來春臺所笑也。

〔評〕百三十五、稱子曰。或稱孔子曰。兩者何別。宜言所稱諸孔子論鬼神之言。

卜筮之說。世俗之所多悅。而甚害於義理。故語孟二書。未嘗有言卜筮者。何者從義則不必用卜筮。從卜筮則不得不捨義。義當去矣。而卜筮不利。則將從義乎。從卜筮乎。義不可進矣。而卜筮利進。則將從義乎。從卜筮乎。義不可退矣。而卜筮利退。則將從義乎。從卜筮乎。義當生則生。義當死則死。在己而已。何待卜筮而決之也。君子去就進退。用捨行藏。惟義之所在。奚問利不利爲。是孟子之所以未嘗言卜筮也。論語不恒其德。或承之羞。子曰。不占而已矣。蓋言不恒之羞。不待占決而知其凶也。由是觀之。則夫子之不用卜筮。益明矣。故愚嘗謂三代之時。敎法未立。學問未闢。（百三十六）直至孔子而始斬新開闢。猶日月之麗于天。而萬古不墜。故三代以前之書。當以三代以前之說求之。而孔孟之書。當以孔孟之旨解之。各識其理之所在可矣。

〔評〕百三十六、誠書生之見耳。何視孔子之小也。

夫人所以信卜筮者。神明之一也。卜筮果神明邪。其事吉則吉兆應。其事凶則凶兆應。而後可。南蒯將叛。筮之得黃裳元吉之兆。蒯吉之。叛而敗。蒯叛人也。而以吉兆告。神明何益。卜筮果神明邪。其事吉則卜筮幷吉。其事凶則卜筮共凶。而後可。晉獻公欲以驪姬爲夫人。卜之不吉。筮之

吉。同占此事。一吉一凶。無所適從。神明豈若此乎。故卜筮之說。雖多載于三代之書。然至于語孟二書。無一言及于此者。蓋聖人以義爲斷。而使人不惑於不可知之途。此吾夫子之所以度越乎三代聖人。而永爲萬世之宗師也。

詩　凡三條

讀詩之法。善者可以感發人之善心。惡者亦可以懲創人之逸志。固也。然而詩之用。本不在作者之本意。而在讀者之所感如何。蓋詩之情。千彙萬態。愈出愈無窮。高者見之。則爲之高。卑者見之。則爲之卑。爲圓爲方。隨其所遇。或大或小。從其所見。棠棣之詩。淫奔之辭也。夫子取之。以明道之甚邇。旱麓之詩。詠歌文王之德也。子思引之。以明道之無所不在。憂心悄悄。慍于群小。衛莊姜之怨。不獲於其君也。孟子引之。以爲孔子之事。他人有心。予忖度之。大夫傷於讒而訴於天也。齊宣王引之。以嘉孟子之能察己之心也。學者觀此。可以悟讀詩之法矣。夫子特許子貢子夏。以始可與言詩已矣者。蓋以非二子之穎悟文學。不足以盡詩之情也。是讀詩之法也。若鄭箋朱傳。徒著作詩之來由。而不知本之於古人讀詩之法。惜哉。

〔評〕百三十七、子曰未之思也。夫何遠之有。此只反詩詞云、憚遠則未之思也。苟思之。應不憚遠。何遠之有哉。不必明道之近也。鳶飛戾天。魚躍于淵。言其上下察也。此亦只言鳶魚見于上下耳。先儒之說。皆似騎墻。

〔評〕百三十八、仁齋之說。是可謂用詩之法也。非讀詩之法也。

〔評〕百三十九、鄭箋朱傳解詩也。斷章取義。用詩之活法。豈可豫立之乎。非鄭朱全不知也。

〔評〕百四十、詩有六義。曰風賦比興雅頌是也　鄭箋朱傳。皆以國風二雅三頌爲三經。賦比興爲三緯。諸家終不能改其說。愚竊謂國風雅頌。是詩之體。非義。如鄭箋朱傳之說。則是詩只有三義。而無六義。又只當以風雅頌賦比興爲敘。而不可言風賦比興雅頌爲敘。則三經三緯之說。最可疑焉。予故謂詩六義。亦當不在作者之意。而在讀者之所用如何。蓋風賦是一類。比興是一類。雅頌是一類。風賦在尋常之所用。比興在臨時而寓意。雅頌取於音聲。何以言之。觀左氏傳。列國士大夫以詩贈答。皆曰賦某詩。或曰賦某詩第幾章。如此則三百篇皆可以爲賦。論語曰。可以興。則三百篇亦可以爲興。周禮有國雅國頌之稱。而國風一詩。或以爲雅。或以爲頌。則三百篇亦可以爲雅爲頌。故一詩各具六義。而六義通於三百篇之中。古人用詩之法。豈不大且廣乎。而於風賦比興雅頌之敘。其義又自分明矣。又按周禮大師。以六義教王之子弟。若鄭箋朱傳所謂。則鯫生小子皆可能通其義。奚待大師之教乎。

〔評〕百四十一、物徂來復宇士茹書曰。凡以六言考。皆兩兩相比。如六德六行六藝。及樂六德皆然。故詩六義。仁齋先生爲得之。祇其說猶有未安者。愚謂風賦是一類。風去聲諷同。謂諷人也。賦自見己志也。比興是一類。比直以相譬也。興引起其端。俾思以得也。凡諷人自賦。皆以比興引起其端。俾思以得也。

興行之也。雅頌是一類。謂其聲也。凡詩被之管絃是已。二南用頌聲。豳或雅或頌。他十三國風徒歌也。徒歌不被之管絃也。孔子收鄭風而放鄭聲。惡其被之管絃也。國風之風。平聲讀。

〔評〕百四十一、三經三緯之說。斷不可易。伊物二子所說。有不可通者。余別論之詳矣。

〔評〕百四十二、王之子弟貴人而已。其才識不必勝於鄙生小子。且一詩具六義之說。只擧其凡例耳。學者何難於鄭朱之解。

詩有美刺。蓋詩之作。有有作者者。有無作者者。大抵當時不知誰人所作。或作詩以諷人之淫。或本無此事。而託詞以見其情。朝野流傳。以相詠歌耳。非專有意美某人刺某人也。後之錄詩者。或國史。或採詩官。撮其大意。爲某詩美某人。某詩刺某人。今之小序是也。而朱子悉廢小序。而直據經文以著其義。然後之諸儒。多言小序不可廢焉。其說皆有明據。愚又謂若廢小序而悉據經文。則事多有害于義者。桑中詩曰。云誰之思。美孟弋矣。二章曰。云誰之思。美孟姜矣。三章曰。云誰之思。美孟庸矣。如朱子之所說。則是一人而相期約於三人乎。三人各有所期約乎。丘中有麻。彼留子嗟。又曰。丘中有麥。彼留子國。山有扶蘇曰。不見子都。乃見狂且。又曰。不見子充。乃見狡童。是一人而私二人乎。二人各有所私乎。若謂二人各有所私。則此一首詩。而出於二人之手也。若謂一人而私二人。則一幽僻地。不可同留二人也。羞惡之心人皆有之。雖淫奔者。不可自發其奸。其不相通也如此。故悉廢小序而直據經文。則國

風諸篇。類皆爲淫奔者之所自作。而美刺之旨不明矣。故曰。事多有害於義者。正爲此也。

〔評〕百四十三、朱子取捨小序。非悉廢之也。其捨而不取者。甚有理。後世云不可廢者。不深思耳。豈有明据乎。

〔評〕百四十四、愚謂當時淫奔者衆。故詩人泛言而刺之也。不必有此人。朱子以爲淫奔者之作。固誤也。然由是概非朱子。恐不免疎。

書 凡三條

六經莫古於書。而散亂僞撰。亦莫甚於書。然而堯舜禹湯文武之書。(百四十五)尚多在。學者當因其存而察其亡。信其當信而疑其當疑。則聖人之大經大法。畧足觀焉。而其散亡僞撰之甚。亦不足以爲害也。尚書有今文古文之別。今文二十九篇。出於秦博士伏勝之口授。寫以漢世文字。故名今文尚書。古文五十八篇。武帝時魯恭王壞孔子宅。得竹簡書。皆科斗文字。故號古文尚書。遇巫蠱之禍而不行。遂廢矣。歷四百餘年。東晉以來。稍行於世。至於隋開皇中始全。故今今文古文並行。然朱子●吳臨川●梅鷟之徒。皆疑古文之非眞。其言鑿鑿乎有據。凡古人作一篇文字。必有起結。若堯典。其終只曰釐降二女於嬀汭嬪于虞。帝曰欽哉。此豈足結一篇之終乎。且孟子引舜典而稱堯典。則古二篇合而爲一篇明矣。三苗之征。泰誓之年數。其理不得明暢者。皆因過信古文也。孟子曰。讀其書不知其人。可乎。唐虞三代之間。其議論皆在於脩政知人之間。而未嘗有心性之論。古文

尚書多說心說性。最非唐虞三代之口氣。其害於道甚多矣。

〔評〕百四十五、文武當作武王周公。尚書無文王之書。

讀書者。須先明夫子祖述堯舜之意。而後始讀之四代之書。(百四十六)甲 而看聖人之書。必有不滿之意。故不能得其理。孔安國曰。伏犧神農黃帝之書。謂之三墳。言大道也。少昊顓頊高辛唐虞之書。謂之五典。言常道也。所謂大道者。蓋言甚廣大而非常道之所及也。然而觀夫子特取唐虞二典。而三皇三帝之書皆黜之。則知其所謂大道者。必是磅礴廣大。不切於人倫。不近於日用。無益於天下國家之治者也。惟堯舜之道。爲能究人道之極。而萬世不易。中庸之至。而夏商周之道。亦皆準堯舜之法。而一無爲無爲自化之說者。藉令百世之後。有聖人者出。然蔑能出於唐虞三代之上。而老莊氏所謂無爲自化之說。皆繆妄不經。不可爲訓矣。學者知此理。而後正得夫子定書之意。而於四代之書。深知其造至極而不可復加焉。

〔評〕百四十六、孔安國古文尚書序出于魏晉人之僞作。三墳言大道。蓋杜撰也。三皇之時。豈有無爲自化之說乎。僞作者依老莊之說而臆度之耳。仁齋既不信古文尚書。猶有此說何乎。

歐陽子曰。堯舜禹湯文武。此六君子者。可謂顯人矣。而後世猶失其傳者。豈非以其遠也哉。是故君子之學。不窮遠以爲能。而闕其不知。慎所傳以惑世也。方孔子時。周衰學廢。先王之道不明。而異端之說並起。孔子患之。乃修正詩書史記。以止紛亂之說。而欲其傳之信也。故畧其

遠而詳其近。於書斷自唐虞以來。著其大事可以爲世法者而已。至於三皇五帝君臣世次。皆未嘗道者。以其世遠而愼所不知也。孔子既沒。異端之說復興。周室亦益衰亂。接乎戰國。秦遂焚書。先王之道中絕。漢興久之詩書稍出而不完。當王道中絕之際。奇書異說。方充斥而盛行。其言往往反自託於孔子之徒。以取信於時。學者既不備見詩書之詳。而習傳盛行之異說。世無聖人以爲質。而不自知其取捨眞僞。至有博學好奇之士。務多聞以爲勝者。於是盡集諸說而論次。初無所擇。而惟恐遺之也。嗚呼堯舜禹湯文武之道。百王之取法也。其盛德大業。見於行事。而後世所欲知者。孔子皆已論著之矣。其久遠難明之事。後世不必知。不知不害爲君子者。孔子皆不道也。夫孔子所以爲聖人者。其智知所取捨皆如此。歐陽子此論。最有補于世教。雖閩洛諸君子。猶有所不及者也。凡爲三皇五帝之論者。皆出於戰國譎緯雜家之說。而非孔子之旨。若歐陽子者。可謂能得聖人之旨也。予故表而出之。

易 凡三條

凡學孔子之道者。當從孔子之言者也。欲學孔子之道。而不從孔子之言者。是叛孔子者也。語曰。加我數年。五十以學易。可以無大過矣。愚謂(百四十七)六十四卦三百八十四爻。一言以蔽之。曰可以無大過矣。夫日中則昃。月盈則虧。故避盈滿而處退損。易之敎也。昔者聖人深究陰陽消長之變。而明著進退存亡之道。六十四卦三百八十四爻。總莫非發明此理。故可以無大過矣之一言。實足以

蔽之矣。大凡區區象數卜筮之學。皆非夫子之意也。而程子從孔子而以義理解之。朱子從文王周公而以卜筮爲主。愚謂易之爲書也。夫子以前固爲卜筮之書。然六經永爲孔氏之書。則易書固當以程子爲是。

〔評〕百四十七、繫辭云。易有聖人之道四焉。以言者尚其辭。以動者尚其變。以制器者尚其象。以卜筮者尚其占。易雖卜筮之書。然夫子以前。既玩之者不止卜筮之一途。非孔子始爲義理之書。且論語雖有是言。豈可決孔子廢卜筮乎。後儒爲卜筮之書。何叛孔子哉。易著進退存亡之機。定猶豫決嫌疑。故可進而進。可退而退。時止則止。時行則行。易之敎也。今唯据豐卦彖之文。以避盈滿爲易之敎。其說皆失於一偏矣。

歐陽子（百四十八）。趙南塘共深辨十翼非孔子之所作。愚謂古之經書。莫明於魯論。亦莫正於魯論。不比詩書義理難曉。紛亂甚多。故天下之書（百四十九）。皆當以魯論爲正。爲之折衷。大傳曰。原始反終。故知死生之說。又曰。精氣爲物。遊魂爲變。是故知鬼神之情狀。今以論語證之。非夫子之語彰彰矣。而從卜筮（百五十）則害義。從義則不必用卜筮。故語孟二書。未嘗言卜筮。今繫辭說卦專爲卜筮作之。則歐陽子以爲筮人之占書。而非孔子之所作。宜矣。又以大傳何謂子曰者。爲講師之言。皆非易家之所及。歐公有易童子問。趙著易說三卷。歐說學者不可不讀。

〔評〕百四十八、歐陽子曰。繫辭以下非孔子之作。是猶以彖象爲出於孔子。

〔評〕百四十九、孔子一生之言。豈止論語所載乎。安知無有孔子之言。論語所不載。與大傳所言相似者哉。仁齋之見狹矣夫。

〔評〕百五十、此未達於古人用卜筮之義也。

古者易學自有二家。彖象及文言（百五十一）。儒家之易也。繫辭說卦。筮家之易也。儒家之易。專明陰陽消長之變。而無一涉于卜筮者也。莊周所謂易以道陰陽是也。彖本謂卦下之辭。今所云彖曰者。以釋卦下之辭。故亦通謂之彖。象即晉韓宣子聘魯所觀（百五十二）。今象曰是也。朱子從疏家一說。以爲彖象傳者非也。二書之作。皆在夫子之前。彖以釋卦辭。象以釋爻辭。而象不及卦下之辭者。蓋存于彖也。以此觀之。則彖又在象之前可知矣。繫辭本乎儒家之易。而以卜筮爲主。歐陽子爲筮師之作是也。說卦專說卜筮。皆筮家之易也。程傳雖從繫辭。實與彖象之旨合。深知易者。自識之矣。

〔評〕百五十一、彖象亦主解卦爻之占辭。其間有說天地人之道者旁義也。今云無一涉于卜筮者。誤矣。

〔評〕百五十二、爻下之辭。如潛龍見龍履霜括囊。多象物者。故曰象也。今象曰者。亦釋爻辭。恐非韓宣子所觀。彖象二傳。在夫子之前。何無明據。余姑從舊說。

春秋　凡二條

春秋者。魯史記之名也。蓋魯史官因二周公之舊法典禮一而著二善惡之跡一。故謂二之魯春秋一。晉韓宣子之所レ觀是也。周道既衰。邪說暴行有作。臣弒二其君一者有レ之。子弒二其父一者有レ之。故孔子懼而作二春秋一。蓋史官之筆。雖レ襲二用周公之舊法一。然不レ能レ無レ詭二於聖人一。故夫子削二其違二于義一者一。而筆二其合二于義一者一。故曰。其義丘竊取レ之矣。其取レ之云者。我取二之於彼之辭一。非二夫子親爲一之褒貶一也。蓋當時世朴事簡。無二載籍之行一于世一。善惡淑慝。皆與レ時共沒。無二著于後世一。故亂臣賊子懼。

子就二魯春秋一筆削之一。以爲二百世不刊之典一。故亂臣賊子懼。

知二春秋一者。莫レ若二孟子一。而左氏獨與二孟子之意一相合。臣弒二其君一者有レ之。子弒二其父一者有レ之。孔子懼作二春秋一。參レ之。孟子曰。世衰道微。邪說暴行有作。臣弒二其君一者有レ之。子弒二其父一者有レ之。孔子懼作二春秋一。

春秋天子之事也。是故孔子曰。知レ我者其惟春秋乎。罪レ我者其惟春秋乎。蓋夫子以二亂臣賊子接一踵於當世一。莫二之能禁一而作レ之也。是春秋之大義也。其紀二日月爵位一者。固書法之所レ在。然謂二之春秋之大義一。則不可。蓋聖人之脩レ經也。在レ於二禁亂臣賊子之欲一。而使二人觀一レ其善惡之跡一。故左氏之著傳。亦備載二其事之本末一。而使二人審覈其善惡之實一。此左氏之所レ以知二聖人之意一。而與二孟子之意一相合一也。後人惟知二解義理一之爲二傳註一。而不レ知二記事實一之爲二傳註一。左氏之意荒矣。所謂天子之事者。指二禮樂征伐言一。論語曰。天下有レ道。則禮樂征伐自二天子一出。天下無レ道。則禮樂征伐自二諸侯一出是也。而禮樂征伐非二庶人之所一レ敢議。然以二當時上無一レ以明一レ道者一。故孔子不レ得レ已而作レ之。故曰。知レ我罪レ我者。

其惟春秋乎。以二天子之事一爲レ託二二百四十二年南面之權者一。尤非也。

〔評〕百五十三、左氏之所レ傳。與二聖人旨一詭者。亦往往有レ之。且其於二與二孟子一合否一。則余未レ有レ所レ考。但春秋之文簡畧。若非レ讀二左氏一。則其事跡不レ明。是先儒所二以取一左氏一也。

總論四經　凡二條

（百五十四）

六經之學。當二先得一其大義一。苟得二其大義一。則猶二順流而下一。循レ途而行。無二甚難一レ解者一。不レ比二他書句櫛章梳一。逐一解說可レ通。蓋人情盡二乎詩一。政事盡二乎書一。事變盡二乎易一。世變盡二乎春秋一。不レ讀レ詩。則不レ能二以立一レ教。不レ讀レ書。則不レ能二以善一レ政。不レ讀レ易。則無二以識一事變一。不レ讀二春秋一。則無二以馭一世變一。此其大義也。六經之學。其遼哉。而夫子雅言。獨在二詩書一者。何哉。夫人情無二古今一。無二華夷一也。苟從二人情一則行。違二人情一則廢。苟不レ從二人情一。則猶レ使二人當一レ夏而裘。方レ冬而葛。雖二一旦從一レ之。然後必廢焉。故立レ教施レ政者。必不レ可レ不レ讀二詩書一也。而聖人之爲レ政也。本二於人倫一。切二於人情一。而無二虛無恢譚之行一。無二功利刑名之雜一。四代之書。皆盡二君臣之道一。究二人倫之極一。而與二夫黃老無爲自化之說一。不二啻霄壤一。故詩書二經。尤平易近レ情。使二人易一レ從易一レ行。達二乎萬世一而無レ弊者也。故自二詩書一入者。其意平而無二詭異邪僻之行一。若夫好二邪說暴行一。高遠不レ可レ及之術者。必不レ知二自二詩書一入者也。若二佛老禪儒之說是也。是夫子之所レ以雅言二詩書一。而諄諄然爲二中之教誨一也。

〔評〕百五十四、六經當レ作二四經一。即上文所レ論詩書易春秋也。片言隻辭不レ及二禮樂一。其云二六經一者。

但襲前儒之言而不省耳。雖然禮之爲用。不可須臾無。則其書雖有不切於今者。學聖人之道。最不可不治。此書一言不及何也。

讀六經與讀論孟。其法自別。論語孟子（百五十五）說義理者也。詩書易春秋不說義理。而義理自有者也。說義理者。可學而知之也。義理自有者。須思而得之也。可學而知之者。顯而示之也。須思而得之者。含蓄不露者也。四經猶天生之物。不煩雕琢。自然可觀焉。語孟猶設權衡尺度。以待天下之輕重長短也。六經猶畫也。語孟猶畫法也。知畫法而後可通畫理。不知畫法而能曉畫理者。未之有也。六經猶直描畫天地萬物之態。纖悉不遺。語孟（百五十六）猶指點天地萬物之理而示之人。故通語孟二書。而後可以讀六經。否則雖讀六經。茫無津涯。瑣瑣訓詁。不足以發明六經也。程子曰。論語孟子既治。則六經不治而自明矣。此言亦讀六經者。所當先識也。

〔評〕百五十五、語孟亦不專說義理。論語說道德者多。而說義理者少。孟子當戰國無道之時。故論王道之外。說義理者多。

〔評〕百五十六、語孟二書。豈盡天地萬物之理乎。但通此二書。則得力多。而可以治六經。仁齋信語孟大過。是其得力處。亦其不免固陋處。

附　大學非孔氏之遺書辨

欲爲孔孟之學者。不可以不讀孔孟之書。欲讀孔孟之書者。不可以不識孔孟之血脉。讀孔孟之書而不識孔孟之血脉者。猶船之無柁。夜行之無燭。瞽者之失杖而莫識其所嚮方也。其可乎。苟讀孔孟之書而識孔孟之血脉。天下何書不可讀。何理不可辨。試以異端之言雜諸聖人之書。以聖人之言置諸異端之書。其見之如視黑白。（百五十七）分之如辨菽麥。隨手而取。入耳則知。不爽毫釐。不差杪忽。夫然後謂之能識孔孟之血脉也。將何以得能識孔孟之血脉而不惑乎。夫孔子之聖。賢於堯舜遠甚。而自有生民以來。未有比其盛者矣。而孟子願學孔子而得其宗者也。若使孔孟復生於今世。其所說所行。不可過語孟二書。則舍語孟二書。而其何以能之。誠以論語一書。（百五十八）其詞平正。其理深穩。增一字則有剩。減一字則不足。天下之言。於是乎極矣。天下之理。於是乎盡矣。實宇宙第一書也。孟子之書。亦羽翼論語。而其詞明白。其理純粹。非若禮記諸篇。出於秦人坑燔之餘。而成於漢儒附會之手。故次論語而其言無詭者。其惟孟子乎。（百五十九）學者苟取此二書。沈潛反復。優游饜飫。口之而不絕。手之而不釋。立則見其參於前。在輿則見其倚於衡。如承其謦欬。如視其肺腑。不知手之舞之足之蹈之。夫然後得能識孔孟之血脉。而不爲衆言淆亂之所惑也。大學一書。本在戴記之中。不詳譔人姓名。蓋齊魯諸儒。熟詩書二經。而未知孔孟之血脉者所撰也。其齊家傳以下。言孝弟慈。論絜矩之道者。吾有取焉。固能得詩書之意者也。至乎其列（百六十）八條目。及其所說學問之法。則不能無疑。大學曰。古之欲明明德於天下者。先治其國。欲治其國者。先齊其家。欲齊其家者。先脩其身。欲脩其身者。先正其心。欲正

其心」者。先誠「其意」。欲「誠其意」者。先致「其知」。致「知在「格物」。程子以「此爲「古人爲「學次第」。然而愚謂孔孟言「爲「學之條目」者固多。未「聞「以「此八事」相列」。若「此其密」。語曰。子以「四教」。文行忠信。明夫子教「人之條目在「此四者」。而無「他法」也。又曰。知者不「惑」。(百六十一)仁者不「憂」。勇者不「懼」。明此三者天下之達德。而進「學之叙」。無「出「於此」者「也」。曾子曰。夫子之道。忠恕而已矣。明忠恕終「身可「以行「之」。而夫子之道。莫「過「於是」者「也」。中庸曰。爲「政在「人」。取「人以「身」。修「身以「道」。修「道以「仁」。此亦言「爲「學次第「如「此」。何其簡而易「從耶」。大學以爲「人之進「道若「登「九層臺」。(百六十二)歷「二階「又歷「二階」。而後進「至「于臺上「耶」。夫道非「他」。即人之道也」。以「人脩「人之道」。何遠之有。孔子曰。仁遠乎哉。我欲「仁」。斯仁至矣。孟子曰。道在「邇」。而求「諸遠」。皆言「道之甚近也」。豈有「如「登「九層臺「乎。宋人嘗譏「韓子」。以「其引「大學「不「及「於格物致知」。亦不「深考「耳」。孟子曰。人有「恒言」。皆曰天下國家。天下之本在「國」。國之本在「家」。家之本在「身」。非「但不「及「於格物致知」。纔止「於家之本在「身」。而不「及「於正心誠意」。則又譏「孟子「以「不「知「大學「可乎。故知八條之目。非「孔孟之意明矣。大學曰。修「身在「正「其心「者」。身有「所「恐懼」。則不「得「其正」。有「所「好樂」。則不「得「其正」。有「所「憂患」。則不「得「其正」。夫存「心之道。莫「要「於無「所「恐懼恐懼好樂憂患者「邪。書曰。以「禮制「心」。孟子曰。君子以「仁存「心」。以「禮存「心」。又曰。居「仁由「義」。大人之事備矣。大學乃不「以「此爲「要」。而徒欲「無「所「忿懥恐懼好樂憂患何哉。夫此四者。心之用也。凡人有「斯形「則有「斯心」。有「斯心「則不「能「無「忿懥恐懼好樂憂

患。苟以「仁存「心」。以「禮存「心」。則此四者。即仁禮之著。而天下之達道也。何惡之有。(百六十四)大學乃不「此之識」。而徒欲「無「忿懥恐懼好樂憂患」。此即不「識「孔孟之血脉「故也。又曰。心不「在焉。視而不「見。聽而不「聞。食而不「知「其味」。可「謂「害「道尤太甚「矣。非「惟不「識「孔孟之血脉」。蓋不「信「孔子」。而自欲「以「己之學「號「於世「者也。語曰。子在「齊聞「韶。三月不「知「肉味」。又曰。發「憤忘「食。又曰。顏淵死。子哭之慟。從者曰。子慟矣。曰。有「慟乎。非「夫人之爲「慟而誰爲。若以「大學「觀「之。則可「謂「孔子亦不「免「放心」也。夫撰「大學「者。本非「疎漏而然。亦非「有「意義相通」。其學本不「見「仁義之良」。而欲「剛制「其心」。蓋告子之流耳。又曰。(百六十五)正心二字。又見「於孟子」。然尚有「當議「之者」。孟子曰。我亦欲「正「人心「息「邪說」。距「詖行「放「淫辭」。以承「三聖者」。所謂正「人心者。謂「禁「民之非心」。而俾「之無「邪說暴行之甚。與「大學之意自異矣。若「孟子之意」。正「心二字。當施「之於民」。而不「可「施「之於己」。故平生誨「人。或曰「存「心。或曰「養「心。而未「嘗言「正「心。其意可「見矣已。存「心云者。欲「其不「亡也。養「心云者。欲「其長「也。而大學以爲「人之制「心。當「若「造「器物」。其形方正端直。一定不「可「變焉。此豈識「心者乎哉。大學曰。大學之道。在「明「明德」。按明德之名。屢見「於三代之書」。然三代之書。本記「聖人之所「行。或以「此美「聖人之德」。或曰「明德」。或曰「峻德」。其意一也。故雖「數數見「於典謨誓誥之間」。然非「學者之所「能當」。故至「於孔孟」。每曰「仁曰「義曰「禮」。而未「嘗有「一言及「於明德「者矣。作「大學「者。不「知「其意在」。見「詩書多有「明德之言」。而漫述「之耳。豈非「不「識「孔孟之意乎。又曰。爲「

人君「止於仁」。夫孔孟之學。以「仁爲」宗。而凡學者莫「不」從「事於此」。(百六十七)今大學獨屬「之於人君」。而無「爲」學者「道」之者」。是亦與「孔孟之旨」異矣。又曰。欲「正」其心」者。先誠「其意」。夫意一也。(百六十八)論語說「毋。大學說「誠。一正一反。必不「可」無「是非」。而中庸曰「誠身。而不「曰「誠意。則誠字當「施」之於身」。而不「可「施」之於意」明矣。又曰。楚書曰。楚國無「以爲」寶。夫楚南蠻缺舌之俗。中國之所「不」齒。而陳良楚之產。乃不「學於其國」。而北學「周公仲尼之道於中國」。今大學不(百六十九)「引」文武周公之訓」。而遠用「楚人之言」。最不「可」解焉。又曰。生「財有「大道」。夫財者生民之所「資以生者。固不「可」不「爲」之立「禁設」厲。量「入爲「出」。預講「度支之方」。然均無「貧。和無「寡。安無「傾。君子謀(百七十)求「生」財之道乎。況禮義信三者。猶不「謂「之大道」。其於「生」財有「大道「何哉。非「孔氏之徒之言「可「知矣。又曰。此謂「國不「以「利爲「利以「義爲「利也。是亦以「利心」言「之者也。孟子曰。王何必曰「利。亦有「仁義「而已矣。夫君子之行「道也。惟義是尚。而不「知「利之爲「利也。苟有「以(百七十一)「義爲「利之心焉。則其卒也莫「不「捨義而取「利也。蓋戰國之間。陷溺之久。人皆悅「利。而自「王公大人。以至於庶人。惟利之欲「聞。故雖「被服儒者」。每憂「其術之不「售。必以「利啗「人。所謂生「財有「大道」。又曰。以「義爲「利。蓋用「此術「也。大學非「孔氏之遺書。彰彰然明矣。大凡愚所「著十證者。(百七十二)雖「不「悉繫「乎血脉之合否。然其一二命「意措「詞之差。本皆因「不「識「血脉然。則今亦不「得「不「爲「之辨」。世衰道微。邪說暴行又作。孟子既言「之。今觀「柱下書遠遊篇」。邪說之行。固已尚矣。況乎戰國之際。去聖既遠。經殘言闕。世之學士大夫。自以爲「至寶」。而不「知「實爲「邪說」

之所「誤也。今不「全爲「左衽之俗「者。幸孔孟之遺教尚存故也。漢儒擇「之不「精。識「之不「徹。貪多務「得。不「知「其害「道之甚至「于此」。大學本在「禮記」。則爲「一篇書」。而不「詳「出「於誰人之手」。至「於朱考亭氏」。始分爲「經一章傳十章」。經以爲「夫子之言」。傳以爲「曾子之意而門人記「之」。蓋出「於其意之所好尚。而非「有「所「考證「而言」。後學不「知「自辨」。直以爲「孔子之言而曾子傳「之」。可「謂「害「道之尤者「也。(百七十三)愚之至無似。何敢望「考亭」。德行之勤也。學問之博也。文章之富也。其相懸絕。不「翅萬分之一」。其不「可「跂及。固不「待「言「之矣。然竊自思於識「孔孟之血脉」。則不「敢自讓「焉。於「是竊不「自揣。漫述「孔孟之血脉」。以附「之兒曹」。實恐孔孟之旨。不「大明「于後世「也。孟子曰。予豈好「辨哉。予不「得「已也。憂「道之君子。其諒「諸。

〔評〕百五十七、大學曰。人之視「己如「其見「肺肝」。見視二字互誤。

〔評〕百五十八、論語一書。豈盡「孔子乎。意孔子之言行。論語所「不「載猶多。況又古今異「宜。使孔孟復生「於今世」。其所「說所「行。豈無「所「出入乎。凡言有「詳有「畧。皆可「通也。論語之詞。豈不「可「增減「乎。余嘗疑「其有「衍脫」。仁齋之言。恐是過當。

〔評〕百五十九、余亦喜讀「孟子」數十年。近覺「其言間有「過「於辯」。而詭「於正者」。仁齋信「孟子」亦過當。」

〔評〕百六十、大學本非「立「八條目」。推「說乎「天下之本乎致知格物「而已矣。格物即學也。程子誤以爲「古今爲「學次第」。朱子因命「之曰「八條目」。仁齋定本。雖「不「取「程朱之解」。而猶承「其誤」。故有「此說」。

〔評〕百六十一、知者不惑三句。唯論三者之德耳。非進學之序也。此亦承朱子之誤。夫子之道忠恕而已。言孔子之所行也。爲政在人一節。論爲政之本也。並非爲學之方。仁齋之讀書也。可謂崑崙呑棗矣。

〔評〕百六十二、大學之意。豈若登九層臺乎。是以推說爲工夫。致知誠意正心。皆在身上。豈可謂之求諸遠乎。

〔評〕百六十三、聖賢之言。有詳有畧。苟得其旨。詳者無剩。畧者無缺。豈可譏孟子以不知大學乎。韓子引大學。而畧其要語。故致宋儒之譏。事躰自不同。

〔評〕百六十四、大學之意。謂心者身之主也。人身有恐懼憂樂之心。則其措置或失正。心馳於外。則視聽失用。食不知味。故修身在正其心。是反說心有偏繫。而身不修之躰狀。以明身之本在心而已矣。非嚴示訓誡以爲正心之方也。此亦承宋儒之誤。而妄駁大學也。

〔評〕百六十五、欲正人心者。須先正其心。正心二字。何其當施之於民。而不可施之於己。孟子不言正心者。偶不及耳。凡如是之論。皆不通之甚也。仁齋先生之聰明而猶有此陋何也。蓋欲駁大學之意見既立。而吹毛求疵。不自知其說之失於偏陂也。豈非逐鹿者不見山乎。」

〔評〕百六十六、余嘗言。大學在明明德。明德猶言君德也。如後世稱君德曰聖德。蓋當時之言。然古者大學天子諸侯之國學也。天子諸侯之元子衆子造焉。故其所期如此。豈特望於士庶人之學者乎哉。

〔評〕百六十七、仁義忠信。人之道也。而古人或屬義於夫。或屬忠於臣。或屬信於友。則屬仁於君。豈獨不可乎。此亦陋見耳。

〔評〕百六十八、毋意誠意之解。已見上。此亦陋見。

〔評〕百六十九、君子不以人廢言。仲尼稱南人之言。楚書豈不可引乎。

〔評〕百七十、王制言制國用。財利豈不可。此亦一偏之說也。且大道謂有生財之大道耳。仁齋未達文義耶。

〔評〕百七十一、易六十四卦。每卦言利。孔子亦罕言利。非絕不言也。以義爲利。豈不可言乎。

〔評〕百七十二、十證者一不足病大學。所謂血脉者。仁齋亦有所未識乎。

〔評〕百七十三、大學豈害道乎。朱子章句未得其意。工夫落支離。是不害道者乎。

〔評〕百七十四、余之於仁齋。其才德之不及。豈啻如仁齋之於朱子乎。然辨此辨之非。亦不得已也。

附論堯舜既沒邪說暴行又作

予頃私策問諸友曰。世所傳諸子百家。異端邪說。皆聖遠經殘之所致。實戰國以來有之。上世無有。

百七十五　孟子言又作者。道微之上。邪說暴行又作也。又者加之之詞。仁齋錯認以爲再復之義。生此議論。此亦覺勞擾。

百七十六　僞古文序不足取。證說見上。

然孟子嘗曰。堯舜既沒。聖人之道衰。邪說暴行又作。（百七十五）而於文武周公之後。又曰。世衰道微。邪說暴行有作。臣弑其君者有之。子弑其父者有之。孔子懼作春秋。竊思孟子所謂邪說者。必有所指。若楊墨之徒是也。而以又作二字觀之。則邪說之害。非啻戰國以來有之。實孔子以前既有之。非啻孔子以前既有之。亦似乎堯舜以前實有之。吾不知其如何說。豈許行所爲神農之言。漢世所尙黃老之術者。本非戰國之間所僞撰焉。而上世實有之歟。抑上世所謂邪說者。非後世諸子百家之類。而別有所可斥名之者歟云云。而及閱諸友所對。多揣量摸寫。依傍名理。而未有明據事實。足以取信於後世者。故又自代諸友爲之擬對焉。究論堯舜以前。實有邪說暴行。且併及于孔子之聖。於是爲最大。而生民以來未嘗有之實。曰。按周禮。外史掌三皇五帝之書。春秋左氏傳。楚左史倚相能讀三墳五典八索九丘。說者謂即上世帝王遺書也。而漢孔安國曰。（百七十六）伏犧神農黃帝之書。謂之三墳。言大道也。少昊顓頊高辛唐虞之書。謂之五典。言常道也。可見孔子時三皇五帝之書尙在。而三墳言大道。五典言常道焉。則夫子皆當祖述之。而特斷自唐虞以下。三皇三帝之書皆在所黜焉者何哉。夫聖人之道。萬世通行之典也。故其道謂之常道。其書謂之經典。言其當萬世通行也。豈常道之外。別有所謂大道者乎哉。外常道而別有大道焉。則可知大道云者。便非萬世通行之典矣。竊以謂彼所謂大道者。則必是虛無恬澹。無爲自化之說。而非堯舜孔子之所取焉。想虛無恬澹。無爲自化之說。匪柱下漆園剏倡其說。蓋自上世已有之。世所傳黃帝內經者。

恐非悉七國時書。又屈子所述。周靈王太子晉之語。及周廟金人銘。孔父鼎銘。亦往往與其意相符焉。則虛無恬澹。無爲自化之說。自上世已有之。彰彰然明矣。而漆園鄭圃之書。屢屢稱黃帝之名。孟子時楚許行者。爲神農之言。有與民並耕之說矣。則知自上世別有非堯舜之道。而號神農黃帝之道。相稱述於世者焉。其爲孔子之所黜宜矣。由是推之。則知雖宓犧之學。亦不得爲全與堯舜之道相同。太史公曰。余登箕山。其上蓋有許由冢云。乃實其有是人也。凡廣成子・卞隨務光之流。蓋皆古隱君子。有奇行者。曠代相傳稱焉。則未必無其人也。孟子所謂堯舜孔子以前邪說暴行者。是已。蓋邪說者暴行之本。暴行者邪說之發。有則俱有。非有二也。大凡害於人倫。遠於日用。無益乎天下國家之治焉者。皆謂之邪說。皆謂之暴行。惟堯舜之君在位焉。則天下一家。道德一而風俗同。君君臣臣。父父子子。夫夫婦婦。兄兄弟弟。忠信和睦之風隆。詭行異論之徒熄。蕩蕩平平。無偏無黨。家自齊。國自治。而天下自平矣。虛無恬澹之說。自無所興。無爲自化之敎。自無所倡。是爲中庸之至。是爲王道之極。聖人既沒。世衰道微。異端蜂起。邪說並興。敢肆私說。無所顧諱。以常道爲卑而不足爲。以綱常爲近。而不加勤。家家異道。人人殊說。先王之道術。於是瓦解瓜裂。不復統一矣。不識道者。爲其所眩瞀蔽錮。驚以爲至言爲妙道。匍匐而從之。以爲遠勝於堯舜之道。而非周孔之所及。悲哉。道二。邪與正而已矣。天下豈有大於常道者乎哉。若謂外常道而別有大道焉。則其所謂大道者。必是邪說也。故人倫之外無

道。仁義之外無學。人之所當務力者。人倫而已矣。夫天運於上。地載於下。日月代明。四時錯行。人不能爲力於其間。在君惟當盡君之道。在臣惟當盡臣之道。在父惟當盡父之道。在子惟當盡子之道。人人盡己之道。而天下平矣。學雖闡天人之秘。智雖洞象數之原。然無益於人倫。無裨於世道者。聖人不取焉。故孟子曰。堯舜之道。孝悌而已矣。又曰。堯舜之知而不徧物。急先務也。堯舜之仁不徧愛人。急親賢也。向所謂害於人倫。遠於日用。無益乎天下國家之治焉者。皆謂之邪說。皆謂之暴行者。以其不可與入于堯舜之道也。譬諸珍羞異味。人多貪饞。至於五穀常膳。則不知嗜焉。然而舍五穀常膳。則無可以食也。大凡世之所崇信奉承。致恭盡敬。而藉藉乎時焉者。皆珍羞異味之類。而堯舜孔子之道。則五穀常膳也。人雖固不知尊之。然亦不能一日舍此而不由焉。大矣哉。赫赫皇天。篤生孔子。旁觀古今。歷選群聖。祖述其當祖述。憲章其當憲章。雖三皇五帝之書。猶在所黜焉。而獨斷自唐虞以下。祖述憲章之。而後天下萬世。君臣父子夫婦兄弟朋友之倫明。而無所迷惑。邪說暴行。猶烏葛之於嘉穀。自不得與正道相混焉。則孔子之德之學之大。其爲如何哉。非有乙若丁身坐堂上。能辨甲堂下人之曲直之智。則不能。故孟子曰。賢於堯舜遠矣。又曰。聖人之於民。亦類也。出於其類。拔乎其萃。自有生民以來。未有盛於孔子也。嗚呼與天地同其大。與日月同其照。超於三皇。跨於五帝。獨爲天下萬世帝王臣民之師表者。其惟孔子一人爲然。非知道者。孰能識

之。猗與盛哉。人以爲邪說暴行。皆戰國以來有之。上世無有。不然。唐虞以前邪說暴行者。方堯舜氏起。而退聽畏縮。不敢出頭。孔子以前邪說暴行者。又及孔子出。烟飛霧散。不復存跡。猶大陽中天。鬼魅狐惑。自伏匿而屏息。故後世所以不復知上世自有邪說暴行者。蓋爲此故也。唯黃老之說。遺孽猶在。至漢再熾。瞿曇之學。自外入寇。浸爾跳梁。至隋唐始盛。迨宋大躁。鉅儒輩出。雖爲之痛排深辨。不遺餘力。然愈撲愈熾。愈廢愈興。其所以卒不息者。爲徒託之空言。而無堯舜孔子之德也。夫道德衰。則議論皐。道德盛。則議論高。議論愈高。則離乎道德愈益遠矣。故議論之高。衰世之極也。而其最高者。至禪而極。故離乎人倫。遠於日用。無益乎天下國家之治焉者。亦莫禪爲甚。儒者以爲當以議論勝之。過矣。苟使吾道德盛焉。則彼自退聽。將服從之不暇。若不是之務焉。而徒欲以口舌與彼角衡。猶赤手與人鬪。相傷俱止。可謂陋矣。故孟子曰。君子反經而已矣。經正則庶民興。庶民興。斯無邪慝矣。昔者孔子成春秋。而亂臣賊子懼。蓋謂春秋成。而後君臣父子夫婦昆弟朋友之倫明。故亂臣賊子自知其無所逃罪。故懼焉。非謂讀春秋書。而亂臣賊子乃懼。是亦學春秋者所當識也。故遏邪說之術。脩吾道德爲上策。以倫理攻之爲中策。辨理之有無寂感爲下策。韓歐出中策。程朱出下策。其得上策者。孔孟以後未之或聞也。惜哉。

語孟字義卷之下 畢

右語孟字義二卷。古學先生伊藤君之所ㇾ著也。先生平日著述。逐旋修改。未ニ嘗停ㇾ手。故門人傳錄之本。條欵或異。文字不ㇾ一。今玆三月。先生易簀。景范恐ニ其遺ニ疑誤於後世ㇾ。速就ニ定本ニ手自校謄ㇾ。壽ニ諸文梓ㇾ。以貽ニ同好ㇾ。凡四方之本。皆當ニ就ㇾ此取ニ正云。

寶永二年乙酉冬至日

門人　林景范　文進　頓首拜書

語孟字義辨

程朱經學卓ニ起乎諸家ㇾ。世已有ニ定論ㇾ矣。我邦上古經學率遵ニ古註ㇾ。及ニ藤惺窩林羅山二先生出ㇾ。始尙ニ新註ㇾ。於是程朱之學大行ニ於世ㇾ。其後伊藤仁齋首ニ唱異學ㇾ。排ニ擊程朱ㇾ。物部徂徠太宰春臺輩相繼而起ㇾ。衒ニ奇鬻ㇾ新。務駭ニ俗聽ㇾ。大言夸說。無ニ所ㇾ忌憚ㇾ。耳食之徒從而比ㇾ之。一時靡然風ニ動天下ㇾ。吁亦可ㇾ謂ニ聖學之厄運ㇾ矣。夫徂徠之學。以ニ記聞詞章ㇾ爲ㇾ骨。附ニ之以管商之術ㇾ。文ニ之以周孔之道ㇾ。誇ニ才負ㇾ氣。辨博自喜。蓋文人之雄者。不ㇾ足ニ深論ㇾ也。至ニ於仁齋ㇾ。則既以ニ道學自居ㇾ。其制行亦有ニ可ㇾ觀者ㇾ。故世人往ゝ稱爲ニ有道宿儒ㇾ。予亦嘗以爲有ニ所ニ眞得者ㇾ也。頃閱ニ書篋ㇾ。獲ニ其所ㇾ著語孟字義者ㇾ讀ㇾ之。其捃ニ摭經傳ㇾ。攻ニ擊程朱ㇾ。雄辨強辭無ニ所ㇾ不ㇾ至。不ㇾ覺氣悶心憤。慨然發ㇾ嘆。遂擧ニ其尤失ニ孔孟之旨ㇾ。而致ニ程朱之冤者ㇾ。撮以辨ㇾ之。然予亦非ニ眞得者ㇾ。不ㇾ知其所ㇾ辨果中ニ肯綮否。讀者正焉。

天保庚子初冬　木山綱識

字義云。天地之間一元氣而已。或爲ㇾ陰或爲ㇾ陽。兩者只管盈ニ虛消ニ長往ニ來感五應於兩間ㇾ。未ニ嘗止息ㇾ。此即是天道之全躰。自然之氣機。萬化從ㇾ此而出。品彙由ㇾ此而生。聖人之所ニ以論ㇾ天者。至ㇾ此而極

矣。可ㇾ知自ㇾ此以上更無二道理一。更無二去處一。

辨曰。天地之間固一元氣也。然其或爲ㇾ陽或爲ㇾ陰。盈二虛消一長往二來感五應於兩間一。不ㇾ知果何物使二之然一也。其必有下主二宰之一者上矣。主二宰之一者。非ㇾ他即斯理也。唯有二斯理一。故斯氣之所二以流行一。自然有二條理一而不ㇾ亂。今夫山岳而川流。火熱而水寒。人獸自人獸。草木自草木。無ㇾ古無ㇾ今。無二夷無一ㇾ華。何也。斯氣之所二以流行一。有二斯理存一也。若無二斯理一。則天下之物錯亂雜糅。必至下人產二禽獸一。而禽獸產上ㇾ人矣。要之理離ㇾ氣而言。則雜亂無ㇾ統。仁齋之學是也。則空寂無ㇾ用。釋氏之學是也。氣離ㇾ理而言。字義云。何以謂二天地之間一元氣而已一耶。此不ㇾ可下以二空言一曉上。請以譬喩明ㇾ之。今若以二版六片一相合作ㇾ匣。密以ㇾ蓋加二其上一。則自有二氣盈一乎其內一。有二氣盈一乎其內一。則自生二白蹼一。既生二白蹼一。則又自生二蛙蠏一。此自然之理也。蓋天地一大匣也。陰陽匣中之氣也。萬物白蹼蛙蠏也。是氣也無二所從而生一。亦無二所從而來一。有ㇾ匣則有ㇾ氣。無ㇾ匣則無ㇾ氣。故知天地之間。只是此一元氣而已矣。可ㇾ見非二有ㇾ理而後生二斯氣一。所謂理者反是氣中之條理而已。

辨曰。理氣相依。未二嘗相離一。有ㇾ理斯有ㇾ氣。有ㇾ氣斯有ㇾ理。無ㇾ理斯無ㇾ氣。無ㇾ氣斯無ㇾ理。故理氣二者本無二先後之可一ㇾ言。然推而窮ㇾ之。則理爲ㇾ先。今譬二之盃與一ㇾ釜。釜以炊ㇾ飯。盃以飮ㇾ酒。而其可二以飮一ㇾ酒。可二以炊一ㇾ飯之理。則已在下未二嘗有一盃與一ㇾ釜之先上。夫陰陽之氣往來交感。以化二生萬物一。而其所二以往來交感以化一生萬物之理。則已在下未二嘗有一陰陽之氣之先上。故曰推而窮ㇾ之理爲ㇾ先。然斯理也不下獨在二未嘗有一

陰陽之氣之先上。在下已有二陰陽之氣一之後上。又在二萬物既生之後一。故斯理也謂二之氣之先一亦可。謂二之氣之中一亦可。謂二之氣之後一亦可。今仁齋徒知ㇾ有二氣中之理一。而不ㇾ知ㇾ有二氣先之理一。所ㇾ謂無頭之學非耶。又按宋儒有二統躰大極各具大極之說一。仁齋所謂氣中之條理。即各具大極也。字義云。中庸序曰。愈近ㇾ理而大亂ㇾ眞。學者狃二聞其說一。皆以謂吾儒與二佛者一異處。唯在二用上一。而至二其理之躰一。則本甚相近。可ㇾ謂二亂道之甚一也。夫有二斯本一。則必有二斯末一。有二斯末一。則必不ㇾ可ㇾ無二其本一。故儒之與佛。非徒於二其用處一相反。其躰之相異。猶二水火黑白之相反一。生死人鬼之相隔一。邈乎不ㇾ可二相入一。若謂二愈近一ㇾ理。則所謂同浴而笑二人之裸躰一者。而儒之與佛何相反之有。

辨曰。佛氏之道。顚倒迷謬不ㇾ得二其當一。遂至下滅二天理一絕上二人倫一。是吾儒之所二以深惡而痛一ㇾ斥之一也。然至二其言一。往往有下與二吾儒一相似者上。非如二水火黑白之相反一也。吾儒曰。仁恕治二天下一。佛氏亦曰。慈悲度二衆生一。吾儒曰。知ㇾ性。佛氏亦曰。見ㇾ性。如ㇾ此之類不二一而足一。但吾儒以ㇾ理爲ㇾ主。故其所ㇾ謂仁恕治二天下一者。必有二其具一。如二禮樂刑政一是也。必有二其序一。如二親ㇾ親而仁ㇾ民。仁ㇾ民而愛ㇾ物一是也。若夫佛氏以二空爲一ㇾ旨。故其所ㇾ謂慈悲度二衆生一者。固無二禮樂刑政之具一。而其施之也亦多倒行。甚至下捨二父母妻子一以ㇾ身飼中餓虎上。至二於知性見性一亦然。吾儒所ㇾ謂知ㇾ性。知二天理之所一ㇾ以然也。佛氏所ㇾ謂見ㇾ性。夫大陽之見。鏡中之花。此其所ㇾ以與二吾儒一相反一者也。然曰二仁恕一。曰二慈悲一。曰二知性一。曰二見性一。徒聞二其言一而不ㇾ察二其實一。則唯見二其同一。而未ㇾ見二其異一。豈非二愈近ㇾ理而愈亂ㇾ眞者一乎。今仁齋以二同浴而笑一二人裸躰一。誹譏之。

何其誣之甚也。

字義云。大凡躰用之說。本起於近世。聖人之書無之。唐清凉國師華嚴經疏曰。躰用一源。顯微無間。從伊川用此二句入于易傳序中。儒者視以爲至珍至寶。而不知其說本自禪學來。夫佛者以寂滅爲我眞躰。而不能悉滅人事。故說眞諦說假諦。自不能不立躰用之說。殊不知一陰一陽。天道之全躰。仁義相行。人道之全躰。外此無所謂躰。亦無所謂用。不可以躰用說聖人之學。如此。若立躰用。則理爲躰。事爲用。躰本而用末。躰重而用輕。近思錄論道躰存養諸卷。都爲學問之本根。而論孟等書。反爲無緊要之書。主靜無欲等說。獨爲其躰。孝弟忠信。總爲之用。其害道特甚。

辨曰。物之有躰用。猶其有前後內外左右。天理之自然而不可偏廢者也。故宋儒特表出之。以示學者而已。蓋天下之物皆有躰用。水躰也。潤用也。火躰也。燒用也。筆躰也。寫字用也。硯躰也。磨墨用也。手足躰也。執持運奔用也。仁義躰也。孝弟用也。喜怒哀樂之未發躰也。其既發用也。凡如此之類。莫往而非躰用一也。故聖人之書。未言躰用。而躰用之理。旣寓其中矣。豈可以其未言而遂廢之乎。且夫聖人之學。本末兼修。躰用幷重。此正我道之所以與異端異也。故程朱說躰用。未嘗重躰而輕用。非如釋氏眞諦假諦之說一也。躰用一源。顯微無間。固出於佛書。然程子只借此以贊道躰之妙耳。未始與禪說同其旨也。凡程朱之引佛語類皆然。非獨此二句而已。仁齋未之考耳。

字義云。自漢唐諸儒。至於宋濂溪先生。皆以仁義禮智爲德。而未嘗有異議。至伊川。始以仁義禮智爲性之名。而以性爲理。自此而學者皆以仁義禮智爲理爲性。而徒理會其義。不復用力於仁義禮智之德。至於其功夫受用。則別立持敬主靜致良知等條目。而不復徇孔氏之法。

辨曰。韓退之原性篇曰。其所以爲性者五。曰仁。曰禮。曰信。曰義。曰智。是唐時旣有以仁義禮智爲性者矣。夫仁義禮智之爲美德而當用力。人誰不知。但至其功夫受用。學者往往惑於下手。故古來聖賢諄諄切切煩其心志。勞其口舌。累言複語。告之以其所以修仁義禮智之法也。程朱之立持敬主靜等說亦然。豈外仁義而別爲異論者哉。果如仁齋之說。則孔孟之曰忠曰恕曰求放心曰擴四端之類。彼皆非歟。又按程朱持敬之說。與孟子求放心之說相爲表裏。蓋求放心者。求心之放於外者也。持敬者。存心之主於內者也。其內外相持。動靜相助。以爲涵養省察之功。是其發前賢之所未發。孟子比肩矣。仁齋何以排之之深也。

字義云。或曰。伊川何以謂仁義禮智非由外鑠我也。我固有之也。及仁義禮智根於心之語。以爲仁義禮智是性。而不再推到孟子之意所在。殊不知其所謂固有云者。固與謂之性自不同。蓋孟子之意以爲人必有惻隱羞惡辭讓是非之心。是四者人之性而善者也。而仁義禮智天下之德。而善之至極者也。苟以性之善而行天下之德焉。則其易也猶以地種樹。以薪燃火。自無所窒礙。故擴充惻隱羞惡辭讓是非之心。則能成仁義禮智之德。而雖四海之廣。自有易

保焉者矣。蓋人之性不善。則欲成仁義禮智之德而不得。唯其善。故得能成仁義禮智之德。故謂仁義即吾性可也。謂吾性即仁義亦可也。但以仁義爲性中之名。則不可也。所謂固有者意蓋如此。又曰。其所謂根於心者。本對覇而言云云。

辨曰。凡曰固有者。謂其自有而非從外獲焉者也。今曰以性之善行仁義禮智之德以成之。則仁義禮智是從外獲焉者。而非其自有也。如器物焉。素吾家之所無。今出價以購之。然後有之。乃謂之固有可乎。且所謂鑠以火鎔金之名也。蓋金必以火鎔之。然後可以成器。孟子之意言仁義禮智我之所固有。非必須矯揉製造之功。然後成之。如夫鎔金以成器也。孟子又有杞柳桮棬之說。以折告子之性說。亦與之同意。仁齋又云。所謂根於心者。本對覇而言。按仁義禮智根於心章。始終只言君子性分所存。未嘗片言及王覇之事。今曰根於心者。對覇而言。鶻突牽強。使人驚愕。蓋仁齋已以仁義禮智爲非性。而此章及非鑠我章。皆有大碍於其說。故爲如此硬說。可笑之甚。

字義云。明鏡止水四字。本出於莊子。於聖人之書。本無此語。亦無此理。先儒以此喩聖人之心。吾觀其益天淵矣。

辨曰。釋老程朱共有明鏡止水之喩。皆言其虛靜無欲也。然釋老之虛靜無欲。要去人欲而併滅天理。程朱之虛靜無欲。要去人欲而因全天理。其言同而其意則異矣。今仁齋混而一之。可謂囫圇吞盡也。

字義云。後儒以孔子之言爲論氣質之性。孟子之言爲論本然之性。信如其言。則是非孔子不知有本然之性。孟子不知有氣質之性者乎。非唯使一性而有二名。且使孔孟同一血脈之學。殆若涇渭之相合。薰蕕之相混。一清一濁。不可適從。其言支離決裂。殆不相入若此。

辨曰。大學云。小人閑居爲不善。見君子。厭然揜其不善而著其善。夫一人之身。自爲不善。氣質之性也。其自揜之。本然之性也。又人有生而好惡者。有生而好惡者。其好善者本然之性也。其好惡者氣質之性也。因是言之。豈非一性而有二哉。孔孟論性。或論氣質。或論本然。非不知之。各隨其處而爲之說耳。夫聖賢之言。就事因時不得已而後發。故先聖先賢未嘗言。而後聖後賢乃言之甚多。且如孔子。唯論仁。而孟子兼論義。孔子唯言心。而孟子兼言氣。是也。豈如仁齋之說乎。又按程朱氣質本然之說。甚有功於學者。孟子言性善。固發前聖之所未發。然未說到氣質本然上。故其說不備。已與孔子性相近之言不甚合。而當時與告子論性。告子辭雖屈。而心未服也。何則世亦有性不善者。今以程朱氣質本然之說推之。則其義炳然矣。程子曰。論性不論氣不備。論氣不論性不明。二之則不是。至哉言也。

字義云。孟子曰。物之不齊。物之情也。言或大或小。或緩或急。物各有所好。故謂之情也。易所謂萬物之情。又是此意。孟子又曰。人見其禽獸也。而以爲未嘗有才焉者。是豈人之情也哉。言爲人所榮。天下之所同好。爲人所辱。天下之所同惡。人指我以爲禽獸。非人之所欲。故

曰。是豈人之情也哉。

辨曰。字書曰。情者性之發也。蓋性之自中發而不容僞者。故又對僞而訓實。如所謂以情告。及無情者不得盡其辭。皆實字之意也。今曰大小緩急物各有所好。故謂之情。孟子此章辨市價不貳之非。因以麻縷絲絮長短爲言。所謂物即指麻縷絲絮。果如仁齋之說。則麻縷絲絮亦有所好乎。不通之甚。又是豈人之情也哉。仁齋以爲人指我爲禽獸。尤與孟子文意齟齬。

字義云。古人以喜怒哀樂愛惡欲爲七情。蓋言情之品有此七者。謂喜怒哀樂愛惡欲即爲情。則不可也。

辨曰。喜怒哀樂愛惡欲。即七情也。今仁齋曰。情之品有此七者。謂喜怒哀樂愛惡欲爲情則不可也。果如仁齋之說。則當曰七品。不當曰七情。蓋仁齋已指四端爲性。不可以此七者爲情。故有此說耳。

字義云。意字亦是不必用功夫字。按語孟中庸皆不說於意上用功夫。故孔子說主忠信。中庸說誠身。而孟子專說存心養性。皆未嘗有誠意之說。且觀子絕四毋之意。則不於意上用功夫。益彰彰矣。

辨曰。曰性。曰情。曰志。曰意。所指不同。其名亦異。然原其本。則不出於一心字矣。故苟欲存其心。則性情志意皆不得舍而不用工夫。況意者心之所發。於心爲最切乎。蓋心之未發也。其

爲善爲惡。未可知也。一發而爲意。則善惡之機決矣。故及其發。從而誠之。此乃聖學之眞訣。存心之要義。學者尤所當用力者也。仁齋何以言不必用工夫也。若夫毋意之意。與此自異。蓋古人用字。固有隨處殊義。宜即其文勢而觀之。且如性字。養性養性之善也。忍性忍性之欲也。是一性而兩義。豈可混而解之。

字義云。忠自是忠。信自是信。故有專言忠者。有專言信者。而夫子之四教。以文行忠信並言。則忠與信。本是兩事。益明矣。而先儒以謂忠與信。若形影然。又曰。忠信只是一事。而相爲內外本末終始。蓋未深考焉耳。

辨曰。忠者盡己。信者以實。忠信固是兩事。然內不盡己。則外何能信。故曰如形影然。夫唯如形影然。故曰相爲內外本末終始。今夫忠於其君者。必事之以實。信於其友者。必交之盡己。未有不事之以實。而能忠於其君者也。未有不交之盡己。而能信於其友者也。故忠之與信。分而言之則二。合而言之則一。先儒之說未爲不考。

字義云。誠實也。無一毫虛假。無一毫僞飾。

凡文字必有反對。得其對則意義自明矣。誠字與僞對。不若以眞實無僞解之之最爲省力。又曰。誠之者。擇當理與否。而取其當理者固執之之謂。

辨曰。心雖無僞飾。然其所爲不當於理。未足以爲誠也。即仁齋亦以當理與否論誠之。則朱子

眞實無妄之訓。信爲切當矣。

字義云。大學或問曰。敬之一字。聖學之所以成始而成終者。朱子又曰。敬者一心之主宰。萬事之根本。愚謂不然。聖門之學。以仁義爲宗。而忠信爲主。孔子曰。一言而可以終身行之者。其恕乎。曾子曰。夫子之道。忠恕而已矣。未嘗以敬爲聖學之成始終而萬事之根本。設若果如宋儒之所說。則唯聖人言敬諸章。乃爲學問緊要之功。而其他聖人千言萬語。擧皆爲無用之長物。豈可乎哉。

辨曰。人之百行終始本末。未嘗有不由於心者。而敬者存心之法也。故朱子曰。敬之一字。聖學之所以成始而成終。又曰。敬者一心之主宰。萬事之根本。朱子之意。固非謂守一敬字。則其他百行皆可舍而不修也。必如仁齋之說。則字義誠字條下。仁齋有言。誠者聖學之頭腦。學者之標的。至矣大矣。是唯聖人言誠諸章。爲學者之緊要。而其他聖人千言萬語。擧皆爲無用之長物也。仁齋好爲異論。欲以陵駕宋儒。而其說破綻不能自完如此。

總辨

仁齋之學紕謬百出。然論其要。不出三條而已矣。論天道。則擧流行而廢大極。語問學。則貴擴充而斥復初。言經義。則主論孟而擯大學。擧流行而廢大極。故道德性命支離無統。貴擴充而斥復初。故罵持敬以爲佛老之法。主論孟而擯大學。故入德工夫無次第。是其紕謬所由。而三條之中。

225622

廢大極之見。又其病根也。故論仁齋之學術者。苟察於此。以究其歸趣。則其他疵瑕。不必絲計而毛擧也。今之所辨。亦唯其太甚者已。讀者領會焉。

先生斷然云宋儒之教與聖人不同。辨析其非既詳矣。非不得其解也。以大疑名之者。謙辭也。此先生之謙恭。所以異於春臺之无忌憚也。

春臺先生讀損軒先生大疑錄

筑前貝原損軒先生。博學洽聞。海內無比。生平所著書。已刊行者凡數十部。皆有益於斯世。其未刊行者。猶有數十部云。蓋先生少學程朱之道。以篤實之性。竭力專精。至老弗怠。其所造寧淺乎哉。及晚年。忽疑二氏之言。有異於先聖之道。反復思之。不得其解。卒成大疑。所錄且二萬言。分爲二卷。名曰大疑錄。先生謙恭。未敢示人。由美子善少逮事先生。幸得見之。因寫而藏之。及子善之再遊東都也。予與之有舊。子善嘗見我徂來先生。而問古文辭焉。徂來亦善視之。今徂來亡矣。子善視吾二三兄弟。有加於往日。則猶以徂來故也。於是予就子善。而求一見大疑錄。三請乃見許予。而後得借而讀之。始知損軒先生信程朱之道如斯其篤。而疑之如斯其大。先生所疑者。自周茂叔著太極圖說。以太極本無極。主靜立人極。二程朱氏繼作。盛唱理氣心性之說。其言曰。性即理也。曰。有天地之性。有氣質之性。曰。理氣二物。曰。身有死生。性無死生。曰。一陰一陽非道。所以一陰一陽者是道。曰。明德虛靈不昧。曰。天理冲漠無朕。且敎人靜坐。此皆老佛之道。非我聖人之道也。又茂叔所云。無極而大極。伊川所謂體用一源。顯微無間者。並釋氏之言。二子取之以發明易道。非當行也。諸如此類。皆古聖人所弗言。而宋儒言之。此損軒所以

大疑」之也。夫損軒以「宋儒之徒」而能疑「宋儒」。誠奇士也。然特疑「之而已。未「能排」之。且其所「論辨」。猶在「宋儒範圍之中」。推「尊孟子」。以配「孔子」如「故。則未「能及「洙泗之流」也。夫仲尼之道。至「子思」而小差。至「孟軻」而大差。所「以差」者。與「楊墨之徒」爭也。軻之道「性善」。其實亦苟且敎導之言耳。軻急於敎導」。不「自覺「其言之違「道」也。宋儒又不「知「軻之違「道」。以爲「軻實得「孔氏之傳」。遂以「其書」配「論語」。迨「其解「性善之言」也。所「以謬」也。夫仲尼敎「人。不「以「心性理氣」。不「能「不「置「氣質」而別說「本然之性」。所「以謬」也。夫仲尼敎「人。不「以「心性理氣」。心性理氣之談。胚「胎於子思」。崩「芽於孟子」。而後長「大於宋儒」。則與「佛老」同「其歸」。何足「怪哉。今損軒雖「能疑「宋儒」。而未「能「疑「孟子」。則其所「疑「宋儒」者。何以釋哉。易自有「易之道」。不「可「以「常道」論「之」。宋儒未「始知「之」。損軒亦未「之有「見」。則其所「疑「宋儒」者。何以釋哉。佛之與「老」。其道相反。猶「氷炭不「相容也。其有「相似者」。特其末耳。宋儒之道。做「佛者十八九。做「老者十一二。今損軒疑「宋儒」。概以爲「老佛之遺意」。亦未「深考「也。夫六經者仲尼所「定」。昭昭乎如「日月之在「天」。孔子之言」。如「規矩準繩」。是故凡天下之道。照「之以「六經」。臨「之以「孔子之言」。則其是非邪正。可「立而定」。自「子思孟子」。不「能「逃「其過差之罪」。況其他諸子乎。而況後世諸儒乎。然諸子毀「仲尼者」。其非易「見」。宋儒似「而非者」。其非難「見」。自「非「善讀「孔氏之書」。而深信「仲尼之言」者。未「有「能排「宋儒「者也。雖「損軒「猶坐「是爾」。悲夫。雖然」。損軒之疑「宋儒」。由「博覽」故也。何少「其晩「哉。若天假「之以「年」。必有「所「發明「焉。豈徒疑「之而已哉。近世朱氏學者流謂。仲晦賢「於仲尼」。非「朱氏之書弗「讀。所「讀不「過「數部書」。則何從生「疑哉。若

排「之一字。心術自見。

徂徠之餘唾。所謂無忌憚者。

宋儒之說固多誤。然其志忠厚。少誤人。矣。徂徠之餘孽。雖有所得。亦有所失。且其誤大。又更大矣。雖爲後學仲尼之又雪霧。而沾沾自喜。而所謂自生夢死。後人不安以是哉。

讀大疑錄終

此書往往有訛誤衍脫。其分明無疑者。今直以朱筆竄削補正。

大疑錄卷之上

筑前 貝原篤信 著
仙臺 大野通明 校

聖人之道。上古雖ㇾ有ニ繼ㇾ天立ㇾ極之人ㅣ。如ニ其教法ㅣ未ㇾ有ニ之聞ㅣ。至ニ唐虞ニ而有ニ精一執ㇾ中之傳。敬敷ニ五教ㅣ之命ㅣ。是可ㇾ爲ニ立ㇾ教之權輿ㅣ。而後歷ニ夏商周三代ㅣ。而其法漸(而)備。然未ㇾ得ニ其詳明ㅣ。至ニ孔子ニ而大明。孔子之道。孟子得ニ其正宗ㅣ。發ニ揮之ニ而爲ㇾ詳。蓋天地之氣運。自ニ萬古ニ以降。逐ㇾ時漸變。故人文之開。亦隨焉而不ㇾ息。雖ニ唐虞三代之聖世ㅣ。然人文未ㇾ能ニ一時開盡ㅣ。必有ㇾ待ニ後世ㅣ。是自然之理。然則自ㇾ今而後至ニ百世ㅣ。亦當ニ逐ㇾ時漸開而不ㇾ息。孟子之後。歷ニ漢唐ㅣ。斯道之傳。將ㇾ絶如ㇾ綫。至ニ宋諸君子輩出繼ㇾ之ㅣ。而復有ㇾ可ㇾ觀者ニ焉。如ニ二程朱子ㅣ。傳註解說之功。可ㇾ謂大矣。蓋孟子之後。雖ニ豪傑之士多ニ矣。然知ㇾ道立ㇾ教之人。但當ㇾ以ニ二程ㇾ爲ㇾ最。其次則無ㇾ如ニ朱子ㅣ。雖ㇾ然。其德未ㇾ及ニ聖人ㅣ。其學亦恐未ㇾ至ニ聖處ㅣ。然則後學之人。於ニ二程及朱子ㅣ。固可ㇾ貴也。可ㇾ信也。然如ニ其言論ㅣ。恐不ㇾ與ニ孔孟ㇾ合ㇾ者亦多矣。不ㇾ可ニ比並ㅣ也。學者於ニ其同異得失ㅣ。虛ニ其心ㅣ。平ニ其氣ㅣ。而精ニ慮之ㅣ。詳ニ擇之ㅣ。而信ニ其可ㇾ信ㅣ。疑ニ其可ㇾ疑ㅣ。則可也。古人曰。學者覺也。覺悟所ニ不ㇾ知也ㅣ。故爲ㇾ學之道。在ニ解ㇾ疑開ニ迷ㅣ。是以學以ニ能疑ㇾ爲ㇾ明ㅣ。以ニ不ㇾ能ㇾ疑爲ニ不明ㅣ。故朱子曰。大疑則可ニ大進ㅣ。小疑則可ニ小進ㅣ。不ㇾ疑則不ㇾ進。然疑有ニ邪正ㅣ。精

思不ㇾ得ㇾ已而疑者正也。安疑者鑿也。不ㇾ可ㇾ爲ㇾ正。

○宋儒之說。以二無極一爲二大極之本一。以ㇾ無爲二有之本一。以二理氣一分之而爲二一物一。以二陰陽一爲ㇾ非ㇾ道。且以二陰陽一爲二形而下之器一。分二別天地之性與一氣質之性一以爲二二一。以二性與一ㇾ理爲ㇾ無二死生一。是皆佛老之遺意。與二吾儒先聖之說一異矣。學者不ㇾ可ㇾ不二精詳明辨一也。且論二守ㇾ心法一。曰主靜曰靜坐。曰默坐澄ㇾ心。體二貼天理一。以二靜坐一爲二平生守ㇾ心之工夫一。是皆偏二于靜一。而不ㇾ能ㇾ時二動靜一。即是禪寂習靜之術。非二儒者之所一ㇾ宜ㇾ言也。且論二心體一爲二虛靈不昧一。論二天理一爲二冲漠無朕一。此佛老之遺意。與二孔孟之所一ㇾ教異矣。凡宋儒之說。固是祖二述於孔孟一。又有下不ㇾ本二乎孔孟一而出二於佛老一者上。學者不ㇾ可ㇾ不二揀擇去取一。夫宋儒之排二斥(於)佛老一極謹嚴。而何以二外道一爲二祖述一如ㇾ此邪。是皆愚之所二以疑惑而不一ㇾ能ㇾ解也。

○秦漢以來之載籍。我不ㇾ知二若干部一。其中好書固多。不ㇾ可二枚舉一。然而義理純正而不ㇾ雜。論說廣博而明備。學者之得ㇾ益無ㇾ窮者。無ㇾ如二朱子之書一。故天下之理。於二其中一求ㇾ之。而不ㇾ得者鮮矣。譬如二入二廣肆之中一。而探二求有用之物一。無二所ㇾ求而不一ㇾ在二其中一。吾曹幸生二于朱子之後一。而得二窺其書一。可ㇾ謂有二無窮之幸一。又罔極之恩也。故吾亦敬ㇾ之如二神明一。信ㇾ之如二蓍龜一。

○孔子之後。傳二聖人之教一。而學到二至處一者。特孟子一人而已矣。蓋由ㇾ有二三幸一也。一曰。以二其命世之才一也。二曰。其生也近二聖人之世一也。三曰。其所ㇾ處近二聖人之居一也。孟子之後。周程張及司馬。並是賢哲。有ㇾ功乎斯道一之人。而程朱之所ㇾ傳。最得二其正一。其學術。亦比二之諸儒一。特廣大精詳。可ㇾ爲二後

學之模範一。故孟子以後。程朱之功甚高矣。而朱子之功最大矣。然則孔孟之後。唯此二子。誠可二以爲一知ㇾ道之人一。學者之所ㇾ當ㇾ爲二宗師一也。

○陸放翁跋二朱子易註一云。易道廣大。非二一人所一ㇾ能ㇾ盡。固守二一家之說一。未ㇾ爲ㇾ得也。放翁此言。可ㇾ謂得二古人爲一ㇾ學之意一也。

○爲ㇾ學者。惟宜下不二敢自信一而篤中信其師上。是爲ㇾ善也。然而人非二聖人一。雖二賢者一。不ㇾ能ㇾ無二過不及之差偏辟之誤一。譬二諸日月之明一。不ㇾ能ㇾ無二浮雲之蔽一。明月之珠。不ㇾ能ㇾ無二瑕纇一。是以雖二賢者一。其論說廣博之中。必有下駁不ㇾ能二盡粹美一者上。然則不ㇾ可ㇾ無ㇾ取二捨乎其間一。而信二其可一信者一。疑二其可一疑者一。乃可二以爲一擇ㇾ善也。擇ㇾ善而後固執ㇾ之而可也。苟不ㇾ擇ㇾ善而欲二固執一。恐不ㇾ免二蔽塞偏辟一而已。且天地之間。只理最廣大無ㇾ窮。雖二大賢一。非二一人所一ㇾ可ㇾ能知能言一。故古人雖二街談巷議一亦取焉。狂夫之言復擇焉。蒭蕘亦詢焉者。欲二廣聞多觀而止二至善之地一也。是以雖二舜之大知一。好二問察邇言一。舍二己從一ㇾ人。且詢二于四岳一。闢二四門一。明二四目一。達二四聰一。是聖人至公無我之心。亦恐有ㇾ所二壅塞於自己之聰明一也。淮南子曰。同不ㇾ可二以相成一。必待ㇾ異而後成。後漢劉梁曰。夫事有二違而得一ㇾ道者一。有二順而失一ㇾ義者一。是君子之所ㇾ以好二讜言一也。然此與二道不一同不二相爲謀一。其旨大異。吾所ㇾ謂異者。謂二殊塗而同歸一也。非ㇾ如二異學不一ㇾ同歸一也。

○予自二幼年一誦二朱子之書一。尊二其道一。師二其法一。服二其教一。然於二其所一ㇾ不ㇾ解。則致二疑思一而審擇。未ㇾ嘗阿一ㇾ所ㇾ好。是欲ㇾ俟二他日之開明一耳。

此下云。元暐尊程氏至矣。然爲其說亦已大異。讀者當自知之。

○聖人作六經。夫聖人之言。爲萬世之模範。可信而不可疑。就中易書是精微之極。六經之蘊奧。萬世之龜鑑。是不信也。孰可信也。

○一陰一陽謂之道。兩一字是一氣之動靜。一爲陰。一爲陽。循環無窮之謂。陰陽之流行。往來迭運。而不息之妙也。竊謂聖人以一字加于陰陽之上。是必有深意。不加所以二字。而意自足矣。夫聖人之言。萬世之信也。不可疑。況易中此一句。天下義理之大本。不可有一字欠闕。而加之以所以二字乎。恐是僭率之事。所謂畫蛇添足。

○道是陰陽之流行。純正而有條理之謂。是陰陽之本然不紛亂者。理是氣之理。理氣不可分而爲二物。且無先后。無離合。故愚以謂理氣決是一物。朱子以理氣爲二物。是所以吾昏愚迷而未能信服也。

○聖人於易再言以陰陽爲道。嗚呼聖人之一言。可爲萬世之信。不可疑也。況丁寧告敎乎。

○朱子曰。身有死生。而性無死生。李退溪自省錄亦曰。氣有生死。理無生死。夫朱子之賢。李氏之學。其所說不容有差。然而予之昏愚。於此等說。未能通曉。故於此姑述臆說。記所疑如左。以俟識者之開示。是亦欲就有道而正之意耳。竊謂人身氣聚則生焉。氣散則死焉。性者人所受天之生理也。理者氣之理也。非有二也。苟身死。則生之理亦何處在耶。蓋人身以氣爲本。理即氣之理。故生則此理在矣。死則此理亦亡矣。故無身死而性存之理。有此身則有此性。無此身則此性亦隨而

以常變論性善。猶未達於孟子之旨一間。讀者宜致思焉。

亡。無所寄寓。譬如水火。有寒熱潤燥之性。而水火既竭熄。則其寒熱潤燥之性。亦隨而亡。倘何可存耶。

○性即理者。非性字之正解也。中庸天命之謂性。言天之所命。便是人之所受之謂性。是爲正解。性字不用他解而足矣。孟子曰。形色者天性也。亦是以容貌所稟受言性也。孔子子思孟子之說性也。其意相通而一也。俱以所稟受而言。稟受之外。更無性。孟子說性善者。指稟受之本然而言之。理一之謂也。或曰。如桀紂爲至惡。復有弑父與君者。如子越椒。生則有豺狼之聲。苟以其氣質之性言之。則不可槩乎爲善。何可爲相近乎。予曰。如桀紂子越椒隋煬帝之輩。固是性之惡者。然天下之理。有常有變。善者。是性之常也。惡者。是性之變也。其變者極少。不可爲常。是何有害于以性爲善乎。蓋如桀紂之性惡者。億兆之中一人而已。不可爲常也。今夫人之於飲食也。好甘惡苦者。人之常性也。然千萬人之中。有惡甘而好苦者。是不可爲人之常。人生之有惡者亦如此。然則天下古今之人。雖有賢愚不同。然爲性相近者。同是可爲善也。

○羅整庵立理一分殊說。是簡要之言。不要分析而發明性字。愚謂性者一而已矣。不可分天地氣質之性爲二。其理一者。言性之本然其理一也。同是一也。性之雜糅。其分殊也。人皆可以爲堯舜。其分殊者。稟二氣之生質各殊也。故曰。性相近。習相遠。是以上智與下愚不移。氣質者性之本(義。)然以所受天而言之。天地之性。亦是所稟受之本然。非有二性。然立二名者。恐嫌有二性。不如

以理一分殊說之。易簡而無疑惑也。蓋本然者。則是氣質之本然也。氣質亦是天之所命。非有二性。譬諸水。其流動盈溢且滋潤者。水之質也。其清者。水之本然也。其質與其清者。非有二也。

○古今天下唯有一夫子。若伯夷柳下惠。雖有高世之節行。清和之聖德。不能無隘與不恭之病。所以不及夫子也。況不及夷惠者乎。如宋儒之於孔子亦然。雖稱有繼往開來之功。而不能無偏僻蔽固之病。同異得失之差。故其說間有與聖言睽違者。亦(必當)然之理也。故程朱雖賢哲。豈可得與孔子同乎。然則於其說也。學者亦當知所取捨也。

○人非聖人。雖賢者多有偏曲。故其學識性行。亦必有通有塞。有所長。有所短。其所通必開明。其所塞必固滯。故讀書之法。雖賢者之言。復當要有揀擇去取。苟偏信而不疑。恐不免有蔽固昏迷之失。然則學者之於先儒也。當信而信。當疑而疑。則可也。苟於其取舍也。平正而無偏僻。則可謂善學也。後世之學者。往往阿所好。偏陋主張之病多矣。

○竊謂太極陰陽道器理氣心性之說。萬古一源。千聖一道。五經四書。無不同條共貫。蓋古今互相祖述而言者。所以無異同也。孟子沒後。歷漢唐至于近世。舍古學而偏言新學者。往往不能無與先王乖戾。雖豪傑之士。(亦)○其立說不免有偏異。學者之所宜精擇而取舍也。蓋有言聖人之所未言而當道者。是聖人所說之餘意。而上下同流者也。其有與聖人所言條貫不同者。是可爲異說。然則雖先賢之言。苟有與聖人之說不同者。不可不擇而審之。

○明季之儒士。誹議宋儒之說者。往往夸己自高。賤程朱如奴隸。或以爲異學。爲非聖人之正派。自以爲高出乎其上。可謂(方)不知其量也。譬諸諫人者。亦須合蓄有餘意。苟罵詈誹謗。訐以爲直。以小過爲大過。失禮甚矣。雖言粗有理。然聞諫者恐怒而不納。却爲拂戾而不悛。此不知諫人之道也。後儒之議宋儒。亦猶是。不知所以言之者艱也。

○與人議論學術之是非。大率與諫人一般。卒爾誹議者。欲信己而屈人。是小人逞勝心。而自是夸人。輕薄之事。非君子忠厚之道。假令其所說粗有理。然有爭氣則聞者不從矣。善導者。以誠意爲主。辭氣從容不迫。和平婉曲。而語明意暢。故聞者信從。是忠告善道也。凡與人議異同者。不要勵氣抗論。須氣象從容。言語婉曲。使誠有餘而言不足。則能動人。蓋(人)言不直則道不見。雖然。不欲強誹謗其過失。只須要含蓄而有餘味。只欲理之直而已。不可欲我說之勝人。而爭以口舌也。苟吾所言輕卒。而好勝欲上人。則不能使人信服。却爲人所忿戾。孔子曰。不可與言而與之言。失言。徐偉長曰。君子非其人則弗與之言。國語曰。惟善人能爲盡言。然則只善人而可與言。苟非善人而言。是失言也。

○聖人者。百世之師也。孟子有功乎聖學者。緜循夫子之道而不違也。宋儒之說。(苟)本乎孔孟之說。而源流相同。統紀不異。同條共貫者。是誠發明其道也。所當依據也。(苟)不本孔孟。而無

統紀。其源流不同。而別立異論者。亦往往有之。雖賢者之言。不可(曲)從矣。

○權然後知輕重。度然後知長短。苟欲知學術之異同得失者。亦當如此。蓋聖人與賢者。自有輕重。有長短。雖先儒之言。(苟)有不同條共貫。則不可槩乎(枉)從矣。須要胸中有權度。而(後)知其輕重長短也。然則宋儒雖賢哲。不可與聖人同班。恐不免有出入。若夫自宋季以降。至元明曲學之士。往往有(阿諛于)朱子。而與聖人乖戾者。可謂無權度也。凡後儒之(阿諛于)朱子而爲雷同者。習而爲風何耶。此豈可爲善學朱子者乎。

○如宋季以後學者。尊信程朱者固好。然蔽固者。不知有聖賢之別。故同異得失。不能取捨乎其間。以宋儒之說。與聖人之言(爲)一樣看。雖背戾于義理。不爲患。只恐不合于朱子。是以委曲遷就。而雷同從諛者。未免阿所好耳。是後世之學者。習而爲俗也。

○宋季學者。往往拘其所聞。私其所好。不本乎孔孟之正宗。別立門戶。不免於一副當習熟纏繞。可謂所蔽固之深也。是以其說與孔孟所立之教。往往齟齬者多矣。學者無主張於彼說。而虛心思之。則知鄙言之不僭妄。然而如曲士束教之輩。其蔽塞深矣。苟不能洗去其舊見。而來新意。則此弊不能改。而終身必昏迷於此。

○君子之道。本自易簡。易則易知。簡則易從。易知則由不艱深也。易從則宜行而有功。是以從者多也。孟子曰。夫道若大路然。豈難知哉。人病不求耳。又曰。徐行後長者。謂之弟。夫徐行

者。豈人所不能哉。所不爲也。蓋孔孟之教。下學之工夫。本自易簡。而易知易行如此。如其上達。則下學之功至。而後所自到之效而已。此與佛氏之學務好高遠。而欲一超直入者異矣。後儒之爲說。亦往往艱深高遠。故爲難知難行之言。與孔孟之本教異矣。

○孔門設教也。以孝弟忠信爲本。以學文力行爲學。平易如大路然。雖愚者易知易行。漸而眞。積力久而極其趣。則致高大而極精微。是下學而上達也。宋儒之學。以大極無極爲致知之先務。以靜坐澄心爲力行之先務。以支離破碎爲文學之先務。是乃高遠艱深。細末無用之事。以難知難行無用不急者爲先。與聖門之所立教。以孝弟愛敬文行忠信爲先務者異矣。故其所爲教。高深艱險。所以爲難學難行而不易入也。後世學焉者。厭苦之而難進者。由此也。

○凡此等之疑議。可與聰敏通明博達平正之人語。不可與蔽固昏塞曲學偏僻之士論。所謂不可與言而與之言者失言也。

○凡博覽古人之書。其妄信者爲蔽也。因不明妄疑者爲僭率狂妄。只信可信疑可疑。是通明之士之所爲。乃爲學良法。有識見者如此。曲學蔽昧者之所不能也。蓋人非聖人。誰無過。故雖先賢。其學術有與孔孟不同條共貫者。而其言往往有與聖言相戾者。不可不審擇也。

○論語孔門之所立教。萬世之標準。古今之法則也。不可加損。如宋季世諸儒之說。其分析過于詳審。其議論過于高遠。蓋其所分析甚詳細。然愈詳細則愈支離。不能渾融而會通。是以爲紛擾而却

蔽昧。與孔門所教異矣。蓋聖人之教。自有大道而平易。非崎嶇小蹊也。苟分析大過。則迷曲蹊邪途。而不能造大道。此由與孔門所教不同也。

○宋儒之說。往往與聖人不同。易以一陰一陽爲道。立天之道。曰陰與陽。是可見陰陽之流行。正而不變者。即是道也。非以變亂者爲道也。故聖人未嘗以理氣爲二物。然朱子以爲理氣決是二物。孔子說性相近。子思曰。天命之謂性。孟子曰。形色天性也。又曰。性善。此言稟受之本然。同受天者。本無二有二性。孔子子思孟子。其立言無不同。蓋性相近者。言性善之中。其稟受雖有高下厚薄賢愚不同。其所稟皆有惻隱羞惡辭讓是非之心。是以人之生也。秉彝之性皆有之。故曰。性善。是以天下古今之性不相遠。故曰。性相近。蓋天下古今之人。只有一性。不要分析於天地之性與氣質之性。其天地之性。亦豈非氣質之稟乎。苟非氣質。則何處稟受天性乎。氣質之性。亦豈非所受天地者耶。然則氣質之性。亦是天地之性耳。不可分而爲二。故孔孟未嘗說二性。不分析天地與氣質。而自分明。蓋性者。便人之所受天之名。董子所謂性者生之質者。爲庶幾矣。蓋論性之本源則同善也。是爲一本。論其末流則爲萬殊。然堯舜之性與衆人之性爲不異者。恐非是。何則堯舜自有堯舜之性。衆人自有衆人之性。其所受不同。不可混爲一性。蓋物之不齊者。物之情也。所以有萬殊也。夫性者。受於有生之初者也。天之降命也固是善。其初無有不善。是一本也。然既成之而有性。則其初受氣時。自有清濁厚薄之不齊。既稟受而在人身。則各一定而成性。故聖愚異也。孔子所謂性相近者。是亦不外矣。以本源之不論不同。末流之不論不同。謂人心之與犬牛孟子以四端說性善。豈論性之本源所謂性善者。

之初自不同。宋儒示人。欲其詳審。故以理氣爲二物。且分天地之性與氣質之性爲說。所以分析大過也。只孔孟之言性。不分析而其理自明。孔子謂相近者。性善者之相近也。故孔孟之說性。不可爲有異。蓋不分析而其理明也。是便所以渾融之勝於分析也。凡後世爲說辭者。與孔孟之源流一相同則可也。苟與孔孟之所說。源流不同。而別爲異。則不可也。夫天地之開物。發微以漸。是氣運之勢。自然之理也。故事固有古人所未言。而後世者。堯舜之所未言。而孔子言之。孔子之所未言。而孟子言之。孔孟之所未言。而宋儒言之者多矣。宋儒之論說。與孔孟源流相同。而發明孔孟之說者。是宋儒之所以有功於聖門也。而其中亦有與孔孟所言源流不同者。以無極說太極。以理氣爲二物。以陰陽爲非道。且以陰陽爲器。爲有天地之性氣質之性。說性善之言曰。性即理也之類。此皆與孔孟之本旨不同。其源流不相貫通者也。學者於宋諸先生。無阿諛偏主之私意。而公平其心而觀之。則庶乎看其有異同矣。

○說經。如訓義之有小異者。無害于道。此猶可也。如宋儒說理氣說無極說道器說性道類。皆是義理之根源。須要與聖言無小異。苟於此處有所齟齬。則雖先正之成說。不可阿諛曲從。須以聖言比較之。而知其異同也。蓋不正則道不著也。

○朱子曰。如云不主一門不私一說。則博而雜矣。篤信竊謂朱子斯言。以吾愚觀之。則不能無疑。何則。苟以聖人爲依據。如七十子之輩。則固當如此而可也。程朱雖賢哲。其純粹至善。無

朱子之言。可譬可學。无定見。以拘一說爲

口實者。損軒之論。可啓發守株之愚蒙。言各有所當。

ㇾ偏無ㇾ黨。恐與ニ聖人ㇾ不ㇾ同。若衆人主ニ其一門一。私ニ其一說一。則恐不ㇾ能ニ廣覽公聽一。而或有ニ固陋寡聞蔽ニ塞於聰明ニ之患一。又恐偏僻之士。不ㇾ免ニ有ニ阿諛曲從爲ㇾ黨。以同ニ伐ㇾ異之私一。是區區之疑惑。所ニ以不ㇾ可ㇾ解也。

○後學固不ㇾ蔑ニ視於昔賢ニ輕ニ議於先輩一。是後學之所ㇾ當ㇾ戒也。（但）雖ニ古人一。未ニ嘗無ニ少過失一。（然）則是ㇾ是非ㇾ非之際。不ㇾ可ㇾ有ニ毫髮假借阿諛之私一也。

○夫初立ㇾ言者。雖ニ賢哲一。或有ニ未ニ詳盡一。如ニ程朱之言一。間有ニ與ニ聖人一異中條貫上者是也。苟自ニ後世一而論ニ前人一。則雖ニ中材一亦可ㇾ能焉。是所ニ以後出者巧一也。然則雖ニ後人所ㇾ議。又有ニ不ㇾ可ニ盡廢ㇾ者上。

○後輩之於ニ先賢一。其高下淺深大小廣狹。誠不ㇾ可ㇾ同ㇾ日而語ニ也。故吾輩之尊ニ信先儒一也。固當ニ厚重一。然先賢之於ニ前聖一。亦豈可ㇾ無ニ高下偏正之同異一邪。然則雖ニ先儒之成說一。又須丙取ニ與聖人之言一不ニ相乖戾者上。而信ニ其可ㇾ信者一。疑ニ其可ㇾ疑者甲一。要在ㇾ審擇之而已矣。

○古來時運之變替。日漸赴ニ繁華一而未ㇾ已。此澆漓之世。所ニ以斲ニ喪其本實一也。古今天下之時勢世態。自不ㇾ能ㇾ不ㇾ如ㇾ此。是以經世之道。爲ㇾ學之術。須ㇾ隨ㇾ時以去ニ其繁衍一。反ニ其本實一爲中要務上。不ㇾ要ㇾ因ニ循于其世運變遷之時俗一爲ㇾ可也。孔子生ニ衰周一。時論以ニ繁文一爲ニ君子一。以ニ質實一爲ニ野人一。孔子欲ㇾ從ニ其先進一者。蓋厭ニ其繁文一。而欲ニ反ニ其質實一也。孔子時尙爲ニ近淳古一。然其世運之變替既如ㇾ此。況後世澆漓之時。益失ニ質實一。而日趨ニ繁華一乎。秦漢以來。時運漸變遷。世道益煩擾。方今世學者之居世。當ニ以質實一爲ニ本。

本邦近時排擊程朱者。滔滔皆是。唯伊藤東涯獨免此弊。今日大田錦城雖議程朱。亦能尊崇程朱。余深取之。

亦且稍稍順ニ時宜一。苟背ニ戻于時宜一者。非ニ居ニ世之道一也。

○宋儒學術。其所ニ發明一。逾ニ于漢唐一也遠矣。然其議論漸傷ニ紛擾一。其訓詁益煩。其註解講說極廣博。逐ニ時枝葉彌繁衍一。支派益分析。至ニ後世一。則汎濫流蕩而忘ニ反。是以本實日斲喪。後儒之於ニ此學一也。不ㇾ能ニ奮發興起而改ニ舊習一者。滔滔皆然焉。故不ㇾ能ニ融會貫通而自得一ㇾ之。雖ニ有名士一。只隨ニ時俗一。而不ㇾ能ニ改ニ舊習一而就ニ本實一。然則後世爲ニ學之道一。須ㇾ要ニ奮起而改ニ舊習一。省繁細而反ニ本實一。遏鑿碎而就中渾融一。蓋不ㇾ可ㇾ無ニ隨ㇾ時制ㇾ宜之道一也。是即聖人從ニ先進一之意。後學之所ㇾ當仰嚮一也。鄙意如ㇾ此。君子以爲ニ奈何一耶。

○程朱之爲ニ賢哲一也。豈止爲ニ其學問見識之高明一而已哉。抑其道德制行之正大。亦並可ㇾ爲ニ宗。如下明季異學之輩。輕侮於程朱一而誹議者上。亦併ニ其德行一而蔑ニ視之一也。夫爲ㇾ學而不ㇾ知ニ先儒之造詣一。不ㇾ尊ニ有德一而妄貶議。自爲ニ夸高一。此不ㇾ能爲ニ君子儒一。而甘爲ニ小人儒一也。可ㇾ謂不ㇾ知ニ人又不ㇾ知ニ己也。昏愚之至也。」

○朱子之豪雄。以ニ繼ニ往聖一闢ニ來學一爲ㇾ志。故經說議論。條分縷析。極細詳ニ以惠ニ來裔一。不ㇾ借ニ後儒之煩說一而足矣。是後世無窮之恩也。故其說既精細繁衍。後儒效ニ其繁衍一。而雷同分析。紛紛未ㇾ休。然其所ㇾ說繁多者。唯多言重複而已。不ㇾ能ㇾ發（揮）ニ（起）其餘（意）一。雖ㇾ有ㇾ之無ニ所補一。無ニ之無ニ所ㇾ缺。且不ㇾ能ㇾ變ニ改其舊習一。然則朱子沒後。英俊之士二三輩所ニ發明一之外。諸儒雖ニ隱默而效ニ喑啞一亦可也。

○朱子極排ニ斥佛氏一。用ニ其力一。至矣。盡矣。蓋嘗出ニ入乎佛氏一。而深造ニ其道一也。宜乎其闢ニ之之盡ニ其精

微無餘憾也。然其平生所論之中。復間有與異學相同者何也。是恐自大極圖說之中來也。其尊信周子之至厚。恰如尊信聖人然。故併非其所作者而信之。（蓋）此書也。雖（實）○周子所（實）作。（亦）是初年之所見。非終身之所執持也。觀於通書之中無無極之說。通書之言與圖說不類。且二程全書廣博之中。亦不說無極。而可知而已矣。

○宋（儒）諸君子。皆是賢哲。其學術性行超越于人。漢唐諸儒之所以不可及也。然其說與佛老粗近。而可疑者亦多矣。大凡人自非聖人。則不能無偏僻。譬之雖日月之明。不能無陰翳。雖明月之珠。不能無瑕類。邵子曰。天能生而不能養。地能養而不能生。火能烹而不能沃。水能沃而不能烹。天地尙無全功。況賢哲。豈可無偏僻乎。然則宋儒之學。雖近純正。然未能造聖人。則其（偶）有偏僻者。亦其所也。豈可必爲無偏僻而盡信之乎。聖人之道。誠大中至正。其執德也爲弘。其爲行爲有全功。其下焉者。雖賢者。恐不能全備。宋儒之學。雖純正。亦未到聖處。宜乎不免有偏僻也。故其說往往有與孔孟之教不同者。以無極爲大極之本。以理氣決爲二物。判斷天地之性氣質之性。分之爲二。以一陰一陽爲非道。以陰陽爲形而下之器。以所以一陰一陽者爲道。以氣與體爲有死生。以理與性爲無死生。以靜坐爲常時工夫。以主靜爲立人極之工夫。且以孔子之說性與孟子之說性。爲氣質天地之異。此皆愚之所以不能無疑也。

○東坡曰。邪說之移人。雖豪傑之士。有不免者。蓋東坡之學固非正。不自知爲邪說所移。然其所言如是。便却是也。然則豪傑之士。偶有所聞于方外之徒。而間有偏僻蔽固之說者。亦所不免也。近世偏陋之士。以爲宋諸君子之學。與孔孟相埒。而一瘢不存。萬善盡備焉者。吾未知其可也。然明季清初之書生。妄誹議宋諸先生之學。以爲非孔孟之正傳者。亦是異學之徒偏蔽昏塞之甚者。非確論也。

○明王陽明是天下之英才。一時之人迷溺于彼學者。滔滔皆是。比之晉人之淸談。其害太過。羅整菴與王陽明同時（之人。）以陽明爲非。而與彼論辨。可謂聰明英俊之人也。羅欽順之學。其說不阿于宋儒。其言曰。理只是氣之理。又曰。理須就氣上認取。竊謂宋儒分開理氣爲二物。其後諸儒。阿（訣）黨于宋儒。而不能論辨。只羅氏師尊程朱。而不阿所好。其所論最爲正當。宋季以下元明之諸儒所不言及也。可爲豪杰之士也。如薛瑄胡居仁二子。雖爲明儒之首稱。然其所見不及欽順遠矣。

大疑錄卷之上畢

吳廷翰吉齋漫錄。分論宋儒理氣之非。辨陽明之非。其識不下整庵。

大疑錄卷之下

昔人有」言。人之不」悟」蔽」於物欲」者固多。而迷」於聞見」者實不」少也。愚按此迷古來固多矣。且自」宋季」以降。曲士之迷」於聞見」。而不」開明」者最多矣。學者之所」宜」自省察」也。

○自」宋季」以來。世儒之學術。過」繁細詳審」。而支離蔓衍。學者用」功之繁多勞擾。比」于孔孟之時」。何啻相什佰而已耶。其流弊無」紀極」。不」知」所」止。所」守不」約。所」以汎濫而無」功者。滔滔天下皆是。此何由哉。豈非」自」宋以降。學術逐漸益繁。捨」本走」末。分析支離。實德遂亡乎。是以後儒效」其尤」而未」已也。

○或曰。程朱之言可」盡信」耶。抑又可」間容」疑耶。曰。聖人之言。固可」爲」萬世之信」。其次賢者之言。亦可」爲」則。然知與」行相」爲表裏」。雖」賢者」。其行有」過。則其知亦豈無」偏僻蔽固」乎。然則其學術論說。亦恐不」免」有」偏倚之病」。過不及之差」。是乃聖賢之別」。其理當」如」此。苟使」其學無」偏倚之病」。則又是近」聖處」也。竊謂程朱固是賢哲。孟子之後。只此二子。可」爲」知」道之人」也。然未」能」至于聖人」。其學亦恐不」與」聖人」同」。然則程朱之說。固雖」非」後學之所」可」輕議」。亦不」可」無」取」捨於其間」。孟子曰。盡信

今之蔽錮於徂徠春臺之徒者。亦迷於聞見耳。學者須躰於身而驗於人。不然。古學。皆不宋學免爲俗學矣。

書不如無書。我於武成取二三策而已矣。此言可信也。程朱之說數十萬言。苟以其言爲無疑者。即是盡信書也。今人於其說。一向回護遮掩而曲從者。多涉私意。可謂阿所好也。不可爲公正。予是庸拙之材。不能爲程朱之忠臣。只不阿所好。是却可不背于程朱之心而已。

○武王周公聖人也。率天下之賢士。與諸侯征獨夫紂。未嘗聞有非之者一也。彼伯夷叔齊者。乃以爲不可者。何也。蓋其獨見獨行。雖不及聖人之權。誠是聖之清者。然其所長。乃其性之所偏也。雖大賢。其性偏如是。如宋諸君子之學亦然。孟子之後。宋儒之學固是義理開明。且性行亦是謹正。爲眞儒。然爲說過詳細。是以其病偏于分析。是所以與孔孟渾融之說不同也。譬如周末。文勝質。故其曲士之議偏者多矣。宋季之學最偏僻。與聖人乖戾者亦多矣。

○程子曰。釋氏之學。於敬以直內則有之矣。義以方外則未之有也。此語愚未能解。蓋釋氏自有釋氏之體用。以空寂爲體。以無所住爲用。然則釋氏不可爲有敬以直內之體。釋氏若有敬以直內之體。則必有義以方外之用。何至于絶滅倫理乎。故愚未能解其意。後儒枉爲之辭者阿諛耳。

○唐虞三代之君臣。言敬者多矣。然言忠信者少。何邪。曰。上世風氣。淳厚而質實。與澆漓之世異。故君臣皆忠質。雖不言主忠信。而不失忠信。敬是主忠信之工夫。故能敬則忠信亦在其中矣。至孔子之時。世漸澆漓。故聖人以主忠信爲文行之本。況澆季薄俗。苟不主忠信。而一於恭敬。則恐無質實之行。不爲曲謹色莊之人者寡矣。此小人僞學之態。非君子之道也。然則後世學者。可以

忠信爲主本。如居敬。則主忠信之工夫耳。

○近世以道學好立名者。往往不以主忠信爲本。而以持敬爲名。其持敬也。以牽強束縛拍迫爲務（勤）。是色莊之人。既失忠信而不主之。其所强持。又非居敬之道。却是傷敬也。

○聖門之教。以孝弟忠信爲先。是以本立而道生焉。始于卑近而終乎高遠者。從實也。蓋如行遠者必自邇。登高者必自卑。此循序而漸進於道也。異（端）學之教。及近世俗儒。以高遠爲先者。爲大言快論。欲一超直入。不能循序而漸進。是欲强進者。深顧無有此理。是不務實而從虛。

○朱子之做說話。往往用禪語者多矣。如論作文曰。但讀史漢韓柳。而不能便精研。取老僧頭一去。又曰。一捆一掌血。一棒一條痕之類。恐是初年學禪習氣之所未能脫去。又好爲戲謔者間有之。說霍光之家奴甦生事之類是也。如二程子。全無此二事。

○無極而大極。是華嚴法界觀之語也。法界觀是唐杜順和尙所作。相傳而至于周子。若大極本無極。及主靜立人極。此自佛老之徒所傳來。朱子尊信（於）周子也至矣。故信（出于周子）而不爲疑也。

○體用一源。顯微無間。是唐清凉國師華嚴疏之詞。此二語俱浮屠之所言。宋儒以爲周程之所始說者。何耶。

○此學之源流。千古一脈。六經四書。雖千言萬句。無不同條共貫。若不祖述先聖而立言者。其言雖出乎豪傑之士。有所可疑耳。苟有所違。則適足以增後學之迷耳。

○讀書之法。只是須除却自己私意。而依聖賢所說理會。不可妄加一字一句之間言語。如此則久而自然有得於聖賢眞實意思。不可先立自己意思。作氣勢。硬執爲主張做杜撰。苟如是。則不能見聖賢意思。嗚呼雖先儒恐不免有斯病。然則學者之於先儒之說。有可疑者。則不可一向固信矣。古語曰。人必是所學。然則雖豪傑之士。恐不能無此蔽。（朱子）（宋儒）之信大極圖說。亦以厚信好學故有此蔽。是（觀）（見）過（斯）（而）知仁也。

○後學之於先儒也。固當不可不推尊。然學問之道。天下之公道。其是是非非之際。可爲公直之正論也。自宋以降。學者動阿諛曲從于先儒。而習爲俗者何耶。

○學者偏執固滯者。於宋儒之說。雖有可疑者。阿諛曲從而不敢疑。終身迷而不悟。苟有微疑議者。則睚眦相忤。以（爲）○異學邪說。且退而後言誹謗。甚哉。蔽固不通也。

○聖人之教。易簡平直。無穿鑿煩擾之病。後世之學術。動爲支離零碎。而無渾融平正之意味。故學者不堪其煩擾。夫好易簡而惡煩擾者。天下之人情也。後世之學術。煩擾如此。是以與天下之人情乖戾。宜乎世俗之不好學也。夫聖人之教人也。使學者勇進而不知厭倦。後儒之教人也反此。

○小人有才辨者之教人也。居而不自疑。衆人不知人之誠僞。故信之而不疑。此非有賢德而能化人。只是利口才辨之使然也。

○爲學者。不本聖經。而信末世偏僻之異論。安能悟其非而造大道之本源乎。

程朱謂陰陽爲器。固非是也。然如損軒說。經文應言无形在上有形在下。且謂山河人物爲器。亦不可通也。伊藤東涯曰。道。易道也。器。著龜也。易道无形。因器而著。故因著策以示吉凶。此所以言形而上下也。博按。上下。猶言前後。東涯之說。極爲妥帖。

論形而上下

繫辭曰。在天成象。在地成形。又曰。見乃謂之象。形乃謂之器。又曰。形而上者謂之道。形而下者謂之器。愚謂形者有體質之謂。上者在天之謂。下者在地之謂。蓋形而上者。謂陰陽之氣。無形而在天。是在萬物形器之上者。故謂之形而上者。象者。形之精華發於上者也。以其氣在上而見。謂之成象。以在天之二氣。流行交運。謂之道。形而下者。謂萬物各成剛柔之形質而在地也。形者。象之體質留於下者也。以形質具而各有成。故謂之器。蓋天者在上。地者在下。故以上下言。天道無形而有陰陽之象。故曰在天成象。地道成形有體質。故曰。在地成形。是以在天者無形。在地者有形。所謂在天成象者。（是非）（非是）陰陽乎。陰陽在天。未有形質。唯其所流行變易。便氣象露顯耳。故曰。見乃謂之象。所謂立天之道曰陰與陽者。是在天成象而無形質者也。蓋陰陽流行。化生於萬物。是乃天之道也。天之爲道也。唯有陰陽。陰陽之外。更無別物。一陰一陽。往來不窮。以其流行謂之道。在地成形者。（是非）（非是）萬物乎。萬物者。謂山河大地人物。皆有形而在下者也。所謂立地之道曰柔與剛者。是在地成形。而有剛柔之質矣。斯之謂器。程子謂陰陽亦形而下者。朱子本義亦從之。蓋陰陽有常有變。常者純正可爲道。變者偏邪有災沴。不可爲道。程朱以陰陽爲形而下者。是分道與陰陽爲二也。蓋程朱分氣與理。理爲道。陰陽爲器。相對而說。愚竊疑苟以陰陽爲形而下。則在天成象者。只指日月星辰而言邪。然則與陰陽成象之說

異。是不」可」解一也。所謂形而下者。指在」地成」形者」如山河大地人物。凡有」形者。皆是器也。凡有」體製」者謂之器。陰陽未」有」形體。不」可」謂之器。是不」可」解二也。陰陽在」天成」象者也。非」在」地成」形者。而謂」陰陽亦形而下者。是不」可」解三也。且說卦傳所」謂立」天之道」曰」陰與」陽者。以二氣流行」爲」道也。又曰。立」地之道」曰」柔與」剛者。以」剛柔二物成」形而爲」器也。是亦非」指」陰陽」爲」器也。是不」可」解四也。上下二字。以」在」天在」地言則分明。不然。則二字之義難」通曉。是不」可」解五也。先儒此說。愚之所」未」解也。所」以未」解者。以」與」聖人易中所」言不」同也。然此非」敢誹」議於先正」以欲」伸」愚說。姑記所」疑。以俟」君子之是正」而已。

太極

易繫辭曰。易有」太極」。是生」兩儀」。周子曰。無極而太極。朱子曰。不」言」無極」。則太極同」於一物」。而不」足」以爲」萬化之本源」。竊謂太極。是陰陽未」判。萬物未」生時。一氣混沌之名。然而有」至理」而存焉。是言天地萬物。皆以」之爲」本。故不」言」無而言」有。所」謂易有」太極」者是也。無極而太極。是本佛老之言。分明謂」有」自」無而生」也。老子第四十章曰。天下之物生」於有。有生於無。蓋以」無爲」萬物之本」。且以爲」宗者。是聖人之教也。故有無之說。是吾道與」外道之所」由分。不」可」不」愼審」也。然則欲」言」太極」。而不」可」先說」無字」。若夫以」太極」爲」無形」。雖」愚者亦可」得而知」也。然則如」其同」於一物」。不」足」以爲」憂也。且不」可」以」極字」解爲」形字」。朱註以」無極」爲」無形」者。非」

易有」太極」者。言」易未」撰」著」策」之前」有」太極」者。而爲」兩儀」四象八卦」之本也。猶」家」之」禮」言也。太」亦唯」一也。原」其本」。推」表」揭其大號」焉。

此一句之本旨」也。朱子此等之議論。厚信堅執。欲」人之遽信」圖說」而不」疑。故其言偏重過」主張」。與」平生之言婉曲平直而穩當者」不」同。何耶。

○陸象山與」朱子」論」太極圖」曰。夫太極者(宜)有」此理」。聖人從而發」明之」耳。非」以空言」立」論。使」後人簸弄於頰舌紙筆之間」也。(又曰)(此)圖說以」無極二字」冠」首。而通書終篇未」嘗一及」無極字」。二程言論文字甚多。亦未」嘗一及」無極字」。假令其初可」見」其學之進。而不」自以爲」是也。又曰。易道大極。聖人言」有。今乃言」無何也。作」大傳」時不」言」無極」。何嘗同」於一物」。而不」足」爲」萬化根本」耶。又曰。朱子發曰。朱子發是宋人姓字　濂溪得」太極圖於穆伯長」。穆伯長之傳。出」於陳希夷」。其必有」考。蓋希夷之學。老子之學也。無極二字。出」於老子之書知其雄章」。吾聖人之書所」無有也。篤信竊謂如」象山此數語」。虛心而觀」之」。則却爲」有」理」。蓋無極而太極。此一句。唐杜順和尚所」作華嚴法界觀之語」。非」儒者所」可」言。雖」朱子之博洽」。偶未」及」見之乎。無極二字。本是老子之說。後世佛氏亦借用者。以」其立意相同」也。象山所」謂太極圖。其初出」乎希夷」。而吾聖人之書所」無有者。是有」左證」之言。固不」可」爲」非」。且無極而太極。此一句。本出」乎浮屠之書」。故周子後來知」其非」聖學之言」。而通書之中不」復言」無極」。如」象山所」言耳。且二程全書中不」言」無極」。則程子亦不」是」于無極之說可」知也。老子曰。無名天地之始。有名萬物之母。又曰。天下之物生」於有」。有生」於無」。夫以」無爲」有之先」者。老子之所」宗。而吾聖人之所」未」曾言」也。無極而太極。即是老子以」無爲」有之先。有生於無之意。

大極。兩儀。四象。八卦。豈可」離」卦爻」而況言」天地所」謂太極」者。只言」七八九六」未」生之」時。而漢儒以是爲」天地」未」分之名」。宋儒因」之爲」天地萬物之」理。言」雖」理」雖奧」妙。要」書燕說」之」鄙。宋明」耳」。諸儒承」誤襲」謬。辨」析理」氣。互相」非。苟能」明」其本」義」。則片言可以」息」聚訟」矣。

宜。陸集作實。

假令其初下。陸集

○陳希夷以圖傳于穆伯長。穆伯長傳之周子。蓋陳希夷穆伯長。皆爲老氏之學者也。明季王嗣槐曰。(茂叔)又嘗學於鶴林寺僧壽涯。此說亦必有出處。

○朱子之尊信周子也至厚矣。故於太極圖說不疑其初年未定之作。且不知出于異學之說。實以之爲周子之所作。尊信之甚深。用功最厚。畏諸儒之疑議。而回護委曲。論辯百端。其平生之論說。義理之淵源。出于此者多矣。嗚呼朱子之賢而如此。可怪哉。

○郝(景)京山時習新(智)知云。茂叔之學。得之華山居士陳摶。或曰。茂叔與胡文恭同師潤州鶴林寺僧壽涯。今寺傍有濂溪祠。張敬夫謂茂叔師陳摶學主靜。然則清虛洒落。自在無礙。是其本宗也。大抵理學諸儒。其學術多禪寂之意。

道器

易上繫辭曰。形而上者謂之道。形而下者謂之器。云云。陰陽之氣。在天爲道。所謂形而上者也。其發育流行。一爲陰。一爲陽。其氣生生不息。純正而不邪。有理而不亂。非道乎。天之氣一著地則成形。人物是也。至于山川草木禽獸蟲魚霜雪雨露。亦皆然。是乃形而下者。凡在地成形者。皆是器也。

○朱子曰。未有天地之先。畢竟是有此理。又曰。當初無一物。只是有此理。篤信竊謂可怪。先賢正大光明之學。而有斯言。即是老子道生天地。有生于無之說也。

有實有是圖觀其後來未嘗一及無極字。十五字。

朱竹垞經義考云。陳圖南无極圖。曾刊石華山。

論天下歸仁

一日克己復禮。天下歸仁焉。一日(者)猶言一旦也。蓋以其用功之時言(而已耳)非言一日之間也。克己復禮至難之事。故其用功也。非積日之久則不能矣。豈一日之功所能也乎哉。歸者如孟子所謂民之歸仁也之歸。謂歸宿也。克己復禮。則無私欲之障礙。無物我之間隔。天下雖大也。人物雖多也。我心之量。無處而不至。無物而不體。苟若是。則皆歸宿於我仁心之度內。而無所不愛恤。譬如人之身體。無病痾而氣血貫通。則四肢百體。無非己有。是爲歸仁也。苟氣血有滯塞而不貫通。則手足痿痺。肌膚痛癢。亦不知矣。四支百骸。雖是我身體。爲不屬己。醫書謂之爲不仁。蓋仁者。以天地萬物爲一體。無非己之意。楊氏以爲皆在吾度內。與呂氏洞然八荒皆在吾闥。還是實事。天下歸仁。言唯公則無己私之間隔。雖天下廣濶。無所不受也。此亦西銘之意。朱註一日克己復禮。則天下之人皆許與吾仁。是極言其效之甚(速)也。愚竊謂一日之間。實無此事。聖人之言。每每的實。不如方外之徒大言。說怪誕無實之話。而夸耀于人上。大抵天下有玆事。必有玆理。苟一日之間克己復禮。則天下之人皆稱許其爲仁。是無此事。必無玆理。且一日之間。而其效如是。是自張之言。恐非聖人謙遜自反語意。凡天下稱許。亦有不是以爲仁者。如王莽姦賊。其初僞飾爲君子之模樣。故天下之吏民。被欺于彼之僞飾。上書稱善行者。前後四十八萬人。諸侯王公宗室皆言。宜加賞於安漢公。是漢史所記。若不誠于爲仁。則雖天下稱許爲仁。而未可以爲仁。於此乎

天下歸仁。言天下之人歸服其仁德也。程朱之說平易如可從。

張呂之說。卻如方外大言。張夸言大之失之。言聖。且孔子汎言爲仁之效。非謂其身自何而效。嫌於張子曰。不仁則榮則辱。又曰。民歸仁也猶水之就下。走壙以天下人許歸服爲仁之稱。許者之聖之常也。損之可謂云。

可」見矣。苟誠」于爲」仁。雖」無二一人稱許者一。不」失」爲」仁也。如二泰伯民無一得而稱一焉。然夫子以爲二至德一。然而不」失二其爲一賢。所謂其曲彌高。則和者彌寡也。且衆人不」知。故可」爲二仁者一。如衆人皆稱二許之一。則未」可」爲二仁之道一。不」以二人之稱許一。故曰。爲」仁由」己。而由」人乎哉。天下許」與吾仁一。與二在」邦必聞在」家必聞一。同是所」考在」外。所謂是聞也。非」達也。聖人謂知」我者其天乎。與二此語意一相」爲齟齬一。却是不」由」己而由」人也。歸字爲二許與一說。不」如二爲」歸宿一而說之意義更的實一也。唐孔氏曰。此歸意與二洪範歸二其有極一同。呂氏曰。歸二其有極一。歸如二歸宿之歸一。此說亦可」攄。蓋天下歸」仁者。言克」己復」禮。則其心公而無」私。兼二物我一。故於二天下之萬物一。無」所」不」愛。而同歸二在我仁之中一。所謂仁者。以二天地萬物爲一體一。無」不」在」己也。然朱子答二楊子順一書。亦其意與二本註一同。而云天下皆歸二吾仁之中一。却是大作意。說得張皇。然予之昏愚。未」能」服二從于此說一。却以二楊氏皆在二吾度內一。與二呂氏皆在二吾闥一之說一爲二實事一。且此說於二天下歸一仁焉爲一相合一。不」可」爲二說得張皇一。是雖」乎二于先正之成說一。然姑記二管見一。以待二識者之訂正一耳。

論敬

敬者歷聖所」傳之心法。是操」心工夫。敬則有」德。不」敬則無」德。故古人以爲二敬者德之聚一也。然聖人之門。以二忠信一爲」主。而不二以」敬爲」主何也。蓋誠敬二者。固是爲二學之要務一。然誠是爲二主本一。敬是爲二工夫一。故主二忠信一者本也。是爲二學之主意一。居」敬者主二忠信之工夫一也。不」可」爲二主本一。主本與二工夫一。自有二輕重一。不」可二混同一。故誠敬二者。本自有二輕重一。譬如二君與」相。不」可二相敬一。況以」敬爲」主。則敬重而誠輕乎。夫說二義理一如二持權衡一。彼重一分。則此輕一分。故偏說二主敬一過重。則恐主二忠信一過輕。苟如」此。則雖二外貌嚴肅一。恐有二中心卮弱之患一。是不」誠則無」物也。夫學者之脩」身制」行也。須二禮樂相兼一。莊敬和樂並行一。何啻偏于莊敬乎。且如今蔽固之人。不」會敬字一。動被二束縛于敬字一。而爲二執滯一。爲二把捉一。爲二固陋一。爲二拘迫一。其爲」心也。寂寞枯槁。而不」和不」樂。其接」人也。則無二慈祥溫和之實一。而有二嚴責刻薄之意一。是其爲」人也。不」仁不」恕。其容有二拘束急迫之意思一。而無二從容不迫之氣象一。且宋季諸儒。說」敬甚偏重。以」敬爲二心之主一。自」是以來後世之學。往往效二其尤一。只知二以偏嚴一爲」重。而不」知二忠信慈愛之爲一最重一。苟偏重于嚴毅儼恪。而輕二於忠信慈愛一。則恐曲謹刻薄。流而爲二色莊內荏之人一。君子以爲二奈何乎一。

○聖人之教。以」主二忠信一爲」本。以」居敬一爲二工夫一。是聖門之家法。先以」立」本爲二主意一。次居」敬爲」主二忠信之工夫一。其序當」如」此。宋儒偏以」敬爲二主本一。而拘拘焉。恐於二主二忠信一之工夫一不」專。而與二聖門之家法一異矣。蓋敬是脩」己之工夫。所二以存一誠也。然聖人之門。以二忠信一爲」主。未」聞二以」敬爲」主。苟主二忠信一。復以」敬爲」主。是一心有二二主一也。居」敬固可」貴。然而爲」主者不」在二于此一而已矣。

論宋儒持敬之失。

朱子曰。敬者一心之主宰。萬事之本根。蓋修己以敬者。聖人之至教。人心非敬不存。故須敬以執持斯心。此乃操則存之謂也。主宰云者。所以存之工夫也。非言以此可爲心之主也爾。讀者勿以辭害志而可也。今世有佞諛于朱子者。曰。雖以敬爲心之主。豈有害道乎。吾未知其言之可也。然則以何者可爲人心之主乎。孔子曰。主忠信。是人心當以忠信爲主。忠信者人之實心。中庸所謂誠之者人道也。苟捨人道而不主之。反以操心工夫爲心之主。雖美德善行。非所以可爲主也。如敬之一字。爲修己之工夫。是堯舜以來歷世聖賢之心法也。然而孔曾思孟之書。未曰以敬爲主。則可知古之聖賢所爲心之主者不在此也。忠是不欺之謂。體也。信是不妄之謂。用也。忠信二者。合而言之則誠而已。誠也者。心之主而人之道也。易曰。忠信所以進德也。仁義禮智無誠則虛僞耳。若不主忠信。則恐爲學無其本。而不能由進。如敬。固是存心之工夫。（切要衆儒）之事也。然而不可爲心之主也。蓋誠爲實理。在人爲實心。故以實心爲主則可也。以工夫爲之主則不可也。夫堯之欽明文思。舜之溫恭。禹之祗承。湯之聖敬日躋。文王之敬止。大公之敬勝怠。孔子之敬以直內。修己以敬。曲禮之毋不敬。皆是聖賢自修教人。切要之工夫。故君子爲學之道。固當以敬爲貴。是乃主忠信之工夫。敬則可以至于誠也。然而非謂可以是爲心之主也。程伯子曰。誠者天之道。敬者人事之本。敬則誠。蓋敬者。謂人事之本則可也。謂心之主則不可也。孔子曰。天無二日。土無二王。然則人心亦豈可有二主乎。既以忠信爲主。又以敬爲一心之主。是一心而有二主也。且

可謂救弊確論矣。孔子曰以下一段。恐失於拘。讀者察焉。

夫德。有可專主者。有可並行者。可專主者。忠信是也。可並行者。仁義禮智四德是也。苟以可並行者爲專主。則雖美德不能無弊。如偏乎仁。則流爲姑息。偏乎義。則流爲慘刻。偏乎禮。則流爲足恭。偏乎智。則流爲苛察。是也。況以工夫爲主乎。若以敬爲專主。而不主忠信。則其流爲色莊。爲拘迫。爲曲謹。爲畏縮。爲隘陋。恐其弊有不可舉言者。今之持敬者。不知敬之道。往往爲色莊人。爲拘陋曲謹之人。雖貌恭色厲。然心倨內荏。此因不主忠信也。唯專主乎忠信者。無弊。以其所主者德之基也。夫忠信者。在人之誠。大原出乎天之道。而人之道也。所以實於四德也。故曰。忠信所以進德也。所以行三德也。可謂心之主也。

○宋諸先生以說理學爲先。如近思錄。以大極圖說。爲開卷第一義是也。是先上達而後下學也。恐與孔孟之立教不同。

○敬字是千古聖人相傳之心法。說之者。可以六經四書中所有。聖賢言敬之說解之。詩曰。戰戰兢兢。如臨深淵。如履薄氷。曰。小心翼翼。曰。戒愼乎其所不睹。恐懼乎其所不聞。管子曰。凡言與行。思中以爲紀。古之將興者。必由此始。是皆說敬字。其言語易簡。其意明白。朱子晚年說敬字。曰。敬只畏字。近思錄孫思邈曰。敬以畏爲本。竊謂畏字即是敬字之正解。凡說敬字。且須用此數說。不要多言而意足矣。只是操心不放。執事不苟之謂。宋季諸儒。說敬。紛紛繁冗。不免爲畫蛇添足。凡宋季諸儒之說敬。用心太過。恐是過助長。過嚴厲。爲學者一副當習熟。纏繞

而爲小疾。執持拘迫爲束縛。不似聖人之言。蓋執持太過。拘迫束縛其心術。氣貌不從容舒遲。恐不能保久也。

○夫操心之道。如持權衡。以量輕重。然。加之一分。則爲過重。減之一分。則爲過輕。只欲其平直。要在勿忘勿助長之間而已。苟用心太過。則恐不能持久。亦觀夫子之燕居申申如也。天天如也。而可見其平日從容和樂。苟不如此。則雖賢者。不能持久。而爲心術之害也。

○正蒙云。知死之不亡者。可與言性。因知記曰。有此物即有此理。氣散而死。終歸於無。無此物即無此理。安得死而不亡者。篤信謂宋儒以性爲理。曰。氣有死生。理無死生。是與異學所謂死而不亡者壽同意。羅整菴此說可以破異學之謬。又可以解學者之惑。張子正蒙中。猶有可疑如此者。夫張子之賢。亞于二程。其學問亦然。其說之駁雜。流入外道者如此。學術之弊可畏也。

○莊子曰。用力少。見功多者。聖人之道。莊子此言。雖異學之言。却可信也。何則古聖人之教。本是爲易簡要約而不煩。若夫宋儒之學術繁衍。立說多言。逐時增支離破碎。與莊子所稱聖人之道不同。

○古之聖人。以陰陽爲道。未嘗廢陰陽而言道。宋儒廢陰陽。別以一箇空無虛寂。無生氣無權力者爲道。爲萬物之根柢。又以爲太極之妙者。非聖人之所謂道也。聖人之所謂道也者。天地之生理。而太和元氣。常生生不息。故中庸曰。大哉聖人之道。洋洋乎發育乎萬物。蓋流行于四時。萬

莊周所謂聖人之道。本自不同。其言雖是。其意即非。今引據之以駁宋儒。恐不可以服人。宜引孟子言近旨遠。守約施博之言。

古不息。是便萬化本源。品物之所出。性命之源也。與佛老之所說空無不同。

○理即是氣之理。一氣之行于四時一也。生長收藏而不變亂者。自順正不乖戾。故理須就氣上認取。譬如水。其清潔而就下者。是水之本然。故水與其清潔流行者。非二物。不可分而爲二物也明矣。故二氣之順正而不變亂者。即爲道。不順正者。非氣之本然也。爲非道。

○聖人之教。以禮爲先。宋儒專以理學立教。與聖人之教異。且宋儒先上達而後下學。如以太極圖說爲初教是也。是皆與聖人之教不同。夫學以聖人之言爲萬世之法。論語一書所載是也。不要求乎外。苟求乎外。則恐流而爲異學也。

理氣不可分論

天地之道。原其所自。其初兩儀溟涬而未開。一氣渾沌而未分。是至理之所會。而陰陽之象未著。名之爲太極。太者太上之謂。極者至極之名。太極是爲此道之本源。萬物之根柢。凡天下之事物。莫尊於此。不可得而名焉。故名之爲太極也。宜矣。一氣動而運轉。名之爲陽。此太極之動也。動而後靜。靜而凝聚。名之爲陰。此太極之靜也。靜而後復動。一動一靜。循環而不息。是陰陽者由一氣之動靜而分焉。非有二氣也。故陽者一氣發動也。陰者一氣之凝聚也。二者即是太極之動靜也。夫子所謂易有太極。是生兩儀者是也。蓋一氣未分。則以一氣渾沌爲太極。陰陽既分。則陰陽之道爲太極之流行。太極陰陽。雖有前後之分而異其名也。然有至理而存則不異焉。蓋太極是一氣渾沌

陰陽未分之稱。陰陽是太極既分之名。其實非有二也。因太極之動靜而陰陽分焉。則陰陽之流行。亦可爲太極之理。故易曰。一陰一陽之謂道。蓋道猶路也。以所通行名之焉。是一氣之所流行。故名之曰道。所謂一陰一陽者。以一氣之動靜。一爲陰一爲陽。交流行而不息言之也。故以渾沌時名之謂太極。以流行之(言。時)名之謂道。太極與道。其實一也。道則太極之所流行。太極則一氣未流行之尊號。非有二也。蓋二氣之流行。有條理而不亂。常而正者。名之爲道。是二氣之本然也。如春温夏熱秋凉冬寒。是其常而正者。爲天之道。如紛亂而不正者。不可以爲道。因非本然也。如伏陰愆陽。失其常者。非道也。蓋陰陽正。則陰陽便爲道。是陰陽之本然。所謂立天之道。曰陰與陽。是也。如一年之中。有生長收藏之序而不變亂。是陰陽之流行。即是道也。非陰陽之中。別有一物。而稱之爲道也。故柯尚遷曰。氣之運動而自然者爲理。此言宜矣。夫天地之間。都是一氣。而以其動靜稱之爲陰陽。其生生不息之德謂之生。故易曰。天地之大德曰生。以其流行而一爲陰一爲陽謂之道。以其有條理而不亂。又謂之理。雖由所指不同。而姑異其名。然其實皆一物而已矣。是以陰陽流行而純正者。即是道。故理氣決是一物。不可分而爲二物焉。然則無無氣之理。又無無理之氣。不可分先後。苟無氣則何理之有。是所以理氣不可分而爲二。且不可言先有理而後有氣。故不可言先後。又理氣非二物。不可言離合也。蓋理非別有一物。乃氣之理而已矣。氣之純正而流行者謂之道。以其有條理而不紛亂。故謂之理。其實道與理一也。苟以理爲別有一

物而寓氣中。則是與老氏所謂有物先天地。無形本寂寥。常爲萬象主。不逐四時凋者。何以異乎哉。天地太和之氣。是陰陽之正者。故能生萬物。爲萬品之根柢。至貴之理。不可賤之而爲形而下之器也。故理氣本是一物。以其運動變化有作用。而生生而不息。謂之氣。以其生長收藏。有條貫而不紊亂。謂之理。其實一物而已。然命之謂理。則氣之純粹至善。而無不正之名。是以無常變之可言。命之謂氣。則有時而雜糅。紊亂爲災祲。失其常度。是乃由運動變化而不一定。故失常也。然此非陰陽之本然。語其氣之常。則無不正。其常者。是氣之本然。即是理而已矣。譬諸水。水本清潔。然過於泥土之中。則溷濁汚穢。失其清潔。然不可以其濁穢爲水之本然也。故氣能生萬物。而謂理能生萬物。亦可也。苟謂理能生氣。則不可也。何則理者氣之理也。非有本末先後。朱子答劉叔文書曰。理與氣決是二物。其餘平生所說。亦皆此意。此與聖人所說一陰一陽之謂道。其意相乖戾者。予之所迷而未解也。

大疑錄卷之下終

損軒只錄其所疑。本无意於修辭。何必論其文。然大野氏之文。其拙如是。而有是言。可謂不知己者矣。

信而好古。不承上句。

題大疑錄（之）後

大疑錄者。損軒貝原君晚節所著。而世所罕見也。余嘗讀春臺先生文集。而知君之卓越於一時也。因購求其書有年于茲矣。一日書肆麑伴寬者携大疑錄一本來曰。近者於城南曾董鋪雜紙中得此書焉。吾嘗聞此書之罕有也。而今幸得之不若上木以廣其傳也。請子爲我一校焉。余曰善矣。子之得此書也。誠余之幸也。乃受讀之。文雖不可觀。而言乃可聽也。大疑宋儒而不斥（宋儒）。（敢自是）自錄○以俟人。（可謂信而好古者已。）君子哉。言乎。言而可聽也。何（須）詞（操）之爲。（以藻）無奈流傳（漸）久寫誤頗多衍闕相半。予乃質諸蘭窩先生。先生嘗藏一本。就校之則其文大同小異。互有得失去非取是。文乃可讀義乃可通。繕寫脫稿依舊爲二卷。如其旨趣。則有春臺先生（讀者。）（之說）余更何言哉。余更何言哉。乃附一言以還之。若夫梓行與否。則在伴寬之意爾。

明和丙戌歲季秋日　仙臺北海大野通明書于武城東泰玄書院

明和四年丁亥仲春
文化八年辛未求版

大坂書林　順慶町御堂筋北ニ入　柏原屋源兵衛

聖語述

伊藤長胤著

聖賢之語。言言是實。莫レ非レ救レ世明レ道之方。然其言浩大。初學之士。苦レ於不レ得レ其要。故今擧レ其明切者一以著二性道教之大旨一。倣二韓嬰說詩例一。首述二其大意一。末引二聖語一以結レ之。名曰二聖語述一。凡四十三章

爲レ學者。須レ識レ所レ謂道云者。是指二何等物一以爲レ道。是有二一種冥冥昏默。視而不レ見。聽而不レ聞物一。以爲レ道歟。又有二一箇煇々爍々。涉乎形象。徹二于耳目一物一。以爲レ道歟。皆非也。入則有二父子兄弟一。出則有二君上公卿一。朋友之接レ我。奴隸之仰レ我。遇レ之各有二其方一。天下萬世之人。非レ由レ此則不レ能二以一日立一乎天地之間一。準二四海一而無レ違。閱二今古一而不レ泯。斯之謂レ道。故曰。君臣也。父子也。夫婦也。昆弟也。朋友之交也。斯五者天下之達道也。道是非二別件事一。人人職分之當レ爲者。即是。聖人與二天下之人一。共守レ之。在二今日法度上一而言。則勸二奬忠孝一。禁二遏奇衺一。揭二諸大榜一。置二立通衢一。使二凡域中之人一。同遵依而無レ違。就二一人上一而言。則己與二天下之人一。共恪二守之一。而不二輒違犯一。所レ謂聖人之道云者。亦即其事。乃古昔布二告天下一大法令也。

本不ㇾ須ㇾ問ニ其在ㇾ己耶。在ㇾ人耶ㇾ。爰稽ニ厥初ㇾ。堯舜之世。擧ニ契敷ニ五敎于天下ㇾ。設ニ爲禮樂兵刑ㇾ。以使ニ天下之人ㇾ。由而行ㇾ之。是謂ニ聖人之道ㇾ。年代遷革。其法不ニ全行ニ于天下ㇾ。在ㇾ下大人。如ニ孔子孟子ㇾ。私擧ニ其道ㇾ。以詔ニ之人ㇾ曰。是古聖人之道。於ㇾ是乎似ニ道爲ニ私家物ㇾ。然道之在ニ天下ㇾ者。固自若也。故曰。天下有ㇾ道。丘不ニ與易ㇾ也。

五倫之道。人之所ㇾ不ㇾ可ニ須臾離ㇾ焉者也。而非ㇾ智則無ニ以照ㇾ之。非ㇾ仁則無ニ以守ㇾ之。非ㇾ勇則無ニ以到ㇾ之。故曰。智仁勇三者。天下之達德也。

人之於ㇾ道。猶ニ射之於ニ標的ㇾ也。射者有ニ巧拙之異ㇾ。而的無ニ二標ㇾ。人之性有ニ剛柔昏明之殊ㇾ。千差不ㇾ同。而所ㇾ期則無ニ二道ㇾ。故曰道一而已矣。心之嚮ニ道也。猶ニ目之望ㇾ的也。誦ニ詩書ㇾ而師ニ聖賢ㇾ。道之所ㇾ寓也。夫求ニ道於心ㇾ。何以異ニ於求ニ的於目ㇾ哉。故曰志ニ於道ㇾ。

人之在ニ道化之中ㇾ也。猶ニ魚之在ニ大海之中ㇾ也。農耕ニ其野ㇾ。工利ニ其器ㇾ。商通ニ其貨ㇾ。終歲勤動。以養ニ其父母妻子ㇾ。凡今之人。莫ㇾ不ニ道是由ㇾ焉。而自不ㇾ知ニ其爲ニ道ㇾ。故曰仁者見ㇾ之謂ニ之仁ㇾ。智者見ㇾ之謂ニ之智ㇾ。百姓日用而不ㇾ知。詩曰。不ㇾ識不ㇾ知順ニ帝之則ㇾ是也。

道之在ニ天下ㇾ也。非ニ一人之所ㇾ能專而有ㇾ也。匹夫匹婦。一能勝ㇾ予。唯聖人爲ニ能兼資ㇾ。而成ニ其大ㇾ。猶ニ衆水之鍾ニ於大澤ㇾ也。故曰。苟不ニ至德ㇾ。至道不ㇾ凝焉。

道。是天下公共物。是萬世不易物。非ニ聖人之所ㇾ創始ㇾ也。亦非ニ聖人之所ニ私專ㇾ也。聖人特爲ニ之節文條目ㇾ。以化ニ導天下萬世ㇾ耳。故曰修ㇾ道之謂ㇾ敎。

諸子百家。各以ニ其道ㇾ爲ㇾ道。將何以識ニ聖人之道之爲ニ正道ㇾ耶。試ニ之于人ㇾ而人易ㇾ從。施ニ之于天下ㇾ而天下易ㇾ行者。而後可ニ以爲ニ正道ㇾ焉。否則不ㇾ可ニ以爲ニ道也。故曰率ㇾ性之謂ㇾ道。又曰。道不ㇾ遠ㇾ人。人之爲ㇾ道而遠ㇾ人。不ㇾ可ニ以爲ㇾ道。

人唯見ニ聖人之道。廣大無ニ外。見以爲ㇾ高爲ㇾ遠。而生ニ畏懦退縮之心ㇾ。不ㇾ知其本莫ニ難ㇾ爲者ㇾ。畢竟不ㇾ過ニ人倫日用之外ㇾ。故曰。堯舜之道。孝弟而已矣。又曰。道在ㇾ邇而求ニ諸遠ㇾ。事在ㇾ易而求ニ諸難ㇾ。人人親ニ其親ㇾ。長ニ其長ㇾ。而天下平。

五味之和。易牙能調ㇾ之。調ㇾ之者易牙也。和非ニ易牙之所ㇾ爲也。人倫之道。聖人能敎ㇾ之。敎之者聖人也。道非ニ聖人之所ニ創也。故曰修ㇾ道之謂ㇾ敎。

道者治ニ身之範也。性者受ㇾ道之器也。以ニ性從ㇾ道。敎之事也。故曰。道人之所ㇾ行。雖ㇾ有ニ是非得失之不ㇾ同。千差萬別ㇾ。皆可ニ以謂ニ之道ㇾ。究ニ其歸。不ㇾ過ニ善惡二途ㇾ。故曰。道二。仁與ニ不仁ㇾ而已矣。而要ニ其所ニ適從ㇾ。則非而失者。不ㇾ可ニ以爲ㇾ道。故又曰。道一而已矣。道之在ニ天下ㇾ。雖ㇾ不ㇾ可ニ磨滅ㇾ。而非ㇾ有ニ聖賢者ㇾ。爲ㇾ之主張經理ㇾ。則豈獨自流行乎哉。故堯舜在ㇾ上。則比屋可ㇾ封。文武御ㇾ世。則善人是富。故曰。人能弘ㇾ道。非ニ道弘ㇾ人。」宅之安者。無ニ傾欹之患ㇾ。無ニ盜竊之虞ㇾ。人之於ㇾ仁。何以異ㇾ焉。路之正者。無ニ旁蹊之迷ㇾ。無ニ崎嶇之艱

人之於義。何以異焉。而人不肯爲。此孟子之所以哀之也。故曰仁人之安宅也。義人之正路也。曠安宅而弗居。舍正路而不由。哀哉。又曰。居惡在仁是也。路惡在義是也。居仁由義。大人之事備矣。其意亦然。

道者人之準則也。然非有所據。則何以得合之。文者先王之遺文。詩書六經是也。博學於此。則修身之間。有所持循而法存矣。禮者。大而貴賤親疏之殺。小而進退周旋之度。皆是也。約之以禮。則修身之間。有所節制。而法立矣。故曰博學於文。約之以禮。亦可以弗畔矣夫。

仁者人之道也。然仁不自仁。非人則無以見仁。人不自人。非仁則無以爲人。以人而行仁。是之謂道。故曰。仁者人也。合而言之道也。

仁而無義。則流於姑息。失於泛愛。義而無仁。則蔽於狹隘。陷於刻薄。俱不可以爲道也。仁義相濟。以成人道。猶天道之有陰陽。地道之有剛柔也。然天一而已。地亦一而已。而人則舉盡天下之人而人之。而道行於其間矣。故曰。立天之道。曰陰與陽。立地之道。曰剛與柔。立人之道。曰仁與義。

皆道也。事各有條。而不相紊亂。謂之理。爲其當爲。而不爲其不當爲。謂之義。此人心之所同以爲然者也。故曰。理義之悅我心。猶芻豢之悅我口。

人有斯形。則不能無斯欲。苟縱之欲。而莫之制。則至於違禽獸不遠矣。若乃欲遏絕之而無動。則亦不至枯木其形。死灰其心不止。而人道滅矣。故聖人不禁人之有欲。而以禮義爲之準。使人由焉而不違焉耳。故曰。以禮制事。以義制心。

仁者無不愛也。然欲愛天下之人。如我父兄子弟。則不唯勢之不能。孰復得君其君。父其父哉。故有禮以等其親疎。辨其貴賤。而後仁行矣。故曰。克己復禮爲仁。又曰。仁者人也。親親爲大。義者宜也。尊賢爲大。親親之殺。尊賢之等。禮所生也。又曰。仁之實。事親是也。義之實從兄是也。智之實。知斯二者弗去是也。禮之實。節文斯二者是也。

推己所不欲。而勿施之人。使人各得其分願。則仁得矣。爲一事之恕。則得一事之仁。爲二事之恕。則得二事之仁。故求仁莫要於恕焉。故夫子告曾子曰。吾道一以貫之。曾子告之門人。則曰。夫子之道。忠恕而已矣。

禮義者。百行之取法也。其事雖善。而苟不中其度。則不可以爲道也。故曰。信近於義。言可復也。恭近於禮。遠恥辱也。又曰。君子有勇而無義。則爲亂。小人有勇而無義。則爲盜。又曰。恭而無禮則勞。愼而無禮則葸。勇而無禮則亂。直而無禮則絞。

人生而有耳目口鼻。則必不能無聲色臭味之欲。且性之所稟。昏明剛柔。清濁厚薄之異。千差不齊。苟從其所欲。而莫之制。則人陷於禽域矣。任其性之所偏。而莫之裁。則道術爲天下裂矣。故有禮以制其欲。而使不愆度。正其性。而使不離道。猶五度之裁物也。故曰。禮之於正國也。

猶衡之於輕重也。繩墨之於曲直也。規矩之於方圓也。

水之溢也。有防以禦之。欲之無窮也。有禮以裁之。故曰。禮禁亂之所由生。猶坊止水之所自來也。

人之出入必由門。人之往來必由路。禮義之於人也。亦如是。故曰。義路也。禮門也。惟君子能由是路出入是門也。

心生物也。其感物也。出入存亡。未始一定。有道以範之。而後所思各中其度。及其成德之至也。則固心與之一。不待防範。而自得其方。故夫子稱顏子曰。其心三月不違仁。其自道曰。七十從心所欲不踰矩。曰仁。曰矩。皆道也。

事父而孝。事兄而弟者。其心和順而自無犯上作亂。悖逆爭鬪等事。此其資稟之美。本近於道。乃造道之根本也。自是而充養不已。以馴致其盛。則仁可得矣。故曰孝弟者其爲仁之本也。

不知金之可以爲刀。則孰肯淬其鋒以鑄劒哉。不知己之可以爲聖。則孰肯盡其心以造道哉。自暴自棄者之不肯入道。不知其性之善故也。孟子苦口爲人倡性善之說者。欲使人知道之所本。而有所下手也。故曰。盡其心者。知其性也。

良心之不息。其猶萌蘖之生乎。日月以炬之。雨露以潤之。則寸苗之微。可以爲千霄之鉅木矣。苟養非其地。伐不以時。則苗而不秀。秀而不實。故人之爲道。在習善以成其德。不可習非以害其心。故曰。苟得其養。無物不長。苟夫其養。無物不消。

惻隱之心者。仁之源頭也。善導之。則仁可澤天下矣。惻隱之心者。仁之根苗也。善養之。則仁可覆天下矣。於變時雍之化。亦自此心之惻隱而充焉。苟爲不然。則雖有不忍殺牛之心。而與甲兵危士臣。而不自知。故曰。舉斯心加諸彼而已。

竹之性。勁而韌。故檠之而可以爲弓。鐵之性。堅而利。故淬之而可以爲劒。牛馬之性。順而馴。故服之而可以服田駕車。人之性善。故教之。則可以成仁義禮智之德矣。故曰。人之有是四端也。猶其有四體也。有是四端。而自謂不能者。自賊者也。謂其君不能者。賊其君者也。

孟子既說四端之心。又說良知良能。非有二途也。四端就其無所爲而發者而言。良知良能。就其無所習而發者而言。皆所以示人以仁義之本在我。而使之就此以施擴充之功也。故說四端之效。曰苟能充之。足以保四海。說良知良能之效。曰親親仁也。敬長義也。無他達之天下也。其保四海。達天下者。皆仁義之極功也。

使人唯其所生。而不加之教。則雖其性之善。不能發揮。終於爲鄉人焉耳。猶雖有清泉。而不疏導。則不能施灌溉之用也。故聖人之教人。雖非復一方。其要歸使人日進于善。以成其德。達其材而已。孟子括之曰。擴而充之。或曰及。或曰推。或曰達。皆以其本性固有善心。及之于其所不能。無推而不至也。故曰。人皆有所不忍。達之其所不忍仁也。

無一夫之不得其所。仁之盛也。循其本。則此心之推也。故曰。先王有不忍人之心。斯有不忍人

之政。

人性氣質之不齊。剛柔昏明有萬不同。猶水之或東決或西流也。而其必可爲善。猶水之必就下也。非清濁之謂也。故曰人性之善也。猶水之就下也。人無有不善。水無有不下。

日爲不仁不義之事。恬不知省。是謂放心。非精爽散逸。居然坐馳之謂也。故學者用工之始。在於求所放之心。自此已上。尙有居仁由義。積累習熟之功在。故曰。仁人心也。人路也。舍其路而弗由。放其心不知求。哀哉。

心動物也。感物而遷。苟操之。則辨是非。審善惡。而不肯爲不仁不義之事。舍之則昧義理。忘廉耻。日爲不仁不義之事。而曾莫之省。時而善念萌。時而非心生。此心之不可恃。而不可不仁義以存之也。可見矣。故曰。操則存。舍則亡。出入無時。莫知其鄉。惟心之謂與。

人常謂聖人自有聖人之資。凡人自有凡人之資。而非教之所能遷變也。殊不知人之所以智愚賢不肖。相懸之遠者。本不在生稟之美惡。而專在于所習之善否如何。其所習在善則爲善人。在惡則爲惡人。若言其性之中品。則智愚賢不肖。本不甚相遠。故曰。性相近也。習相遠也。若夫最上之人。雖習于惡而不染。最下之人。雖習于善而不化。然如此等人。世不多有。而凡爲人者。皆可因習而上下。然則爲學者。不可諉于己性分之美惡。而當愼其所習。以成其德。故曰。唯上智與下愚不移。

求仁于未發之先。猶聞鐘聲於未擊之前。覓石火於未鑽之時也。可謂有其理。而無迹之可尋。聖人之言仁則不然。指及物之實以爲仁。而求其本于心。亦必驗之于已發。四端之心是也。自是已上。更不說一句。故曰。見孺子之將入於井。非所以要譽於鄉黨朋友也。非惡其聲而然。皆有怵惕惻隱之心。非所以內交於孺子之父母也。見孺子之將入井。則忽怵惕惻隱之心生。見牽牛而過堂下。則忽以羊易之之念萌。此不忍之心。人之所素具。即惻隱之心。仁之端本也。苟有以充之。則可以爲仁矣。推之羞惡辭讓是非之心。亦然。故曰。惻隱之心仁之端也。羞惡之心義之端也。辭讓之心禮之端也。是非之心智之端也。

人之於事。學而知之。慮而得之者。不可以認性之眞。不學而知者。謂之良知。不慮而得者。謂之良能。此可以見性之眞矣。如小兒之解哺乳。是也。如孝弟之心亦然。生來具足不待學習思慮。可見人性之爲善。而本非有所矯揉安排而得之也。所謂仁義者。亦非他。乃推此心而推之天下焉耳。故曰。不學而知者謂之良知。不慮而得者謂之良能。

人之性資不同。好簡者厭一瓢之歷歷。好繁者縱豁壑而無已。繁則過焉。簡則不及。過與不及。其離於中也。則一。故曰。君子擇乎中庸。

公都子非不知仁義之爲美。而疑乎性之不可以爲善。故孟子以四端之心。配之仁義禮智。以爲固有。猶以五藏配之五行。曰丙五行固乙有於我甲也。於是乎性之爲善。不辨自明。非以仁義禮智

直爲人之性也。故曰。惻隱之心仁也。羞惡之心義也。辭讓之心禮也。是非之心智也。

聖語述終

三才辨義叙

書成。名曰三才辨義。蓋自孔孟沒以來。聖賢未出于世矣。是故至於漢魏晉之諸儒。宋之周程朱。皆陷於老莊佛之說。以無形爲道。而不以陰陽爲天之道焉。以太極之詞。爲萬物之主。而無赫赫上天焉。古之聖人者。稱天謂告于皇皇上帝。或謂上天孚佑下民。或謂惟天無親。克敬惟親。孔子曰。天生德於予。又曰。獲罪於天。無所禱也。又曰。予所否者。天厭之。天厭之。孟子曰。齋戒沐浴。則可以祀上帝。蓋聖賢之觀天如斯。孰云非天地萬物父母乎。以夫太極。爲天地未判之太初及陰陽之理者。效乎莊子寓言。周子圖說也。予自弱歲疑先儒之說。既踰二紀也。幸私淑而有得之矣。雖然。今也四海之學士。專信程朱之註。而莫敢論與本經舛者。偶言焉則反求譏。此又孟子所謂猶以一杯水救一車薪之火是也。故筆之於書。以貽千歲矣。若夫欲知孔孟之道者。於此書必也有取也。罪我者亦在此書也。

正德二年春三月

日本浪華　田中允澤　叙

三才辨義目錄

卷之上

繫辭曰一陰一陽之謂道　附或曰
說卦曰立天之道曰陰與陽立地之道曰柔與剛立人之道曰仁與義
繫辭曰形而上者謂之道形而下者謂之器
詩大雅文王之篇曰上天之載無聲無臭儀刑文王萬邦作孚

卷之中

繫辭曰易有太極是生兩儀兩儀生四象四象生八卦　附歐陽子童子問或問

卷之下

論語曰子曰性相近也習相遠也
孟子曰惻隱之心仁之端也羞惡之心義之端也辭讓之心禮之端也是非之心智之端也　附或問四條

三才辨義卷上

易繫辭曰一陰一陽之謂道

韓註曰。道者何。無之稱也。無不通也。無不由也。況之曰道。寂然天體不可爲象。必有之用極。而無之功顯。故至乎神無方而易無體。而道可見矣。在陰爲無陰。陰以之生。在陽爲無陽。陽以之成。故曰一陰一陽也。孔疏曰。正義曰。一謂無也。無是虛無。虛無是大虛。不可分別。唯一而已。故以一爲無也。又曰。道雖無於陰陽。然亦不離於陰陽。陰陽雖由道成。即陰陽亦非道。故曰一陰一陽。

「辨義」註疏據丙老子曰道生一。又曰天下之物生於有。有生於無甲矣。蓋以虛無爲道也。本義曰。陰陽迭運者氣也。其理則所謂道。程子曰。離了陰陽更無道。所以陰陽者是道也。陰陽氣也。氣是形而下者。道是形而上者。則密也。一陰一陽者道也。如一闔一闢謂之變。

「辨義」宋儒之學。剖理氣立體用。以理爲體爲先爲道。以氣爲用爲後爲器。以周子所謂太極

田中允澤撰著

爲二天地之大原。萬物之理一焉。是故不下以二陰陽爲上道。而以二虛無無形之理一爲二之道一矣。葢易傳以二一陰一陽及陰與二陽一爲二天之道一。而更無二陰陽非一レ道之言一也。夫天地之間一元氣。而陰陽者是流行之氣也。萬化品類。莫下不レ由二此氣一而生者上。有二此氣一則存焉。無二此氣一則亡焉。故無二先レ氣之理一也。較然著明矣。葢一氣即爲レ陰爲レ陽。生二萬物一者。是天道之全體也。故一陰一陽之謂レ道。其義豈不レ明耶。或問焉曰。易傳不レ曰二陰陽一而謂二一陰一陽一。又曰二陰與一レ陽。一陽而又一陰。陰與レ陽迭運。而不レ同二其行一也。故不レ曰二陰陽一。而分謂二一陰一陽一。又曰二陰與一レ陽。其實則陰陽之謂也。譬如下謂二晝夜一曰二一晝一夜一焉。謂二仁義一曰中仁與上レ義焉。但其言之詳略而已。所謂一陰一陽之有レ別也。夫天有二陰陽之道一。而陰陽無二所以之理一也。然朱子大學或問曰。必有二是理一而後有二是氣一。又易本義曰。陰陽迭運者氣也。其理則所謂道。是其所二以爲一レ道者。在二陰陽之上一。而非二天非一レ地非二聖人之道一也。且繫辭之本文與二朱子之註釋一。道義齟齬不二相合一。虛實迥然不レ同也。若二氷炭之不一レ可二相容一矣。大凡學者以二程朱之說一爲レ賢二於孔孟一。而不下審二按精一明於經書之本文一。因二註解之文義一。而般下添二減聖賢之言一辭上。不レ以知レ道尙矣。是予之所二歎息一也。葢經書固說二天命之所一レ以不一レ已。而不レ說二有二天地混沌開闢一。及形氣已前之理一矣。聖人不二敢言一レ他何哉。決然無二是理一也。易彖曰。天地之道。恒久而不レ已也。日月得レ天而能久照。四時變化而能久成。觀二其所一レ恒。而天地萬物之情可レ見矣。繫辭曰。天

地之大德曰レ生。又曰。生生之曰レ易。夫浩浩六合無レ窮。無レ窮則不レ可レ測二其始一也。不レ可レ測二其始一則不レ可レ極二其終一也。晝在二乎上一。夜在二乎下一。此春ナレハ彼秋。變化無レ端。陰陽無レ始。是以悠久無レ疆矣。以二夫太極二字一。爲二天地混沌開闢之說一。其謬自レ出二於莊子之言一。以來歷代之諸儒。以レ是附二會之於易傳太極之語一。失二天地之大義一。葢二千有餘年于茲一矣。夫如二天之陰陽。人之仁義一者。至二於蠻貊之遐陬一。縱湮二滅其名一。有二天地一則爲二陰陽一者不レ可レ已焉。有レ人則爲二仁義一者不レ可レ喪焉。其不レ已不レ喪何也。確然有二實體一故也。如下彼先二天地一太極上者。謂二有是理一則虛也。謂二無是理一則實也。有焉而無二今日之用一無焉而無二毫芒之損一。其無レ用無レ損何也。寂然無二是理一故也。若夫以二太極一爲レ理。而曰二陰陽非一レ道。則殄二廢易傳所謂一陰一陽。及曰二陰與一レ陽天道之名號一。非下徒指二無レ物之理一而爲中之天道上哉。此又與二天地聖人之道一相去。何啻千萬里。葢宋儒由下未レ有二天地已上無一レ可二絲毫容添一之理一也。學者能考二經文一。通二天地之生德不一レ已。宇宙無レ窮之蘊奧一。則識得諸儒者流曰二天地有二混沌開闢一。而理是先氣是後之爲乙臆度甲。如レ視二諸掌一矣。葢宋儒欲丁排二斥於老佛異端一而使丙天下之人識乙聖人之道甲。此其尙レ道憂レ人也深。惜乎其所レ見不レ明。而鑿二于聖人之經旨一矣。是故及レ論二道之大本一。而終陷二乎虛無一。而失二其正一。所謂知者過レ之是也。宋儒以爲老佛所謂道空無。而吾所謂道聖人之實理而已矣。是以雖レ欲レ除二空無之弊一。其所レ說之理。亦同二于老佛一。而出二於天地無物之先一矣。是諺所謂逐二鹿獵者不一レ見レ山之類。而又猶二同レ浴而譏二裸裎一。故老子所謂虛無。釋氏所謂空理。

宋儒所謂無極之眞。所以之理。三者名雖異。而其所以無實體者一也。蓋老佛以爲天地萬物本生於空無。是故以仁義禮智爲大道之後而棄之。謂虛無自然者。老子也。以父子夫婦爲流轉之相而斷之。謂眞空淸淨者。釋氏也。彼其所觀小。而不識天地萬物之所以不已也。人既稟性於天。孝悌忠信備乎身。而視聽言動莫暫息也。然以空無爲道。則是違天性無君父。過于楊墨也遠矣。或問焉曰。萬物資諸天地生。已生者必死。天地安有無始終乎。曰。天地之間。無先有之無。無先氣之理矣。是故雖一艸一木。煙霞埃塵。莫不依乎形氣而生者。彼老莊宋儒所謂天地生於無生於理之說。豈非盲見哉。蓋由宇宙之無窮觀之。推于百億萬年之前。未足爲始焉。推于百億萬年之後。胡足爲終焉。夫生也者天地之本體也。易也者萬物之終始也。抑天地生而不已。萬物來而不去。則天地雖大。萬物雖小。不能有倚疊以措之。是故生生之曰易。其義粲然明矣。嚴冬迎春往。盛夏待秋退。新果熟而古葉墮。子孫生而父祖沒。雨霽雲不斷。川流水不盡。易大傳曰。天地設位。而易行乎其中矣。成性存存。道義之門。蓋天地萬物。往古來今。千億萬億。猶見今日。夫豈可以何日爲始。以何歲爲終乎。今夫四時變化而如環之無端。是天地之終始也。且予因先儒之臆說而試論之。彼所謂自天地開闢而來至數萬歲。雖然。日月不錯行。寒暑不失時。春花以春開。秋菊以秋芳。千年之松樹。一日之槿花。不改榮枯脩短。鮐背兒齒。非古有今無焉。由是觀之。天地萬古無盛衰老少之變也。無變則恒久也。斯豈非無始終之驗哉。若夫人

物草木及形化氣化者。其由既生之初。至於命數竭時。或隨日。或隨月。年年莫以不變易者。斯豈非生生不已之驗哉。如子之言者。自其變者而觀其不變者。故不能無疑也。如自其不變者而知其變者。則天地與萬物。實然偕無盡矣。當今之世知之者。其誰也。或曰。考亭以謂陰陽非道。所以陰陽者是道。非也。陰陽固非道。一陰一陽往來不已者。便是道。又曰。易一陰一陽之謂道。其各加一字於陰陽字上者。蓋所以形容夫一陰而又一陽。一陽而又一陰。往來消長。運而不已之意也。又曰。天道有流行有對待。易一陰一陽之謂道。此以流行言。立天之道。曰陰與陽。此以對待言。其實一也。

「辨義」或以一陰一陽之一字。爲陰陽流行之義。是泥一與道之字義。而不知陰陽即流行也。蓋陰陽者活氣也。四時晝夜運焉而不息。豈可待往來而後爲道哉。夫品彙對待之陰陽者。若天地日月水火之類也。無物而不有定名矣。故物與物合之爲對待也。若天之陰陽者。一氣即二名。而曰一陰一陽。或曰陰與陽。或曰陰陽。皆對待便流行。而於一字與字無餘蘊矣。是故陰陽之於對待也。在寒則爲陰。而不可見暑之對也。在暑則爲陽。而不可見寒之對也。自有天地以來。陰與陽迭行。而無毫釐之間斷。則對待流行一也。既以一陰一陽爲天之道。而又謂陰陽固非道。則論義矛盾。亦何以云異於韓孔程朱之說。辨論詳於篇首也。蓋韓孔添無於陰陽爲道。朱子添理於陰陽爲道。或添流行於陰陽爲道。皆違天道及易傳。如屋上架屋。畫蛇爲足也。凡自漢魏

以來諸儒。以無形爲道。而不知天地實體之道。蚩蚩傳誤已庶於二千載矣。是聖學之大患癡痼。不可不辨焉。

易說卦曰。昔者聖人之作易也。將以順性命之理。是以立天之道。曰陰與陽。立地之道。曰仁與義。兼三才而兩之。故易六畫而成卦。分陰分陽。迭用柔剛。故易六位而成章。

韓註曰言其形變化始於氣象而後成形。萬物資始乎天。成形乎地。故天曰陰陽。地曰柔剛也。孔疏云。正義曰。將此易卦以順從天地生成。萬物性命之理也。須在陰陽必備。是以造化闢設之時。其立天之道。有二種之氣。曰成物之陰與施生之陽也。其立地之道。有二種之形。曰順承之柔與持載之剛也。又曰。天地既立。人生其間。立人之道。有二種之性。曰愛惠之仁與斷割之義也。既備三才之道。而皆兩之。作易本順此道理。

「辨義」韓孔一陰一陽之註疏。出于前篇。

本義曰。兼三才而兩之。總言六畫。

程子曰。立天之道。曰陰與陽。立地之道。曰柔與剛。立人之道。曰仁與義。兼三才而兩之。不兩則無用。又曰。陰陽剛柔仁義。只是一个道理。

朱子曰。立天之道。曰陰與陽。是以氣言。立地之道。曰剛與柔。是以質言。立人之道。曰仁與義。是以理言。又曰。陰陽成象。天道之所以立也。剛柔成質。地道之所以立也。仁義成德。人道之所以立也。道一而已。隨事著見。故有三才之別。而於其中又各有體用之分焉。其實則一太極也。

「辨義」此章以陰與陽爲天道。以柔與剛爲地道。以仁與義爲人道。竝說三才之道。瞭焉於心目。片言隻字。莫毫忽之疑矣。蓋天者覆焉而生育萬物。故以陰與陽之氣爲道也。地載焉而生成萬物。故以柔與剛之質爲道也。人者思焉而修爲萬事。故以仁與義之心爲道也。孔子所謂非禮勿視。非禮勿聽。非禮勿言。非禮勿動。孟子所謂惻隱羞惡恭敬是非之心是也。若直指氣質心而曰道。不可也。指氣之爲陰陽。質之爲柔剛。心之爲仁義者。而曰道焉爾。天曰陰陽。地曰柔剛。人曰仁義。三才之道。所以有別者。以其體不同也。然而所以皆不出於陰陽五行之外。則一也。夫天地者氣質自然爲陰陽柔剛。而不如人事之有否塞滯礙。人者進退云爲有善惡。而不可須臾離於仁與義。若堯之誅于四凶。舜之事于瞽瞍。文王之囚於羑里。孔子之畏於匡。雖聖人不能不盡其心也。蓋氣者體之充。心之役也。心者一身之主。仁義之宅也。是故自天子以至於庶人。皆是以仁義存心。以仁義制心。由是行焉。之謂人之道也。宋儒所謂陰陽非道。所以陰陽者是道云。則可曰柔剛亦非道。仁義亦非道。所以仁義者是道乎。既以地之道名柔剛。以人之道名仁義。則安曰以天之道非陰陽。又當奚以名天道乎。凡宋儒不知吾之量。

叨測二度天地聖人一而爲レ得二其道理一矣。是猶下北レ轅適レ越者上。不レ思之甚也。學者必因二此章一而精思深索。
亹亹以通二三才之道一焉。則所謂立二天之道一曰二陰與一レ陽。與二韓孔程朱曰二陰陽非一レ道。是非虛實之相反。
如二蘭蕕黑白之易一レ分焉。須下與二一陰一陽之辨義一參校上。蓋此章有二道理二字一。道字從レ辵從レ首。所レ行道
也。孔子曰。道也者不レ可二須臾離一也。孟子曰。道若二大路一是也。稱レ道
者。雖レ有二行與一レ法之異一。咸通行踐履之義。而其實則一也。理字從レ玉從レ里。玉之文理也。蓋有レ物有
レ理。孟子所謂條理是也。道以レ所レ行。屬二之事物一言。凡道理二字。由二道
路玉石制一レ之。則其初非二無形之物一。可二亦知一也。但以二字義一求レ之。則思過半矣。古人制レ字。雖二從レ形
從レ聲有二先後定分一。至二于後世一。天人事物之字義。皆以通用也。畢竟假二道與理之字一。所下以形容夫性
命事物之本然出二於天一。而不レ可レ易不上レ可レ離也。易曰。書不レ盡レ言。言不レ盡レ意。是實至二乎天地萬物之
本體一。生化自然之妙用上。則非二文字之所一レ能盡一也。惟聖人所レ說之道理。與二天地萬物之本體一。與二吾知
之所一レ至。三者會通而無レ疑。則始可二與言一レ道已矣。

易繫辭曰。形而上者。謂二之道一。形而下者。謂二之器一。

孔疏曰。正義曰。道是無レ體之名。形是有レ質之稱。凡有從レ無而生。形由レ道而立。是先レ道而後レ形。
是道在二形之上一。形在二道之下一。故自レ形外已上者。謂二之道一也。自レ形內而下者。謂二之器一也。形雖レ處二
道器兩畔之際一。形在レ器不レ在レ道也。既有二形質一。可レ爲二器用一。故云形而下者。謂二之器一也。

「辨義」與二一陰一陽之註疏同。

本義曰。卦爻陰陽。皆形而下者。其理則道也。

程子曰。有レ形皆器也。無二形爲一レ道。

張子曰。形而上者。無二形體一。故謂二之道一。形而下者。是有二形體一。故謂二之器一。

朱子曰。形而上者。指レ理而言。形而下者。指二事物一而言。事事物物皆有二其理一。又曰。有レ道即有レ器。
有レ器須レ有レ道。又曰。可レ見底是器。不レ可レ見底是道。

「辨義」日月星辰麗二于上一者。天之形也。陰陽運行而生二萬物一者。天之道也。故易傳立二天之道一。曰二陰
與一レ陽。山嶽河海者。地之形也。柔剛相須而生二萬物一者。地之道也。故立二地之道一。曰二柔與一レ剛。身
體髮膚者。人之形也。仁義相行而脩二其身一者。人之道也。故立二人之道一。曰二仁與一レ義。如二夫韓孔程朱
之註解一。謂二陰陽形而下者一。則可レ謂二柔剛仁義一。亦形而下者哉。與二易傳之旨一乖戾。不レ俟レ論明矣。蓋
惟人萬物之靈。聖人在二其極一。以窮二盡事物性命之本然一而正設二其名一。說二其理一。立二其道一。是故孔子曰。
人能弘レ道。非二道弘一レ人。由レ此觀レ之。道者可レ爲二形之上一。而不レ可レ爲二形之先一明矣。所謂道器上下云者。
蓋道是性之德。形之用也。天地萬物以德用爲レ貴。故德爲二之上一而曰レ道。形爲二之下一而曰レ器焉。然
而道與レ形。初無二先後一。更分二一體一而說レ之。則道爲レ上。器爲レ下。道也器也。俱曰レ形者。形之外無
道理一。故曰二形ニシテ而上一。曰二形ニシテ而下一也。倘無形爲レ道。則形是無用之器。而道與レ形。截然二片也。

凡漢魏晋之諸儒。以虛無爲道者。所以從諸老子也。宋儒以無形爲理者。所以習諸釋氏也。學者先辨之。然後可以知道焉爾。程朱以陰陽爲形器。非也。陰陽既合五行。而後成形。形乃謂之器。豈可以流行之氣曰器哉。唯聖人所謂道者。有天有陰陽之道。有地有柔剛之道。有人有仁義之道是也。孟子曰。詩曰。天生蒸民。有物有則。民之秉夷。好是懿德。孔子曰。爲此詩者。其知道乎。故有物必有則。蓋聖人不以無物之先爲道也若是。宋儒所謂有道即有器。有理。便有氣。太極生陰陽。理生氣云者。皆以道理爲形氣之先。斯豈非有則有物道弘人乎。然則曰先有仁義之道。而後有人乎。又何異於老子所謂道生一。有物先天地生云者乎。如宋儒者。吾儒中之異端。所以誣先聖惑後學。無攸容罪耳。

詩大雅文王之篇曰。上天之載。無聲無臭。儀刑文王。萬邦作孚。

傳云。載事。刑法。孚信也。

箋云。天之道難知也。耳不聞聲音。鼻不聞香臭。儀法文王之事。則天下咸信而順之。疏云。上天所爲之事。無聲音。無臭味。人耳不聞其音聲。鼻不聞其香臭。其事冥冥。欲倣無由。王欲順之。但近法文王之道。則與天下萬國作信。言王用文王之道。則皆信而順之矣。

本義曰。上天之事。無聲無臭。不可得而度也。惟取法於文王。則萬邦作而信之矣。子思子曰。維天之命。於穆不已。蓋曰天之所以爲天也。於乎不顯。文王之德之純。蓋曰文王之所以爲文也。純亦不已。夫知天之所以爲天。又知文王之所以爲文。則夫與天同德者。可得而言矣。是詩首言文王在上。於昭于天。文王陟降在帝左右。而終之以此。其旨深矣。

東萊呂氏曰。呂氏春秋引此詩。以爲周公所作。味其詞意。信非周公不能作。

「辨義」箋疏既得正解矣。蓋天無聲音無香臭。則人不可聞嗅而知之也。雖然。四時之變化。日月之運行。萬古不錯。是天之誠也。是以獨文王能知天而法於天焉。今成王儀刑文王所行之道。則天下萬國。亦咸法之而作孚。蓋朱子本義雖同于古註。而於太極圖說。以無聲無臭爲無極。則是與古註其實大異也。詩所謂無聲無臭者。非言無之極及無窮之極。又非言理氣形狀之有無。但言天之所爲。無聲無臭。人難得而知。不可法而已。朱子以爲無極無形。太極有理。以理無形。復爲無極。故曰。太極本無極。上天之載無聲臭也。苟釋無聲無臭。爲無極之字義。則非以上天生化之德。爲無氣無象之事邪。蓋天地萬物渾然充塞洞徹。無闕無餘。形性自備。而更無氣外之物。夫堯舜禹湯文武周公孔子。蕩蕩天下之大聖也。天下之大聖。未嘗說無形之道理也。質諸天地而無疑矣。孟子曰。仁也者人也。合而言之道。言仁者由人而生。人者由仁而立。合仁與人。則所謂道。夫燈無膏則不生明。人非形則不爲靈。何也人而無目。則何以知五色。人而無耳。則何以知五音。人而無舌。則何以知五味。由是觀之。則道與形不可離也。蓋陰陽得天而爲體。至於日月昭回。四時變化。雲行雨施。品物流形。生生不已者。天道亦無體物而不著見者也。

人之仁義亦然。至乎入則孝。出則弟。及殺ㇾ身以成ㇾ仁。舍ㇾ生而取ㇾ義者ㇾ。事事物物。其所ㇾ爲之道。無ㇾ不ㇾ出ニ於四體言語ㇾ者ㇾ。則無形非ㇾ道也不ㇾ俟ㇾ辨矣。宋儒曰。理雖ㇾ不ㇾ雜ニ於氣ㇾ。實不ㇾ離ニ於氣ㇾ。蓋此語緣ニ實體實事ㇾ。而不ㇾ見ㇾ解也。只是佛者所謂非ㇾ空非ㇾ假中道實相之類是也。固於ニ聖人之言論ㇾ。莫ニ如ㇾ斯虛誕之理ㇾ也。彼所謂理者。譬如ㇾ映ㇾ鏡形像。浮ㇾ水月暉ㇾ。是非ニ眞體ㇾ也。虛影也。以ニ虛影ㇾ爲ニ實理ㇾ。非ニ聖學ㇾ也。異端也。朱子曰。異端虛無寂滅之教。其高過ニ於大學ㇾ而無ㇾ實。烏虖斯何謂也耶。

三才辨義卷上 終

三才辨義卷中

易繫辭曰。易有ニ太極ㇾ。是生ニ兩儀ㇾ。兩儀生ニ四象ㇾ。四象生ニ八卦ㇾ。八卦定ニ吉凶ㇾ。吉凶生ニ大業ㇾ。

韓註曰。夫有必始ニ於無ㇾ。故太極生ニ兩儀ㇾ也。太極者無稱之稱。不ㇾ可ニ得名ㇾ。取ニ有之所ㇾ極。況ニ之太極ㇾ者也。

孔疏云。正義曰。太極謂ニ天地未分之前。元氣混而爲ニ一ㇾ。即是太初太一也。故老子云。道生ニ一ㇾ。即此太極是也。謂ニ混元既分。即有ニ天地ㇾ。故曰ニ太極生ニ兩儀ㇾ。言ニ兩儀ㇾ者。指ニ其物體下與ニ四象ㇾ相對ㇾ。故曰ニ兩儀ㇾ。謂ニ兩體容儀ㇾ也。又曰。云ニ兩儀生ニ四象ㇾ者。謂ニ金木水火稟ニ天地ㇾ而有ㇾ。故云ニ兩儀生ニ四象ㇾ。土則分王ニ四季ㇾ。又地中之別。故唯云ニ四象ㇾ也。四象生ニ八卦ㇾ者。若謂ニ震木離火兌金坎水各主ニ一時ㇾ。又巽同ニ震木ㇾ。乾同ニ兌金ㇾ。加以ニ坤艮之土ㇾ。爲ニ八卦ㇾ也。」

「辨義」韓孔註疏。天地有ニ混沌開闢之說ㇾ。而非ニ聖人作ㇾ易之義ㇾ也。只斯不ㇾ過ニ世俗之妄譚ㇾ而已矣。蓋自ニ易有ニ太極ㇾ。至ニ吉凶生ニ大業ㇾ。說ニ易之卦爻有ニ至極ㇾ也。句句以明矣。特八卦定ニ吉凶ㇾ吉凶生ニ大業ㇾ

二句者。八卦既成。則所以占吉凶造事業。而非太極生天地方隅之謂也。是以曰易有太極。易字。若非指八卦。則上下之文句窒礙而不相通。如註疏本義是也。且夫易之興也。伏羲王天下也。仰觀於天文。俯察地理。近取諸身。遠取諸物。於是始作八卦。見繫辭矣。安得於未有天地陰陽五行之前。而取法於何物。當作易哉。讀者拋其技痒。由其本智而求焉。則可諭繫辭所謂太極二字。非先儒所謂混沌之一氣。及天地造化之理也。如看蒼天之日。志士其勉旃哉。

本義曰。一每生二。自然之理也。易者陰陽之變。太極者其理也。兩儀者。始爲一畫以分陰陽。四象者。次爲二畫以分太少。八卦者。次爲三畫而三才之象始備。此數言者。實聖人作易自然之次第。有不假絲毫智力而成者。畫卦揲著其序皆然。詳見序例啓蒙。

朱子曰。天地之間。只有動靜兩端循環不已。更無餘事。此之謂易。而其動其靜。必有所以動靜之理焉。是則所謂太極也。

又曰。太極十全。是具二箇善。若三百八十四爻中有善有惡。皆陰陽變化。後方有。

又曰。無極而太極。不是太極之外。別有無極。無中自有此理。無極而太極。此而字輕。無次序故也。

又曰。無極而太極。只是說無形而有理。所謂太極者。只二氣五行之理。非別有物爲太極也。

又曰。太極只是極至。更無去處了。至高至妙。至精至神。是沒去處。濂溪恐人道太極有形。故

曰無極而太極。是無之中有箇極至之理。

又曰。無極之中。萬象森列。不可謂之無矣。太極本無極。則太極之體。沖漠無朕。不可謂之有矣。

又曰。太極生陰陽。理生氣也。陰陽既生。則太極在其中。理復在氣之內也。

又曰。極是道理之極至。總天地萬物之理。便是太極。

又曰。聖人謂之太極者。所以指夫天地萬物之根也。周子因之而又謂之無極者。所以著夫無聲無臭之妙也。

饒雙峰曰。太極者蓋天理之尊號。又曰。太者大無以加之稱。

太極圖曰。無極而太極。太極動而生陽。動極而靜。靜而生陰。靜極復動。一動一靜。互爲其根。分陰分陽。兩儀立焉。又曰。無極之眞。二五之精。妙合而凝。

莊子大宗師曰。夫道在太極之先。而不爲高。在六極之下。而不爲深。先天地生。而不爲久。長於上古。而不爲老。

「辨義」從孔孟至宋末千數百歲。世既去聖賢遐。而其書雖存。而知天地人物之性者鮮矣。是故諸儒百家。習貫莊子之虛說。而非止惑易傳太極之字義。俾天下後世之學者。懵然失萬物之本原也。罪孰大於是矣。蓋朱子釋太極二字而爲理。斯猶大學釋明德二字。而爲心之異名。二者非